

広島大学の男女共同参画2014

科学技術人材育成費補助金
女性研究者養成システム改革加速事業

広大システム改革による 女性研究者活躍促進

平成26年度成果報告書

科学技術人材育成費補助金

女性研究者研究活動支援事業 (拠点型)

平成25 - 26年度成果報告書

広島大学の男女共同参画2014

科学技術人材育成費補助金
女性研究者養成システム改革加速事業

広大システム改革による
女性研究者活躍促進

～平成26年度成果報告書～

科学技術人材育成費補助金

女性研究者研究活動支援事業
(拠点型)

～平成25-26年度成果報告書～

平成27年3月

広島大学男女共同参画推進室

広島大学男女共同参画宣言

男女は、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画し、政治的、経済的、社会的及び文化的利益を等しく享受する権利を有するとともに、そのような社会をともに創り出す責務を負う。平成 11 年 6 月に公布・施行された男女共同参画社会基本法においても、男女共同参画社会の実現は、「21 世紀の我が国社会を決定する最重要課題」と位置付けられており、この方針の実現のため、平成 17 年 12 月に男女共同参画基本計画（第 2 次）が閣議決定されている。

我が国においては、日本国憲法に個人の尊重と法の下での平等がうたわれ、これまでも男女平等の実現に向けた様々な取組が、国際社会の取組とも連動しつつ進められてきた。しかし、長い歴史の中で形成された性別による差別的取扱いや固定的な社会通念は、教育・研究の分野においても様々な形態で依然として存在する。知の拠点としての大学は、知の生産のみならず次世代の教育と社会的文化的価値の創造を担う重要な機関であるがゆえに、男女の特性を認識しつつ、男女間の格差を是正し、構成員一人一人の個性と能力が十分発揮できる組織であることを示す社会的責務を有する。

広島大学は、その前身の一つである広島師範学校において明治 15 年にいち早く女子部を併設し、教育界に多くの優れた女性の人材を輩出してきた。さらに、昭和 4 年に設置された広島文理科大学においても設置当初から女子学生を受け入れ、戦前から高等教育における男女共学を実現してきた。この歴史に体现されている精神をさらに発展させ、男女共同参画の今日的課題に取り組んでいくこととしたい。

また、広島大学が目指す「世界トップレベルの特色ある総合研究大学」を実現するためにも、大学における男女の対等な参画をより一層推進することによって、個人がその個性と能力をいかに発揮できる風土を創出することが最重要課題である。

以上の観点から、広島大学は、男女共同参画基本計画（第 2 次）の趣旨を十分に踏まえつつ、次の基本方針を基に男女共同参画を推進し、男女共同参画社会の構築に積極的に寄与することを宣言する。

<基本方針>

- 1 教育・研究・就業の場における男女平等の推進
- 2 性別に基づく差別や排除を助長する制度・慣行の見直し・改善
- 3 大学運営における意思決定への男女共同参画の推進
- 4 家庭生活と教育・研究・就業とを両立させるための男女への支援
- 5 地域社会・国際社会との連携を通じての男女共同参画の推進
- 6 男女共同参画の啓発活動と教育研究の推進

平成 18 年 10 月 17 日

広島大学

目次

はじめに	1
I 広大システム改革による女性研究者活躍促進	3
1. 実施内容	4
1-1. 実施体制図	4
1-2. 実施内容図	4
1-3. ミッションステートメント	5
1-4. 女性教員採用年次計画	6
1-5. 理系女性研究者活躍促進プロジェクト	6
1-6. 平成 26 年度の計画	7
2. 女性教員の採用と昇任	8
2-1. 新規養成女性教員	8
2-2. ポストアップ	9
3. メンタリングシステム	10
3-1. メンタリングシステムの概要	10
3-2. メンター候補者アンケート	11
3-3. メンター教員一覧	13
3-4. メンター講習会	14
4. 研究支援システム	15
4-1. 女性研究者キャリアアップセミナー	15
4-2. 研究スキルアップ経費	19

5. 研究者コミュニティ支援システム	20
II 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）	21
6. 実施内容	22
6-1. 実施体制図	22
6-2. 実施内容図	22
6-3. ミッションステートメント	23
6-4. 平成26年度の計画	24
7. 女性研究活動委員会	26
7-1. 女性研究活動委員会委員	26
7-2. 開催一覧	27
8. 産学官連絡会	28
8-1. 産学官連絡会委員	28
8-2. 開催一覧	28
8-3. 議事概要	29
9. 女性の大学院生支援（キャリアスタート支援）	32
9-1. 企業訪問	32
9-2. セミナー	39
9-3. 広報誌「WR (Women Researchers) -私らしく歩む研究の道-」	41
9-4. インターンシップ	42
10. 女性の研究者支援（アドバンスト支援）	43
10-1. セミナー	43

10-2. 講演会	44
10-3. 託児サービス	45
10-4. 女性研究者による外部資金の獲得状況	45
11. 共同研究支援	46
11-1. 企業向けセミナー	46
11-2. 広島大学女性研究者研究シーズ集	46
11-3. 若手研究者シーズ発表会	47
12. 意識啓発	51
12-1. セミナー・シンポジウム	51
12-2. 広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」	58
Ⅲ 基盤整備	61
13. 男女共同参画推進体制	62
14. 男女共同参画推進室	63
14-1. 広島大学における位置づけ	63
14-2. 平成26年度のメンバー	64
15. 男女共同参画推進委員会	65
15-1. 男女共同参画推進委員会委員	65
15-2. 開催一覧	66
15-3. 男女共同参画推進委員会の目標と計画	69
15-4. 活動の指針	69
15-5. 広島大学男女共同参画基本方針	70

1 5 - 6.	男女共同参画推進委員会の「行動の目標」と「行動計画」	70
1 5 - 7.	平成 26 年度行動項目一覧表	71
1 5 - 8.	平成 26 年度重点項目	74
1 5 - 9.	各グループの実施状況	75
1 6.	仕事と子育ての両立支援	77
1 6 - 1.	学内保育園	77
1 6 - 2.	学童保育	77
1 6 - 3.	病後児保育利用料補助事業	81
1 6 - 4.	キャリア支援担当員によるキャリア相談	82
1 6 - 5.	ユビキタス研究環境の整備	82
1 6 - 6.	次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の認定... ..	83
1 7.	リーダーシップ育成と意識啓発	86
1 7 - 1.	女性研究者奨励賞	86
1 7 - 2.	教養教育科目「ジェンダーと社会」	87
1 7 - 3.	女子学生交流会 BBC	88
1 7 - 4.	女子高校生対象の体験科学講座	88
1 7 - 5.	女子高校生対象の質問・相談コーナー	90
1 7 - 6.	男女共同参画セミナー	91
1 8.	ポジティブ・アクション	93
1 8 - 1.	教員公募文書	93
1 8 - 2.	女性教員採用割合目標値及び達成度	94

18-3. 両性の意見を意思決定に反映させる仕組みに関する提言	95
19. 構成員や学生の意見	97
IV 関連資料	99
20. 広島大学における男女共同参画関連年表	100
20-1. 全学関連事項	100
20-2. 男女共同参画推進委員会関連事項	111
21. 広島県「仕事と家庭の両立支援企業」	113
22. 広島大学における女性の割合	114
22-1. 職種別, 本給表別在職状況	114
22-2. 教員における女性の割合の変遷	114
22-3. 教職員の職名別在職状況	114
22-4. 役員等	116
22-5. 全学委員会	117
22-6. 学部学生および大学院生	117
23. 平成26年度成果のまとめ	119

はじめに

平成 26 年度は、科学技術人材育成費「女性研究者養成システム改革加速」事業に広島大学の取り組みが採択されてから 5 年目の最終年度にあたります。本学では、平成 18 年に広島大学男女共同参画宣言が行われて以来、学内保育園の開園や長期休暇中の学童保育の実施、仕事と家庭の両立支援のための各種制度が整備されると共に、全学体制での男女共同参画及び女性研究者支援の推進体制が構築されてきました。特に、女性研究者の比率向上と活躍促進の取り組みは、全学体制で実施しており、平成 21 年度 4 月時点ではわずか 18 名であった本学の理工農系女性研究者数は、平成 27 年 3 月時点では 45 名に増え、人文・社会・医療系も含めた全女性教員の比率は 14.3%に達しました。この取り組みの進行状況は高く評価され、平成 24 年度に行われた「女性研究者養成システム改革加速」事業の中間評価においては S 評価を受けることができました。今後もより一層、男女共同参画及び女性研究者活躍促進の取り組みを進める必要があると考えております。

さらに、平成 25 年度から始まった「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」は、2 年目となり、この事業を通じて、両立支援や女性研究者支援を地域にも広げていく活動も行っています。

女性研究者の人数が増えることそのものには、活用されるべき人材を活用する意義や、女子学生に対するロールモデルの多様性を確保する意義など多くの意義がありますが、ただ単に人数が増えればそれでよしというわけではありません。女性研究者がその能力を存分に発揮できるような仕組みと風土づくりをさらに進めることによって、将来的には性別にかかわらず全ての研究者が、そして職員や学生など全ての構成員が、今以上に活躍できる風土を創出することに結びつける必要があると考えております。

この報告書は、「広大システム改革による女性研究者活躍促進」5 年目の取り組みと「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」の約 1 年半の取り組みを中心として、広島大学における平成 26 年度の男女共同参画推進の活動と成果をまとめたものです。広島大学の取り組みを広く知っていただき、男女共同参画について今後も皆様と共に考えてゆければ幸いです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

平成 27 年 3 月 1 日

広島大学副理事（男女共同参画担当）

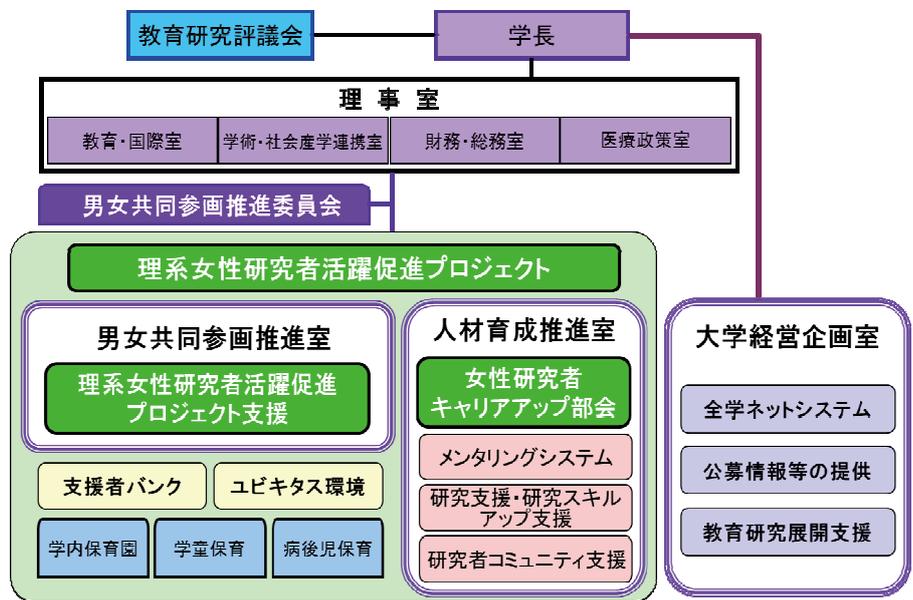
中坂 恵美子（広島大学大学院社会科学部教授）

I 広大システム改革による女性研究者活躍促進

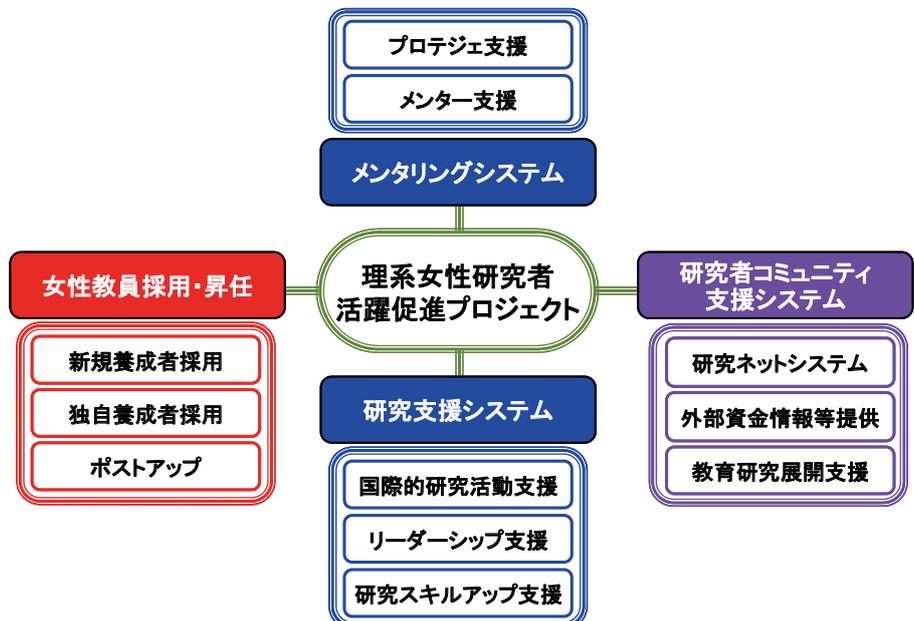
1. 実施内容

人件費ポイント全学調整分の3割程度をシステム改革分として確保し、理工農系の女性教員を採用する部局等に配分する。それにより、毎年度4名（平成26年度は4名）以上の理工農系の女性教員を採用する。5年間で理工農系研究科の女性教員数が倍増する。人材育成推進室に女性研究者キャリアアップ部会を置き、全学レベルの教員育成システム（メンタリングシステム、研究支援・研究スキルアップ支援システム、研究者コミュニティ支援システム）を構築する。男女共同参画推進室および大学経営企画室と連携して教員育成システムを推進することにより、女性教員の教育・研究における活躍が促進する。

1-1. 実施体制図



1-2. 実施内容図



1-3. ミッションステートメント

○提案課題名

広大システム改革による女性研究者活躍促進

○総括責任者名

広島大学長 浅原 利正

○提案機関名

国立大学法人 広島大学

(1) 計画構想の概要

- (1) 理工農系の女性教員数を増大し、女性研究者の活躍をさらに積極的に促進するために、人件費ポイントの全学調整分のうち 3 割程度をシステム改革分として確保し、理工農系女性教員採用のために部局等に配分する。
- (2) システム改革分のポイント配分による理工農系の女性教員採用数を、初年度は 3 名、2 年目以降は毎年度 4 名とする。
- (3) 独自養成女性研究者として、教授、准教授をそれぞれ毎年度 1 名以上採用する。
- (4) 人材育成推進室に「女性研究者キャリアアップ部門」(女性教員及び新任女性教員のメンターが所属)を置く。男女共同参画推進室および競争的資金獲得戦略室と連携して、大学教員としての資質向上の場とする。
- (5) 女性研究者のためのメンタリングシステムを構築し、プロテジェにとっては、キャリアプランニングや指導能力の向上、メンターにとっては助言能力や人脈網の向上に資する。
- (6) 女性研究者の教育・研究における活躍促進のために、研究支援・研究スキルアップ支援システムおよび研究者コミュニティ支援システムを構築する。

(2) 3 年目における具体的な目標

- (1) 理工農系の女性教員採用数が、11 名以上である。
- (2) 独自養成女性研究者として、教授、准教授をそれぞれ 3 名以上採用する。
- (3) 人材育成推進室 女性研究者キャリアアップ部門において、メンタリングシステム、研究支援・研究スキルアップ支援システム、研究者コミュニティ支援システムが稼働している。

(3) 実施期間終了時における具体的な目標

- (1) 理工農系の女性教員採用数が、19 名以上である。
- (2) 独自養成女性研究者として、教授、准教授をそれぞれ 5 名以上採用する。
- (3) 理工農系における女性教員の割合を、開始時(3.3%)に比べて、倍増(7%)する。
- (4) 全学の女性教員の割合が 14%程度となる。
- (5) 人材育成推進室 女性研究者キャリアアップ部門において、メンタリングシステム、研究支援・研究スキルアップ支援システム、研究者コミュニティ支援システムが、利用者のニーズをふまえて改善され、全学的教員育成システムとして機能している。

(4) 実施期間終了後の取組み

「人材育成推進室 女性研究者キャリアアップ部門」を、「人材育成推進室 研究者キャリアアップ部門(仮)」とする。男女にかかわらず全ての新任教員が所属する「大学教員としての資質向上の場」とし、広島大学の教職員の質のさらなる向上を図る。

(5) 期待される波及効果

採用支援分ポイントを部局等に配分することによる理工農系女性教員数の増大加速計画は、他の大学等研究機関のモデルとなりうる。また、従来型の狭い研究室内での後継者養成だけに依存しない、新しい大学教員養成の全学レベルでの仕組み構築であり、大学のシステム改革をさらに推進することにつながる。

1-4. 女性教員採用年次計画

取組内容	1年度目	2年度目	3年度目	4年度目	5年度目
女性教員の採用					
女性教員の昇任	←				→
新規養成女性研究者の養成	←				→
既在籍女性研究者のスキルアップ支援	←				→
研究者コミュニティ支援	←				→
新規養成女性研究者採用人数					
理学系	1人	1人	2人	1人	1人
工学系	1人	2人	1人	2人	2人
農学系	1人	1人	1人	1人	1人
独自養成女性研究者採用人数	4人	3人	3人	3人	3人

1-5. 理系女性研究者活躍促進プロジェクト

理工農系の女性教員採用の年次計画を策定するプロジェクトとして、平成21年11月17日に設置された。

平成26年度のメンバー構成は次のとおりである。

座長：理事（財務・総務担当）

- ・副学長（大学経営企画担当）
- ・副理事（男女共同参画担当）
- ・総合科学研究科長
- ・教育学研究科長
- ・理学研究科長
- ・先端物質科学研究科長
- ・工学研究院長
- ・生物圏科学研究科長
- ・医歯薬保健学研究院長
- ・国際協力研究科長
- ・原爆放射線医科学研究所長

1-6. 平成26年度の計画

(a) 女性教員の採用と昇任（男女共同参画推進室・女性研究者活躍促進プロジェクト支援）

- ① 「理系女性研究者活躍促進プロジェクト」の年次計画に基づき、新規養成女性教員（理学系1名，工学系2名，農学系1名）を，各部局等において公募し採用する。
- ② 独自養成女性教員を，研究分野を検討のうえ公募し，採用する。
- ③ 既存籍女性教員（理工農系）のポストアップを実施する。

(b) メンタリングシステムの実施（人材育成推進室・女性研究者キャリアアップ部会）

- ① メンター講習会を開催する。
- ② 新規養成女性教員に専門分野の異なる複数のメンター教員を配置し，メンタリングを開始する。メンターは，人材育成推進室女性研究者キャリアアップ部会に所属する。
- ③ メンター教員に，メンターのニーズに応じて補助経費を支給する。

(c) 研究支援システムの運営（人材育成推進室・女性研究者キャリアアップ部会）

- ① 新規養成女性教員に，スタートアップ研究費を支給する。
- ② 新規養成女性教員に，国際学会参加費等の研究スキルアップ経費を支給する。
- ③ 新規養成女性教員が出産・育児期等のため必要な場合，研究支援員を配置する。
- ④ 既存籍および独自養成の理工農系女性教員を対象として，学術研究会・シンポジウム開催等の研究スキルアップ経費を支給する。
- ⑤ 研究スキルアップ講習会を開催する。

(d) 研究者コミュニティ支援システムの運営

- ① 学内の女性教員・研究員，および，メンター教員をメンバーとするメーリングシステムを運営する。
- ② それぞれの研究者のニーズに合致した情報提供を行う。

2. 女性教員の採用と昇任

2-1. 新規養成女性教員

平成 26 年度は、大学院総合科学研究科、大学院理学研究科、大学院国際協力研究科、原爆放射線医科学研究所で女性限定公募を実施し、4 名の新規養成女性教員を採用した。女性研究者養成システム改革加速で採用した新規養成女性教員は、次のとおり。

採用年度	氏名	職名	所属	着任日
H22	岡村 好子	准教授	大学院先端物質科学研究科 分子生命機能科学専攻	H23. 1.1
	佐藤 友子	助教	大学院理学研究科 地球惑星システム学専攻	H23. 2.1
	加藤 亜記	助教	大学院生物圏科学研究科 附属瀬戸内圏フィールド科学 教育研究センター	H23. 2.1
H23	山村 麻理子	講師	大学院教育学研究科 数学教育学講座	H23. 4.1
	沖田 美紀	助教	大学院生物圏科学研究科 附属瀬戸内圏フィールド科学 教育研究センター	H23. 4.1
	神名 麻智	助教	大学院工学研究院 エネルギー・環境部門	H23. 6.1
	小川 由布子	助教	大学院工学研究院 社会環境空間部門	H23.10.1
H24	佐藤 明子	准教授	大学院総合科学研究科 行動科学講座	H24.4.1
	阿部 弘美	助教	大学院医歯薬保健学研究科(医) 附属医療人大学院教育・研究センター	H24.4.1
	白倉 麻耶	助教	大学院医歯薬保健学研究科(歯) 附属医療人大学院教育・研究センター	H24.5.1
	金田一 清香	助教	大学院工学研究院 社会環境空間部門	H24.6.1
	富永 依里子	助教	大学院先端物質科学研究科 量子物質科学講座	H24.8.1
H25	Maryunina Ksenia Yu (マリユニナ クセニヤ)	助教	大学院理学研究科 分子構造化学講座	H25.5.1
	富永 るみ	講師	大学院生物圏科学研究科 環境評価論講座	H25.10.1
	Villeneuve, Masumi Michelle (ヴィレヌーヴ マスミ ミシェル)	准教授	大学院総合科学研究科 環境自然科学講座	H25.10.1
	Ratna Balgis (ラトナ バルギス)	助教	大学院工学研究院 物質化学工学部門	H26.3.1

採用年度	氏名	職名	所属	着任日
H26	七種 和美	助教	大学院理学研究科 生命理学講座	H26.4.1
	長町 安希子	助教	原爆放射線医科学研究所	H26.4.1
	石原 正恵	講師	大学院国際協力研究科 開発技術講座	H26.10.1
	勝山 千恵	助教	大学院総合科学研究科 環境自然科学講座	H27.3.1

2-2. ポストアップ

平成 27 年度における教員の人件費ポイントの配分において、全学調整分のうち、女性教員採用支援として助教から准教授へのポストアップ及び准教授から教授へのポストアップについて、各 2 名分ずつ措置することになった。男女共同参画推進委員会では、このポストアップ分の教員選考を、全分野の女性教員を対象として実施することとした。ただし、応募者多数の場合は理工農系分野の女性比率が低いことに鑑み、理工農系分野からの応募者を優先することとした。

<経過>

平成 27 年 1 月 19 日の学内募集期限までに部局から 3 名の推薦があった。男女共同参画推進委員 5 名を選考委員として、ポストアップの趣旨に適合するかどうかの観点から選考を実施した。第 1 回選考委員会（平成 27 年 1 月 29 日）で候補者の書類選考を行い、第 2 回選考委員会（2 月 10 日）で候補者に対し面接を実施した。面接結果を踏まえて審議した結果、この 3 名を最終候補とすることとした。

第 44 回広島大学男女共同参画推進委員会（3 月 6 日開催）で、選考結果が承認された。

<最終候補者>

准教授へのポストアップ

	所属部署	氏名	職名
1	大学院理学研究科 地球惑星システム学講座	佐藤 友子	助教

教授へのポストアップ

	所属部署	氏名	職名
1	大学院総合科学研究科 社会文明研究講座	武田 紀子	准教授
2	大学院国際協力研究科 平和共生講座	片柳 真理	准教授

3. メンタリングシステム

3-1. メンタリングシステムの概要

(1) メンター候補者リストの作成

- ・加速事業に関する説明会・メンタリング説明会などの機会に、メンター候補者を募集する
- ・メンター候補者には、理系の女性教員だけでなく、男性の理系教員や文系の教員も含む
- ・既在籍の助教以上の理系女性教員には、できるだけ全員に登録をお願いする

(2) メンターとプロテジェ（新任女性教員）のマッチング

①プロテジェが新規養成女性研究者の場合

- ・1年目は3名、2年目以降は2名のメンターを配置する
- ・プロテジェと同じ研究分野のメンターだけでなく異なる分野のメンターも配置する

②プロテジェが①以外の新任女性研究者の場合

- ・メンターの人数・研究分野等については、柔軟に配置する

(3) メンターの仕事

- ・最低、月に1回程度のプロテジェとの面談（プロテジェのニーズを尊重）
- ・必要に応じた助言や相談
- ・メンター研修会への参加
- ・メンタリング上で生じた問題をメンタリングシステム統括者に報告・相談
- ・メンタリング経過報告書及び最終報告書の提出

(4) メンターに対する支援

- ・メンタリングに必要な費用の補助（**プロテジェが新規養成女性研究者の場合のみ**）
平成26年度はメンター1人あたり10万円を上限とする
補助対象は、プロテジェのメンタリングに必要な消耗品や参考図書の購入費用
- ・メンタリング・スキル向上のための講習・研修
- ・メンター同士の情報交換の場・相談機会の設定

◆メンターとは

仕事（教育・研究・大学運営等々）上の秘訣を教え、コーチし、ロールモデルとなり、重要な人物への紹介役を果たすことなどによって、メンタリングの受け手（プロテジェ）の自発的なキャリア発達を援助する人。

3-2. メンター候補者アンケート

メンター候補者に対するアンケート

新任女性教員のメンターになってもよいと思われる方は、是非ご記入ください。様々な事柄についてお尋ねしていますが、これらはプロテジェとメンターをコーディネートするために必要な情報です。これらの個人情報、男女共同参画推進室で厳重に管理し、メンタリング以外の用途には使用しません。

1. ご氏名 _____
2. 所属部局 _____
3. 職位 1. 教授 2. 准教授 3. 講師 4. 助教 5. その他 ()
4. 性別 1. 男性 2. 女性
5. 配偶者 1. いる 2. いない
6. 子ども 1. いる 2. いない
7. 年齢 _____ 歳
8. 広島大学での在籍年数 _____ 年
9. 専門の系・領域 (科研に応募する際の系・領域を選んで○を付けて下さい。複数回答可)
 1. 人文社会系・複合領域 2. 人文社会系・人文学 3. 人文社会系・社会科学
 4. 理工系・複合領域 5. 理工系・数物系科学 6. 理工系・化学 7. 理工系・工学
 8. 生物系・複合領域 9. 生物系・生物学 10. 生物系・農学 11. 生物系・医歯薬学
10. 専門分野 (9よりも具体的に) _____

11. 主な研究スタイル (複数選択可)
 1. 実験室実験 2. フィールド実験・調査 3. 質問紙調査 4. 文献研究
 5. その他 (具体的に _____)
12. 主な所属学会 (いくつでも可) _____

13. 留学経験 1. 有り 2. 無し

裏面に続く→

14. 広島大学に在籍するまで、どのような職場を体験されましたか（〇〇研究所、〇〇大学など）

15. ご趣味等があればお書きください

16. 連絡先

教員室の場所（部屋番号など） _____

TEL _____

E-mail _____

※ 連絡を差し上げる際は、主としてメールまたは電話を使用しますので、最も連絡が付きやすいものをご記入下さい。

17. メンタリング・システムに関するご意見・ご要望等

3-3. メンター教員一覧

平成 26 年度に採用した新規養成女性教員 4 名に対して、各 3 名、計 12 名のメンターを配置した。メンター教員は以下のとおりである。

	氏 名	所 属	専 門
1	石田 敦彦 教授	大学院総合科学研究科	生化学, 酵素化学, 神経化学, 生物分析化学
2	楯 真一 教授	大学院理学研究科	NMR 分光学, タンパク質化学, 生物物理学
3	相田 美砂子 教授	大学院理学研究科	物理化学, 理論化学, 生物物理
4	稲葉 俊哉 教授	原爆放射線医科学研究所	血液内科学, 分子生物学
5	本田 浩章 教授	原爆放射線医科学研究所	血液学, 発生生物学
6	田中 友加 准教授	大学院医歯薬保健学研究院	外科学一般, 医療系薬学
7	山田 俊弘 准教授	大学院総合科学研究科	生態学, 環境保全学
8	平川 幸子 准教授	大学院国際協力研究科	教科教育学
9	張 峻屹 教授	大学院国際協力研究科	土木計画学・交通工学
10	久我 ゆかり 教授	大学院総合科学研究科	菌根学, 菌学, 環境微生物学, 土壤微生物生態学, 植物病理学
11	中坂 恵美子 教授	大学院社会科学研究科	国際法学
12	山崎 岳 教授	大学院総合科学研究科	生化学, 基礎内分泌学

3-4. メンター講習会

(1) 第5回メンタリング研修会

○日 時 平成26年12月22日(月) 16:20~17:50

○場 所 東広島キャンパス：本部棟2階会議室
霞キャンパス：基礎・社会医学棟2階
セミナー室2(テレビ会議システムを利用)

○対 象 広島大学教職員，大学院生

○テーマ 「メンタリングのWhy、What、How –
メンターとして知っておきたい基本」
講師：小林 いづみ 先生

(日本マイクロソフト株式会社人事本部 HR マネージャー)

○内 容 メンタリングとは何か，メンターとは何をすればよいのか，メンターとして知っておきたい基礎的な知識やメンタリングの目的及び効果についての講演

○参加者 32名

○参加者の声(一部抜粋)

- 学生の指導においてもメンタリングという手法が役に立つのではないかと思います。メンタリングの具体的な方法を丁寧に説明していただいて、非常にわかりやすかったです。
- メンタリングに際して、どのような活動が有意義だったかの例を多く示してくれていたのが、とても参考になった。自分たちの関係性を見直す機会となった。
- メンターの質問力とメンターの質が重要であると思った。
- 良い質問をすることと、メンタリングの関係の締めくくり(振り返り)が最後に大切ということがわかった。



4. 研究支援システム

4-1. 女性研究者キャリアアップセミナー

(1) 女性研究者のための研究資金獲得実践セミナー

- 目的 広島大学の女性研究者・女性大学院生が、独立した研究者として、必要な研究費を獲得するためのノウハウをワークショップを通して学ぶもの
- 対象 本学女性研究者
(勤務形態・職位は問わない)、
本学女性大学院生（博士課程後期以上）



【第1回】平成26年7月28日（月）14:00～17:00

場所：東広島キャンパス 本部棟4階会議室

霞キャンパス 歯学部小会議室（テレビ会議システムを利用）

内容：申請書の書き上げ方のワークショップ（応募用に作成した申請書を持参）

講師：升島 努 先生

（独立行政法人理化学研究所 生命システム研究センター
一細胞質量分析研究チームリーダー）

【第2回】平成26年8月18日（月）14:00～17:00

場所：東広島キャンパス 学士会館2階・会議室1

内容：申請書完成までのワークショップ

- 参加者 第1回 9名（東広島：7名、霞：2名）
第2回 8名

○参加者の声（一部抜粋）

- 初めて科研費に応募するため、審査のシステムから申請書の書き方まで大変参考になった。
- 多くの研究費を採択し、理想を持って研究されてきた先生に研究費の書き方や意見をいただける貴重な機会だと思う。広島大学だからこそ身につけないといけない能力など、ほかの先生にないことを学べたと感じた。
- 応募書類の書き方（図の使い方、文字の効果など）について大変参考になった。また、個別に面談してもらい書類の具体的なコメントを頂けた。
- 科研費の中でも、若手向けのものや採択率の良し悪し等、科研費の基本的な仕組みを知れて良かった。研究テーマの独自性がいかに重要であるかよくわかった。
- 先生の熱い思いが伝わって研究に対する心構えを再認識できた。
- 科研の審査の仕組みが分かった。また、書き方のポイントが分かった。



(2) 英語プレゼンテーションスキルを高めるセミナー

- 日 時 ①平成 26 年 11 月 15 日 (土) 13:30~15:30
②平成 26 年 11 月 16 日 (日) 13:30~15:30
- 場 所 ①東広島キャンパス 本部棟 4 階会議室
②霞キャンパス 広仁会館中会議室
- 講 師 エダンス グループ ジャパン株式会社
- 対 象 これから英語でのプレゼンテーションを考えている広島大学の教職員 (大学院生の参加も可)
- 内 容 講義 (90 分), サンプルプレゼンテーション (20 分), 質疑応答 (10 分)
- 目 的 英語プレゼンテーションのスキルアップを目指す
- 参加者 ① 28 名
② 31 名



(3) 女性研究者キャリアアップセミナー「広島大学女性研究者スキルアップ交流会」

○日 時 平成 27 年 2 月 27 日 (金) 14:30~16:30

○場 所 東広島キャンパス
学生会館 1 階レストラン La Boheme
(ラ・ボエーム)

○講 話 「広島大学における女性研究者の活躍」
三浦 道子 教授
(大学院先端物質科学研究科,
広島大学女性研究活動委員会 委員長)

○目 的 広島大学における女性研究者の研究
コミュニティとネットワークの強化を目的
として実施。今回は、先端物質科学研究科の
三浦道子教授に女性研究者のロールモデルとしてご講演いただいた後、
交流会にて女性研究者・女性院生も含めた情報交換ネットワークづくり
を行った。

○参加者 〈セミナー〉 33 名 〈交流会〉 26 名

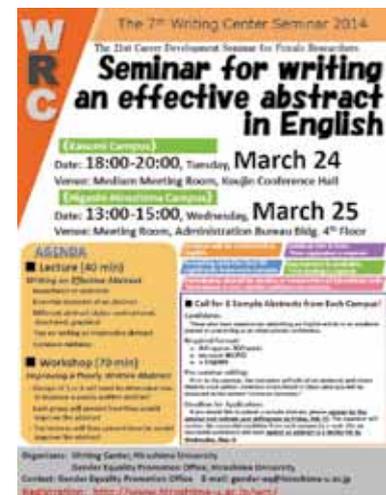
○参加者の声

- 共存社会に向けて、男性も女性もフレキシブルに働ける制度がある社会に変化していくと良いと感じた。
- 素晴らしいお話でした。競争で戦ってきた上での共生の話で説得力も違いました。
- 自分に足かせをかけず、夢を忘れずに生きていきたいと思いました。
- 一歩ずつでも前に進むように研究を続ける必要があると痛感した。



(4) 英語論文アブストラクトの書き方セミナー

- 日 時 ① 平成 27 年 3 月 24 日 (火) 18:00~20:00
 ② 平成 27 年 3 月 25 日 (水) 13:00~15:00
- 場 所 ① 霞キャンパス 広仁会館中会議室
 ② 東広島キャンパス 本部棟 4 階会議室
- 講 師 エダンス グループ ジャパン株式会社
- 対 象 英文ジャーナル投稿または国際学会で発表経験がある研究者又は博士課程後期学生
- 内 容 講義 (40 分)
 『効果的な英語論文アブストラクトの執筆方法』
 ワークショップ (70 分)
 『アブストラクトを向上させる』
- 目 的 論文作成のスキルアップを目指す
- 参加者 (3 月 1 日時点での申込者数)
 ① 18 名
 ② 14 名



4-2. 研究スキルアップ経費

平成 27 年 3 月 1 日現在で、理工農系の女性教員は、既在籍女性教員 25 名、新規養成女性教員 20 名の計 45 名である。この 45 名に対し、研究スキルアップ経費を補助することとした。

本年度の研究スキルアップ経費補助の実績（使用予定含む）は以下のとおりである。

申請人数：13 名	
申請件数：20 件	
(内訳)	
国際学会・シンポジウム等参加関連：	8 件
英文校閲費用：	12 件
計	20 件(平成 27 年 3 月 1 日現在)

<スキルアップにつながった点（出張概要の記録より一部を抜粋）>

- 本出張により、①出張期間中に発表した研究成果の具体的な議論、②研究目的の打ち出し方、③今後の別の半導体材料への研究展開、④新しい共同研究の着手・打合せと 4 つの成果を得た。
- 発表においては結果に対する生物学的な視点からの重要性について議論することができ、構造から機能への議論を展開することができた。
- この学会に参加することで、ユニークな診断法や治療法などを見つける方法を相談し、多くの情報を頂いた。
- 情報収集や意見交換において、塩化物イオンによる劣化現象の予測手法について様々な最新の手法に関する情報を得た。これらの知見を今後の自らの研究に活かしていきたい。
- 成果発表や他の講演への質問を通して、新たな知見を得た。また、これらの活動を通して、複数の研究者との共同研究の可能性について模索した。
- 本学会に参加し、様々な分野の研究者から情報を得て、また議論することにより、これまでの自身の研究のみならず、新たな研究の展開が期待でき、研究者としてのスキルアップに繋がったといえる。

5. 研究者コミュニティ支援システム

大学経営企画室において、女性教員が、研究を進め、また各種外部資金の情報を得やすくするための基盤環境整備を進めた。

(1) メーリングリストの運営

- [1] 本学の女性教員・研究員をメンバーとするメーリングリストを、教員の異動にあわせ、更新した。女性教員・研究者を対象としたお知らせの送信に役立っている。また、メンター教員もメンバーとして加え、男性のメンター教員にも同じ情報が届くようにした。
- [2] 女性の大学院生をメンバーとするメーリングリストを活用し、セミナーの開催等の情報をピンポイントで提供している。

(2) 外部資金情報ポータルの拡充

本学の学内限定ポータルサイト「全学情報共有基盤システム いろは」の、外部資金情報ポータルを拡充した。「注目情報」欄を作成し、注目すべき情報が学内の研究者に届きやすくなるように工夫した。「採択情報」欄を作成し、本学構成員の各種資金への採択状況を知らせるように工夫した。また、各種外部資金に関連する学内公募情報を集約する欄を作成し、本学構成員に通知がより浸透しやすくなるようにした。

(3) 女性研究者向け研究助成金制度一覧

本学の男女共同参画推進室のホームページに、女性研究者に特化した研究助成金制度の情報を掲載し、更新している。

(4) 羽ばたけ日本の女性研究者へのリンク

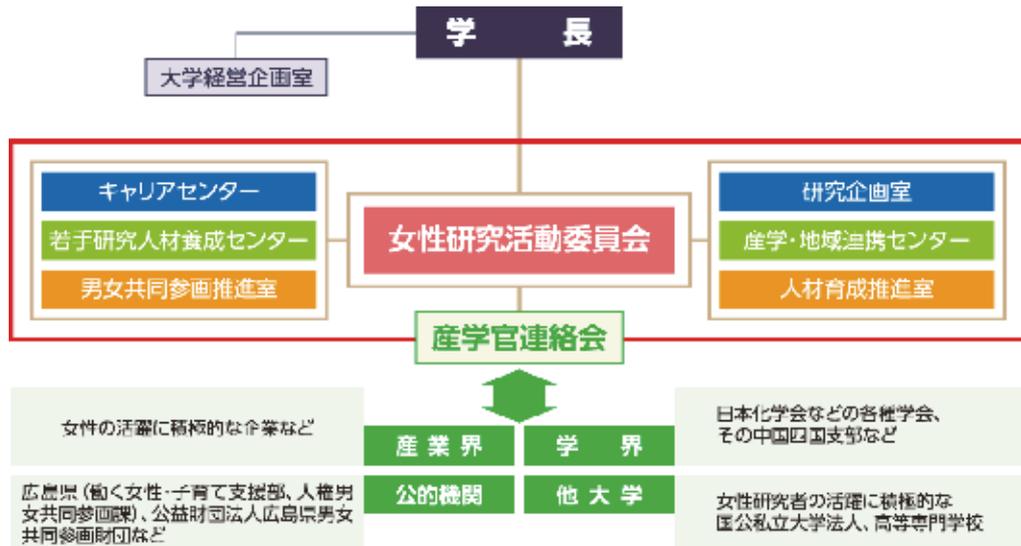
女性研究者総覧「羽ばたけ日本の女性研究者」（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構で構築）に、本学の男女共同参画推進室のホームページからリンクを張り、本学の女性研究者にこの総覧に登録するよう働きかけている。

Ⅱ 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

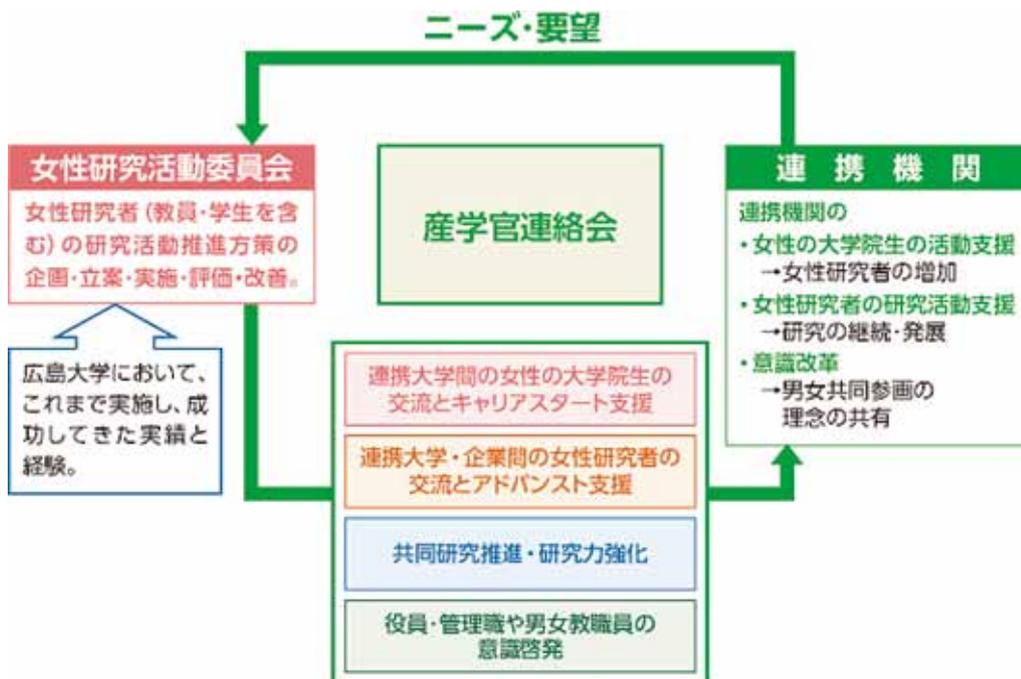
6. 実施内容

女性研究活動委員会を中心に、学内のさまざまな組織と連携しながら、研究活動推進の企画・立案・実施・評価・改善を行う。また、女性研究活動委員会のもとに設置した産学官連絡会を通して、外部の産業界・学界・公的機関・他大学等との連携を図り、女性研究者の研究活動をさらに支援していく。

6-1. 実施体制図



6-2. 実施内容図



6-3. ミッションステートメント

○事業名称

女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

○総括責任者名

広島大学長 浅原 利正

○提案機関名

国立大学法人 広島大学

1. 事業目的

我が国の女性研究者の数の増加と、女性研究者の研究力のさらなる向上に資するため、主として中国四国地方の国公立大学法人等、公的機関及び企業体との連携を強化し、女性研究者研究活動支援の取組の他機関への普及を推進する。本学及び連携機関に所属する女性の大学院生を対象としたキャリアスタート支援や、女性研究者や管理職等を対象としたアドバンスト支援、また、女性研究者の共同研究支援等を推進するために、本学において、女性研究活動委員会を全学委員会として設置し、活動する。また、他機関連携を強力に推進するために、本委員会に、産学官連絡会を設置し、産学官の連携を具体的に進める場とする。

2. 達成目標

(1) 女性研究者の支援活動の普及状況

(1) - 1. 本学における普及

女性研究者数に関しては、本学では、第二期中期目標・中間計画において、取組終了時である平成27年度までに女性教員の割合を14%程度にすることを明確な目標として定め、そのために、女性教員の採用割合の目標値を各部局ごとに設定している。すなわち、総合科学研究科、文学研究科、教育学研究科、社会科学研究科、国際協力研究科、法務研究科、病院の各部局においては30%、医歯薬保健学研究院のうち旧保健学研究科は50%、同じく旧医歯薬学総合研究科は27%、原爆放射線医科学研究所27%、生物圏科学研究科26%、理学研究科17%、工学研究科12%、先端物質科学研究科6%、人文社会系センター等30%、自然科学系センター等25%である。これらの数値目標を取組終了時には達成できていることを目標とする。なお、本学は人件費ポイント制を導入しているため、職位別の人数が決まっていない。したがって、職位別の採用割合や在籍割合についての目標値は設定できない。

女性研究者の研究業績に関しては、若手研究者に関しては企業との共同研究実施率が、毎年、前年度より上昇することを目標とする。また、シニアの女性研究者に関しては、期間内に大型のプロジェクト研究が開始することを目標とする。

(1) - 2. 連携機関への普及

「女性研究活動委員会」のもとに設置する「産学官連絡会」のメンバー企業の数、3年間で30以上となることを、本事業の目標とする。

現在、本学は四大学（山口大学、福山大学、広島工業大学、広島国際大学）及び一企業（株式会社サタケ）との連携が確定している。これらの機関は、いずれも女性研究者の採用増加に取り組んでいるので、本学は、各機関がそれぞれの目標達成をできるように支援をしてゆく。

それ以外の、今後連携をすすめていく機関に関しては、取組終了時には以前に比して在籍女性比率又は在籍女性数が増加することを目標とする。

6-4. 平成26年度の計画

○取組期間における女性研究者在職者数，在職比率，採用比率

	在職者数 (助教以下)	在職者数 (講師・准教授以上)	在職者数計	在職比率	採用比率
平成24年 5月1日現在	81	116	197	12.9%	26%
1年目	79	128	207	13.8% (13.2%)	39%
2年目	80	138	218	14.3% (13.6%)	27%
3年目	(79)	(134)	(213)	(14.0%)	26%

※1年目および2年目の欄は，当該年の5月1日を基準日とした数値である。

在職比率の（ ）内は，当初計画の数値である。

採用比率について，1年目は平成25年度全体の，2年目は平成27年3月1日現在の数値である。

3年目の欄は，（ ）内に，当初計画を記載している。

1. 運営体制

- ・女性研究者（教員及び大学院生を含む）の研究活動における活躍を支援し，新たな独創的・学際的研究を推進すること，我が国における女性研究者のさらなる活躍促進に資することを目的として，全学委員会として設置した「女性研究活動委員会」において，取組みを推進する。委員長は学長が任命した女性教授であり，教育研究評議会の評議員となっている。同委員会の取組を全学で推進する。また，同委員会に設置した「産学官連絡会」を通じて，学内における取組と他機関連携の取組を効果的に進める。これらの取組の推進を支援する者として事業推進員を配置する。
- ・霞キャンパス（広島市内）に置いた拠点において，他機関との連携を進める。
- ・独自ホームページを通じて，本事業を学内外に周知する。

2. キャリアスタート支援

- ・社会で活躍する女性人材の裾野を広げ，候補者を増やすことを目的として，本学だけでなく連携大学の女性の大学院生を対象とした意識啓発セミナーや企業セミナーを開催し，また，企業訪問を実施する。
- ・女性の大学院生を対象としたインターンシップのためのマッチングを実施する。
- ・学生の意識啓発を目的として，小冊子等を作成し，広く配布する。

3. アドバンスト支援

- ・大学や企業研究所における女性の上位職の割合はまだ低いことから，アドバンスト支援の一環として，専門家を招聘し，本学及び連携機関の幹部等を対象とした意識啓発セミナーや，女性の教授や管理職対象のマネジメントセミナーを開催する。
- ・学内外の意識啓発を目的として設けた「広島大学女性活躍促進賞」の授与候補者を選定

し、賞を授与する。

- ・女性研究者に係る外部資金の情報通知及び申請する際のバックアップ支援を行う。

4. 共同研究支援

- ・女性研究者の企業等との共同研究を推進し、女性研究者の研究の幅の拡大を図ることを目的として、イノベーションセミナーを企画する。また、企業等とのマッチングを継続し、共同研究を開始する。その際、遠距離にある機関に所属する研究者との共同研究を効果的に推進するために必要な支援を行う。
- ・女性研究者の大型研究プロジェクト構築を進めるために、研究活動支援者（URA）を配置する。

5. 他機関連携

- ・主として中国四国地域の国公立大学法人等や企業等との連携を進める。また、より良い取組としていくための参考とするために、広域シンポジウム等に参加し情報収集を行う。
- ・本学の若手研究人材養成センターの連携企業及び産学官連携推進研究協力会の会員企業等との連携を進め、本取組の浸透を図り、本事業の連携機関を拡大する。
- ・産学官連絡会を四半期に1回程度開催し、取組の効果的な推進と浸透を図る。
- ・セミナー等開催の場合、必要に応じ、託児サービスを実施する。

7. 女性研究活動委員会

7-1. 女性研究活動委員会委員

委員長： 三浦 道子（先端物質科学研究科教授）

実施責任者： 相田 美砂子（理学研究科教授，副学長（大学経営企画担当））

女性賞の設立担当

	氏名	所属・職名
①	中坂 恵美子	社会科学研究科教授，副理事（男女共同参画担当）
2	古賀 信吉	教育学研究科教授
3	田中 純子	医歯薬保健学研究院教授

現状分析担当

	氏名	所属・職名
①	日高 洋	理学研究科教授
2	角屋 豊	先端物質科学研究科教授

意識啓発セミナー担当

	氏名	所属・職名
①	太田 茂	医歯薬保健学研究院教授，副理事（研究企画担当）
2	斎藤 祐見子	総合科学研究科教授
3	江坂 宗春	生物圏科学研究科教授，副学長（学生支援担当）

提言担当

	氏名	所属・職名
①	森永 康子	教育学研究科教授
2	坂田 桐子	総合科学研究科教授

※ ○印は各分科会の座長を示す。

7-2. 開催一覧

2013年	第1回 10月3日(木)
2014年	第2回 1月15日(水)
	第3回 2月10日(月)
	第4回 3月4日(火)
	第5回 4月30日(水)
	第6回 6月24日(火)
	第7回 8月27日(水)
	第8回 10月20日(月)
	平成26年度 女性活躍促進賞選考委員会 10月27日(月)
	第9回 12月3日(水)
	2015年
第11回 3月16日(月)	

運営事務局

学術・社会産学連携室 研究企画室

8. 産学官連絡会

8-1. 産学官連絡会委員

中国四国地方の産学官が協同し、具体的に活動する場として、産学官連絡会を設置した。連携機関のニーズや要望をくみ上げながら、さまざまな取組を実施していく。

産学官連絡会メンバーは次のとおり。

	氏名	所属
①	藤本 茂文	副理事（社会連携担当）
2	青山 恵子	副理事（研究連携担当）
3	太田 茂	副理事（研究企画担当）
4	江坂 宗春	副学長（学生支援担当） グローバルキャリアデザインセンター センター長
5	相田 美砂子	副学長（大学経営企画担当） グローバルキャリアデザインセンター 副センター長
6	中坂 恵美子	副理事（男女共同参画担当） 男女共同参画推進室長

※ ○印は座長を示す。

8-2. 開催一覧

平成25年度から、計4回実施し、広島県、広島市、東広島市、公益財団法人広島県男女共同参画財団、医療法人機関、大学等教育機関6校、企業8社、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が参加している。

1. 第1回産学官連絡会

日時：平成25年11月16日（土） 10：30～11：30

場所：広島大学学士会館 2F レセプションホール（東広島キャンパス）

※終了後、ランチ交流会（学士会館1階 La Boheme） 11：30～12：20

2. 第2回産学官連絡会

日時：平成26年2月8日（土） 10：30～11：30

場所：エソール広島 2階会議室

※終了後、ランチミーティング（エソール広島 2階） 11：30～12：30

3. 第3回産学官連絡会

日時：平成26年7月18日（金） 10：30～11：30

場所：県立広島大学 サテライトキャンパスひろしま 6F

※終了後、ランチミーティング

（県立広島大学 サテライトキャンパスひろしま 6F） 11：30～12：30

4. 第4回産学官連絡会

日時：平成27年3月13日（金） 13：30～14：30

場所：エソール広島 2F

※終了後、ティータイム交流会

（エソール広島 2F） 14：30～15：00

8-3. 議事概要

1. 第1回産学官連絡会

○事業説明

○参加者自己紹介

○平成25年度実施予定内容

(1)独自 HP の開設

(2)セミナーの開催

(3)小冊子（主として女性の学生対象）

(4)企業訪問

(5)アドバンスト支援

(6)共同研究の推進

(7)セミナー等の際の託児サービス

○意見交換

・本事業の意義や目的について

広島大学では平成17年度から、男女共同参画推進の取組を実施してきた。

本事業は、その取組を他機関にも広げることが目的としている。

そのために、とくに、女性の大学院生が企業で活躍することの支援、女性研究者の共同研究の推進、および、幹部層への意識啓発を重点的に進める。

本事業が終了する3年後には、広島大学だけでなく、周囲の機関において、さらに男女共同参画が根付いているような活動を進めていく。

・独自 HP について

広島大学と参加機関の意思疎通ができるような場に。

・小冊子（主として女性の学生対象）について

市や県で、女性の学生対象の取組など、配布の機会がある場合に配布していただく。

- ・企業訪問について
他大学からの参加も可能。
その場合、できるだけ参加学生の負担を少なくする形で実施する。

2. 第2回産学官連絡会

○平成25年度 進捗状況

- (1)独自 HP
- (2)セミナーの開催
- (3)小冊子（主として女性の学生対象）
- (4)企業訪問
- (5)アドバンスト支援
- (6)共同研究の推進
- (7)セミナー等の際の託児サービス

企業訪問については、開催について参加企業に呼びかけた。

数社から、企業見学、女性研究者とのディスカッションについて可能、との回答があり、年度内の開催に向けて調整を行うことになった。

○平成26年度実施予定内容

- (1)産学官連絡会の開催
- (2)セミナーの開催
- (3)企業訪問
- (4)女性の大学院生の企業へのインターンシップ
- (5)アドバンスト支援
- (6)共同研究の推進

○意見交換

- ・官公庁からは、女性の就労支援を考えるのに、産学官連絡会で企業の声を聴くことができるのは、非常に良い、行政として地元企業と学生をつなげる役割を担いたい等の意見があった。
- ・企業からは、女性が働くための制度が整ってきているので、働く女性の選択肢が広がり、女性が活躍できる環境に改善されているとの意見があった。
また、女性社員の多い企業からは、例えば育児休暇中の支援等には、女性のみでなく男性社員の理解が必要、との意見もあった。
- ・大学等教育機関からは、女性の学生のための環境整備や教員の意識改革を図り、女性研究者の育成についても、取組を始めている等の意見があった。

3. 第3回産学官連絡会

○参加者自己紹介

○平成25年度 進捗状況

- (1)独自 HP
- (2)セミナーの開催

(3)小冊子（主として女性の学生対象）

(4)企業訪問

(5)アドバンスト支援

(6)共同研究の推進

(7)セミナー等の際の託児サービス

企業訪問について、開催企業から、開催時期が学生の就職活動の時期と重ならないほうがよいのでは、との意見があった。また、他の開催企業からは、女性研究者とのディスカッションは、お互いに有意義な取組だったとの感想をいただいた。

○平成 26 年度実施予定内容

(1)産学官連絡会の開催

(2)セミナーの開催（キャリアスタート支援）

(3)企業訪問

(4)女性の大学院生の企業へのインターンシップ

(5)アドバンスト支援

①意識啓発セミナー

②第 2 回広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」公募

(6)共同研究の推進

○意見交換

- ・官公庁からは、女性の活躍促進に関する活動について報告があった。
広島市：経済団体を中心に、国、広島県、県内市町が「働く女性応援隊ひろしま」を結成。企業、特に経営者の意識啓発を目的とした女性の活躍促進シンポジウム等を開催。
東広島市：(株)サタケと共同で、ワークライフバランスについての記事を掲載。
- ・企業からは、特に女性学生についてのインターンシップの受入れ状況、大学との共同研究等について現状をうかがった。
- ・大学等教育機関からは、各校における女性の学生や教員の割合、インターンシップについて現状をうかがった。
- ・各機関からの意見、報告を踏まえ、相田副学長より、女性の院生が増えてきているが、女性の院生の活躍の場が広がっていない。特に、女性の院生へ、多様なキャリアパスがあることを示していく仕掛けが必要、と提言があった。
- ・JST から、企業訪問についてよい企画なので参加者の増加を目指して欲しい、共同研究についてシーズ発表会などを通じて、シニア研究者を含めて、共同研究を進めて欲しいと提言があった。

9. 女性の大学院生支援（キャリアスタート支援）

9-1. 企業訪問

女性が活躍する様々な企業を訪問し、女性研究者とのディスカッションなどを経験することで、研究者を目指す女性の大学院生のキャリアスタートを支援する。

実施内容は次のとおり。

1. 平成25年度

○オタフクソース株式会社

日時：平成26年2月21日（金）14：00～16：30

内容：会社情報・働き方の説明

卒業生とのディスカッション

（商品開発本部 研究室 マネージャー 片貝 由香里さん）

工場・お好み焼き館の見学

参加者：5名

参加者の声（一部抜粋）

- 研究というと、男性のイメージが強いが、女性研究者がチームを引っ張っていることを聞き、研究への意欲が高まった。
- 企業で働く研究者の生の声を聴くことができ、とても参考になった。
- 実際に商品を開発する現場に立ち会うことができ、将来こういうところで働きたいなという実感がわいた。
- 見学会の時期について、論文の発表準備などで忙しい時期だったので、もう少し時間に余裕のある時期の開催だとありがたい。



（ディスカッションの様子）



（工場見学の様子）

○株式会社サタケ

日時：平成26年3月19日（水）13：30～15：30

内容：会社・工場見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：6名（内他機関からの参加者4名）

参加者の声（一部抜粋）

- 会社のサポートがあり働きやすそう。男性と平等に働くことができそう。
- 結婚・出産において、サタケさんでのサポートが充実していることを、実際に女性から聞いたことで、信頼がより大きくなった。
- 女性に対する働きやすい環境（育児の配慮）があるからこそ、仕事に集中することができるのではないかと思う。
- 女性社員の声を聞いて良かった。会社説明会とはまた違った視点から見ることができ、とても良かった。



(研究紹介の様子)



(会社見学の様子)

○三菱レイヨン株式会社

日時：平成26年3月27日（木）13：30～16：30

内容：工場・施設見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：8名（内他機関からの参加者3名）

参加者の声（一部抜粋）

- 女性であるということは、企業で研究者、技術者として働く上ではあまり関係ないと感じた。
- 自分の専門性を活かして仕事をされているからか、生き生きと働いているように見え、私も、専門に近い職に就くことができるかわからないが、働き甲斐のある仕事に就きたいと感じた。
- 女性の研究者の方と実際に会ってお話する機会がなかったので、有意義な企業見学会だった。
- 就業しながら大学などでの勉強する機会も与えられている企業で、社員の一層のレベルアップが期待できるシステムだと思った。



(施設見学の様子)

2. 平成26年度

○株式会社サタケ

日時：平成26年11月27日（木）13：30～15：30

内容：会社・工場見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：9名

参加者の声（一部抜粋）

- 女性が職場で活躍している様子を実際に見ることができ、今後の就活の参考になった。
- 企業の中で、思っていたよりも多くの女性が働いているのを見て、少し驚いた。
- 今回は農業機械系の企業だったが、自分の専門である化学分析等も行っていたので、就職先の選択肢の一つとしたいと思った。
- コミュニケーション能力、語学力、理解力というのは、やはり社会において重要とされるものであり、改めてそれを意識することができたし、これからのスキルアップに意欲を持つと思った。
- 一つ一つの研究室や、施設を細かく説明していただき、イメージだけで終わることがなかったのでよかった。
- 見学時に、突発的な質問にも気さくに答えていただき、多くのことを学ぶことができた。女性研究者、ということにこだわらず、このような企業見学が大学でもっと広く認識されたらよいなと思った。



(工場見学の様子)



(ディスカッションの様子)

○湧永製薬株式会社

日時：平成26年12月1日（月）14：00～16：00

内容：会社説明・工場見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：13名

参加者の声（一部抜粋）

- 今後の研究や、就職活動を行うにあたって、視野を広めること、企業で研究することと大学で研究することが具体的にどう違うのか理解することが大事だと思った。
- 実際に女性研究者の方からお話を聞いたことで、企業での研究がどういうものなのか、イメージが少し明確になった。
- 大手の企業に比べて、小規模で研究開発を行っているが、だからこそ大きな仕事を任せられ、やりがいを感じているということを知り興味があった。
- 直接仕事についてのお話を聞くことができ、とても充実した研究活動が伝わってきたのでよかった。
- 結婚、出産を経験されている女性の方も、復帰後、以前と同じように働いておられることを知り、とても安心した。男女の差もなく、研究に熱心に取り組まれている姿を見て、同じように働きたいと思った。



(施設見学の様子)



(ディスカッションの様子)

○三菱レイヨン株式会社

日時：平成26年12月3日（水）13：30～16：30

内容：工場・施設見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：10名

参加者の声（一部抜粋）

- 研究者としてだけでなく、家庭との両立ができている方も多く、あこがれを感じたと同時に企業の環境の良さも感じられた。
- 想像していたよりも多くの女性が研究職につかれています。驚いた。育休や産休、家庭との両立などされている方も多かったので将来の不安が解消できた。
- 今の研究を大切にしようという強いモチベーションになった。
- 就職で研究職を考えていたため、現場の研究員の方のお話を聞いて大変面白かった。
- 座談会のようなスタイルで、とても話しやすかった。
- 一つの話題に対して、いろいろな方のお話が聴けて、貴重な経験だった。
- 将来自分が仕事に就くイメージが浮かびやすくなった。
- 企業での研究もやりがいがありそうと思った。
- 今までは自分の専門分野の職業しか考えていなかったが、専攻が違ってもあきらめなくてよいことが分った。



(ディスカッションの様子)



(集合写真)

○マツダ株式会社

日時：平成27年2月23日（月）13：30～16：00

内容：ミュージアム・工場見学

女性エンジニアとのディスカッション

参加者：15名

参加者の声（一部抜粋）

- 実際に活躍されている女性の声を聞くことができよかった。
- 研究のことだけではなく、女性研究者としての働き方についても知ることができて参考になった。
- 昔から車好きで自動車メーカー勤務が夢だったが、「車社会は男が多い」「車関係は男の仕事」といったイメージが少しあり、かなわない夢かなと思っていたが、今回の企業訪問でとても勇気づけられた。
- 少人数のグループでの座談会は、話しやすく本当にありがたかった。
- 生き生きと語られている姿を見て、研究者になりたいという気持ちが強くなった。
- 車の製造工程をリアルに見ることができ、それぞれの工程に様々な方が関わっていることを知ることができた。研究のことだけではなく、女性研究者としての働き方についても知ることができて参考になった。
- 育児や家庭の仕事をこなしながら、技術職をこなし、キャリアアップを進めていく姿に感動した。
- 自分の意思を持った方が多く、自分の人生を自分の力で切り開いていこうという雰囲気を感じた。とても共感できた。



9-2. セミナー

女性の若手研究者および大学院生を対象として、英語論文の作成を支援するためのライティングセミナーや、研究者としてのキャリアデザインを考える講演やセミナーを実施した。

1. 英語論文ライティングセミナー

日 時：平成25年11月16日（土）14：40～17：10

会 場：広島大学 東広島キャンパス 理学部 B 棟 301 室

講 師：エダンズグループジャパン株式会社 Jeffrey Robens 氏

対 象：日本語での論文投稿経験があり、これから海外への論文投稿を考えている女性研究者又は大学院生。 ※セミナーは英語で実施

参加者：54名（連携機関として、福山大学及び山口大学からの参加者含む）

プログラム：

Session 1：講義 30分＋Exercises 10分

1-1 Academic publishing

1-2 Journal selection

1-3 Exercises

（休憩：10分）

Session 2：講義 30分＋Exercises 20分

2-1 Titles and abstracts

2-2 Manuscript structure

2-3 Exercises

（休憩：10分）

Session 3：講義 30分＋Exercises 20分

3-1 Effective writing

3-2 Cover letters

3-3 Peer review

3-4 Exercises

参加者の声（一部抜粋）

- 自身の研究成果を世界に発信する上で、Section3（効果的な書き方・カバーレター・査読について）では、わかりやすい英語表現を使うこと、カバーレター、レスポンスレターの書き方が重要になることを認識できた。
- 構造的に書く方法を教えていただき、日本語で書く時にも役立つ感じがして参加して良かった。
- これまでに読んだ論文の構成がどうなっていたのかが分かり、何をどのポイントで書くべきかも分かり、大変有意義でした。
- 専攻分野にとらわれない、ライティングに関して重要な内容を勉強できたのでよかった。



- 知らない投稿文献の検索サイトを教えてもらえたり、文献引用時文章をどのように変えるか等、非常に参考になった。

2. 公益社団法人 日本工学教育協会 中国・四国工学教育協会
ワークショップ I

オーガナイズドセッション「ダイバーシティの観点からみるリケジョの活躍」

日 時：平成 26 年 8 月 28 日（木）10:15～12:15

会 場：広島大学 東広島キャンパス 工学部 B 会場（103 講義室）

協 賛：広島大学男女共同参画推進室，広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

概 要：「リケジョ」が社会で活躍するためには，送り出す側の大学，高専において，男女共同参画推進の体制整備が極めて重要である。広島大学をはじめ各大学の先進的な取組に関する報告を元に，これからの大学，高専におけるダイバーシティ推進について，参加者を交えて議論する。

基調講演

相田 美砂子 広島大学 副学長（大学経営企画担当）

シンポジスト

中野 美由紀 芝浦工業大学男女共同参画推進室

内藤 和美 芝浦工業大学教育イノベーション推進センター

川上 善嗣 広島工業大学女子学生キャリアデザインセンター

中野（村田）享香 新潟大学企画戦略本部

司会

内海 房子 国立女性教育会館

3. 日本分析化学会 第 63 回年会

女性研究者ネットワークセミナー（公開セミナー）

日 時：平成 26 年 9 月 18 日（木）12:00～13:00

会 場：第 63 回年会 G 会場（広島大学 東広島キャンパス 総合科学部 L201 号室）

主 催：（公社）日本分析化学会

共 催：広島大学男女共同参画推進室，
広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

協 賛：東ソー株式会社

内 容：講演 相田 美砂子

広島大学 副学長（大学経営企画担当）

演題 広島大学での女性研究者支援の取組み

4. 2014 年 日本化学会中国四国支部大会

理系のキャリアデザインー男女共同参画社会の実現を目指してー（ランチョンセミナー）

日 時：平成 26 年 11 月 9 日（日）12:30～13:30

会 場：山口大学 吉田キャンパス 共通教育棟 11 番教室

共 催：山口大学女性研究者支援室

内 容：オーガナイザー

山崎 鈴子 山口大院理工・山口大学女性研究者支援室長

（1）中四国における大学での取り組み事例

相田 美砂子 広島大学 副学長（大学経営企画担当）

(2) 宇部興産株式会社での取り組み

柏木 公一 宇部興産株式会社 研究開発本部 企画管理部
研究推進グループリーダー

9-3. 広報誌「WR (Women Researchers) -私らしく歩む研究の道-」

本事業の目的である、男女共同参画の他機関を含めた広い普及、女性研究者の活動支援とその普及、女性研究者となる人材の育成を目指し、「本冊子を手にとった女性の学生が研究者を目指す『きっかけ』を得られる読み物」をコンセプトに広報誌を作成した。

活躍する女性研究者へのインタビューや、女性研究者との座談会などを通して、男女共同参画の理念や女性研究者活動支援の普及への理解を深める。

掲載内容は次のとおり。



CONTENTS (以下敬称略)

- 巻頭インタビュー 郷 通子
(大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 理事)
- 企業の取り組みを取材 日高 乃里子
(帝人株式会社 人財部 ダイバーシティ推進室長)
- 女性研究者との座談会
 - ・ 参加者
 - 森井 弘子 (戸田工業株式会社 創造本部 技術開発グループ)
 - 入江 菊枝 (三菱レイヨン株式会社 大竹研究所 機能材料研究グループ)
 - 藤田 明子 (株式会社サタケ 技術本部 穀物研究グループ 食味研究室)
 - 庄林 愛 (株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所 製パン技術研究室)
 - 内海 房子 (独立行政法人 国立女性教育会館)
 - 小坂 有史 (広島大学 大学院理学研究科 化学専攻 博士課程後期3年)
 - 志田 乙絵 (広島大学 大学院文学研究科 博士課程前期1年)
- 若手研究者インタビュー
 - 富永 依里子
(広島大学 大学院先端物質科学研究科 量子物質科学専攻 助教)
 - 波多野 さや佳
(広島大学 大学院理学研究科 化学専攻 反応有機化学研究グループ 助教)
- 女性研究者の“今”を考える
- 女性研究者の活動支援 広島大学の取り組み
- セミナー・企業訪問などのイベントについて

9-4. インターンシップ

本事業では、女性の大学院生を対象としたインターンシップ実施のための支援を行っている。

	所属	派遣先	実施期間
1	広島大学 大学院国際協力研究科 博士課程後期 2 年	国際研究機関	平成 26 年 12 月 1 日 ～平成 27 年 2 月 28 日
2	広島大学 大学院教育学研究科 博士課程後期 1 年	教育研究機関	平成 27 年 2 月 25 日 ～平成 27 年 5 月 29 日

10. 女性の研究者支援（アドバンスト支援）

大学や企業研究所における女性の上位職の割合はまだ低いことから、アドバンスト支援の一環として、専門家を招聘したセミナーや、本学及び連携大学・企業間の女性研究者の交流を図るための講演会を開催した。

10-1. セミナー

1. 管理職セミナー

管理職の極意 ―チームを介して成果をあげるための基本―

日 時：平成26年12月22日（月）14:35～16:05

会 場：広島大学 東広島キャンパス 法人本部棟2階会議室
霞キャンパス 基礎・社会医学棟セミナー室2
(テレビ会議システムによる中継)

講 師：日本マイクロソフト株式会社 人事本部 HR マネージャー 小林 いづみ

対 象：教職員

参加者：29名

概 要：

大学を取り巻く社会環境の変化への対応のため、さらなる大学運営機能の強化及び職員の育成が求められている。本セミナーでは、日本マイクロソフト株式会社人事本部 HR マネージャーの小林いづみ氏を講師としてお招きし、管理職員としての役割やチームを介して成果をあげるための極意について学び、マネジメントの能力のさらなる発揮・向上を図ることを目指す。

参加者の声（一部抜粋）

- 管理職のスタイルが4つに分類されていて、それぞれにやり方があることに気付かされました。
- ただなんとなく部下を管理するという漠然としたイメージしかありませんでしたが、パフォーマンスへの影響を6つの視点から分析するなど、具体的な注意点が聞けたのが有益でした。
- パフォーマンスへの影響（期待値、フィードバック、リソース、職業適性、トレーニングと育成、モチベーション）の考え方が参考になりました。

管理職セミナー

大手を担う社会環境の変化への対応のため、さらなる大学運営機能の強化及び職員の育成が求められています。このセミナーでは、日本マイクロソフト株式会社人事本部HRマネージャーの小林いづみ氏を講師としてお招きし、管理職員としての役割やチームを介して成果をあげるための極意について学び、マネジメントの能力のさらなる発揮・向上を図ります。

【日 時】 平成26年12月22日(月) 14:35～16:05

【場 所】 東広島キャンパス：本部棟5階会議室
霞キャンパス：基礎・社会医学棟2階 セミナー室2(テレビ会議システムによる中継)

【講 師】 「管理職の極意―チームを介して成果をあげるための基本―」
小林 いづみ 先生 (日本マイクロソフト株式会社 人事本部HRマネージャー)

【対 象】 教職員

【申込時期】 12月12日(金)
【申込先】 人事部 人事課
【申込先住所】 広島大学 霞キャンパス 基礎・社会医学棟2階 セミナー室2
【申込先電話】 082-424-4330

【お問い合わせ先】 人事部 人事課
【お問い合わせ先住所】 広島大学 霞キャンパス 基礎・社会医学棟2階 セミナー室2
【お問い合わせ先電話】 082-424-4330



(講演の様子)

10-2. 講演会

1. 学会創立90周年記念 日本農芸化学会中四国支部 第39回 講演会

日 時：平成26年5月31日（土）11:00～18:00

会 場：福山大学 宮地茂記念館

主 催：公益財団法人日本農芸化学会中四国支部

協 賛：広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型）、
福山大学

プログラム：

11:00 幹事打合せ
12:10 支部参加会
13:10 シンポジウム

「科学に挑む中四国の女性研究者」

講 演 島村 智子（高知大学農学部）

演題 牛乳とメイラード反応の関係

講 演 後藤 奈美（酒類総合研究所）

演題 日本の在来ブドウ品種“甲州”のルーツを探る

講 演 水田 啓子（広島大学大学院生物圏科学研究科）

演題 核小体の中の宝探し

講 演 土屋 英子（広島大学大学院先端物質科学研究科）

演題 出芽酵母に探る細胞核，染色体構造の謎

15:10 一般公演

18:00 懇親会



10-3. 託児サービス

本事業でシンポジウム、セミナー等を開催時に、他での託児受入れが困難な女性研究者のために託児サービスを実施している。

実施内容は次のとおり。

1. 平成25年11月16日（土）

日本化学会中国四国支部大会併設企画 シンポジウム「女性が企業で活躍する」

託児人数：1名

2. 平成26年2月8日（土）

女性の活躍シンポジウム

「女性が活躍する企業が強いワケ」～イノベーションを創り出す組織づくりへ～

託児人数：9名

10-4. 女性研究者による外部資金の獲得状況

本事業では、女性の研究者に係る外部資金の情報の通知及び申請する際のバックアップ支援を行っている。

本学の女性研究者による外部資金の獲得件数は次のとおり。

		平成25年度	平成26年度
受託研究		6	8
寄付金		7	10
科学研究費 助成事業	新学術領域研究	3	3
	基盤研究A	1	0
	基盤研究B	7	7
	基盤研究C	66	65
	挑戦的萌芽研究	8	8
	若手研究A	1	2
	若手研究B	48	42
	研究活動スタート支援	8	3
共同研究		8	12

1 1. 共同研究支援

1 1-1. 企業向けセミナー

女性研究者の企業等との共同研究を推進し、女性研究者の研究の幅の拡大を図ることを目的として、イノベーションセミナーを企画した。

1. 三菱レイヨン株式会社

日 時：平成 27 年 3 月 17 日（火）15：45～16：45

講 師：広島大学 大学院総合科学研究科教授 坂田 桐子

演 題：部下の正しい叱り方 ー部下を育成するリーダーシップとはー

対 象：管理職

1 1-2. 広島大学女性研究者研究シーズ集

女性研究者の研究シーズを企業等に周知するために、研究成果を取りまとめた「広島大学女性研究者 研究シーズ集 2014」を作成した。

本シーズ集は、広島大学産学・地域連携センターによって刊行された「広島大学研究成果集 2014」の中から、女性研究者のデータを抜粋したものを基に構成している。

なお、「広島大学研究成果集 2014」は、本学産学・地域連携センターのホームページより閲覧することができる。また、本学における最新のシーズについては、「ひまわり（統合技術情報発信システム）」より検索することができる。



○広島大学産学・地域連携センター ホームページ

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/sangaku/>

○ひまわり（統合技術情報発信システム）

<https://hutdb.hiroshima-u.ac.jp/>

11-3. 若手研究者シーズ発表会

若手研究者と企業等諸機関とのマッチング（共同研究，就職等）を目的とした若手研究者シーズ発表会を開催した。

若手研究者には，企業等の担当者に研究内容をアピールし，共同研究や就職につながる可能性を与える場とし，企業等諸機関には，若手研究者の口頭発表を聞き，ポスター発表の場で直接やり取りをすることで，有為な博士人材を発掘できる場とすることを目的とする。また，発表者には女性研究者を含む。

実施内容は次のとおり。

1. 第1回若手研究者シーズ発表会－「健康と化学」－

日時：平成26年7月18日（金）13：00～17：15

会場：県立広島大学 サテライトキャンパス ひろしま

（広島県民文化センター5階 501・502大会議室）

主催：広島大学 グローバルキャリアデザインセンター

若手研究人材養成担当

共催：岡山大学若手研究者キャリア支援センター，山口大学，島根大

学，県立広島大学，広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型），

広島大学産学官連携推進研究協力会，広島大学大学院

リーディングプログラム機構「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」

「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」

後援：中国経済産業局，中国経済連合会，広島県，独立行政法人産業技術総合研究所中国セン

ター，株式会社広島銀行，公益財団法人ちゅうごく産業創造センター，公益財団法人ひ

ろしま産業振興機構，公益財団法人くれ産業振興センター，公益財団法人岡山県産業振

興財団，一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会，公益財団法人しまね産業振興財

団

プログラム：

13:00 開会挨拶

13:05 基調講演 岡本 哲治

広島大学 理事・副学長（社会産学連携・広報・情報担当）

医歯薬保健学研究院 教授

演題 若い研究者への期待



13:35 シーズ発表（発表者 15 名 内女性 7 名）

氏名	所属	タイトル
宮良 政嗣 (D3)	広島大学 医歯薬保健学研究科 (薬学)	わずかな細胞の変化から病気の原因を探る ーパーキンソン病発症メカニズムの解明に向けてオートファジー関連分子の変化をさまざまな角度から捉えるー
深田 恵里 (D3)	広島大学 医歯薬保健学研究科 (歯学)	口腔内圧測定による嚥引・嚥下運動の解析 ー臨床的口腔内圧測定装置の開発ー
平川 翼 (D1)	広島大学 工学研究科	医療画像処理の課題に挑戦 ー大腸NBI内視鏡画像の認識・領域分割ー
田中 小百合 (D3)	岡山大学大学院 環境生命科学研究科	紫外線予防のための新機能性成分の探索 ー紫外線ストレスにおけるオオムギ由来Nudix遺伝子の機能解明への挑戦ー
上野 浩司 (客員研究員)	岡山大学大学院 保健学研究科	新たな抗精神病薬の開発に向けて ー免疫に関わる分子が神経細胞にも発現ー
河村 敦子 (助教)	山口大学大学院 医学系研究科	元気な超高齢社会を目指した高血圧予防・改善食の開発に向けて ー日本人向けDASH食事療法DASH-JUMP(DASH Japan Ube Modified diet Program)の研究開発及び普及への挑戦ー
高橋 仁 (助教)	島根大学 医学部医学科	低アレルギーパン開発への挑戦 ー小麦アレルギー発症予防と減感作の予防ー
宇田 成利 (D3)	広島大学 医歯薬保健学研究科 (薬学)	抗生物質生合成酵素を利用した創薬を目指す ーD-サイクロセロン生合成酵素群の機能及び構造解析ー
竹下 八重 (D3)	広島大学 医歯薬保健学研究科 (保健)	地域での医療看護QOLを高める挑戦 ー地域での包括的な健康管理システムの構築ー
芦原 聡介 (研究員)	広島大学 理学研究科	結び目理論の生命科学他への応用の挑戦 ーリボン曲面結び目の基本バイカンドルー
平野 博大 (D2)	広島大学 工学研究科	医工連携:血管粘弾性を利用した疼痛評価の実現 ー医療応用を目的とした対象線形化末梢血管粘弾性モデルの提案ー
柴田 紗知 (D1)	広島大学 教育学研究科	食品・栄養成分による老齢疾患予防 ー有効成分と作用機構の解明ー
神本 真紀 (D3)	広島大学 生物園科学研究科	タンニンによる抗ノロウイルス効果 ー天然由来成分によるウイルス制御への挑戦ー
末廣 優加 (D1)	鳥取大学 連合農学研究科 (島根大学配属)	ブドウの果実成熟と果皮における機能性成分の蓄積機構に関する研究 ー黄緑色系ブドウ‘シャイン・マスカット’の果皮褐変現象とポリフェノールの蓄積およびその関連遺伝子の発現ー
平林 諒 (D3)	広島大学 理学研究科	臨床応用へ繋がる細胞分化メカニズム解明への挑戦 ー発生過程において造血幹細胞の多系列分化を制御するRNAヘリカーゼDdx46の機能解明ー

15:35 関係機関 事業紹介

- 独立行政法人産業技術総合研究所
- 公益財団法人ちゅうごく産業創造センター
- 公益財団法人ひろしま産業振興機構
- 株式会社広島銀行

15:55 閉会挨拶

16:00 ポスター発表（15名）

17:30 情報交換会（il vento 鯉城会館（広島県民文化センター）1階）

2. 第2回若手研究者シーズ発表会 「環境とエネルギー」

日時：平成26年12月17日（水）13：00～17：00

会場：県立広島大学 サテライトキャンパス ひろしま
（広島県民文化センター5階 501・502大会議室）

主催：科学技術人材育成費補助事業

「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」

『未来を拓く地方協奏プラットフォーム』

共催：「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」連携機関，県立広島大学，広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型），広島大学産学官連携推進研究協力会，広島大学大学院リーディングプログラム機構「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」

後援：中国経済産業局，中国経済連合会，広島県，独立行政法人産業技術総合研究所中国センター，株式会社広島銀行，公益財団法人ちゅうごく産業創造センター，公益財団法人ひろしま産業振興機構，公益財団法人岡山県産業振興財団，公益財団法人やまぐち産業振興財団，公益財団法人しまね産業振興財団，公益財団法人鳥取県産業振興機構，一般財団法人四国産業・技術振興センター，四国地域イノベーション創出協議会，一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会，公益財団法人とくしま産業振興機構

プログラム：

13:00 開会挨拶

13:05 「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」の紹介

相田美砂子

広島大学 副学長（大学経営企画担当）

13:15 基調講演 野地澄晴

徳島大学 理事・副学長（研究担当）

演題 ゲノム編集技術を用いた環境・エネルギー問題への新規アプローチ



13:45 シーズ発表（発表者 15 名 内女性 5 名）

	氏名	所属	タイトル
1	青木 泰平	広島大学大学院 先端物質科学研究科 D2	アンモニア 新たな水素エネルギー貯蔵媒体 ーアンモニア蒸気圧制御への挑戦ー
2	浅川 愛	徳島大学大学院 先端技術科学教育部 環境創生工学専攻 D3	未利用木質バイオマスの総合的有用利用法の開発 ーバイオ燃料および有用化学製品の製造ー
3	Puteri Kusuma Wardhani	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 D1	くだものと野菜からのメタンガス発生に関する研究 ー廃棄物から再生可能エネルギーを作るー
4	政成 美沙	広島大学大学院 生物圏科学研究科 生物機能開発学専攻 D2	蛋白質の安定化機構から生物の環境適応戦略に迫る ー細菌の生育環境と蛋白質の安定性の関係ー
5	平儀野 雄斗	島根大学大学院 総合理工学研究科 D2	超低コスト照明装置を可能とする酸化亜鉛ナノ粒子塗布型紫外 線発光ダイオードの開発
6	菅沼 学史	鳥取大学 工学部 附属グリーン・サステイナブル・ケミストリー 研究センター 助教	廃棄グリセリンから有用化学資源の創出
7	Noor Hisyam Noor Mohamed	徳島大学大学院 先端技術科学教育部 知的力学システム工学専攻 D2	ナノ繊維を用いたバイオコンポジット開発
8	松尾 薫	広島大学大学院 工学研究科 建築環境学研究室 D1	都市気候に配慮した都市づくりを支援するための都市環境気候 地図の開発ー広島市を対象としてー
9	陳 ナリソ	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 D1	GPS測位と超音波測深による水底地形データ変動に関する研究 ー電波と超音波で水底地形を探るー
10	宮下 直	広島大学大学院 理学研究科 化学専攻 特任助教	福島復興に向けた汚染土壌の除染・減容技術の開発 ー固・液・液抽出法による汚染土壌からのセシウム除去ー
11	門田 真樹	広島大学大学院 工学研究科 生産システムA研究室 D1	複雑な関数において、より良い解を、より短い時間で探索する ー実数値関数最適化問題を扱う適応DEにおける確率的なパラ メータ調整法とその評価ー
12	金澤 康樹	島根大学大学院 総合理工学研究科 D1	車載用パワーエレクトロニクス機器の未来 ーモータ駆動用ハイブリッド電源システムのー考察ー
13	上川 修平	広島大学大学院 先端物質科学研究科 低温物理学研究室 D1	高機能な磁性物質を開発するための新規アプローチへの挑戦 ー磁性物質の磁場中の弾性率測定からの考察ー
14	中島 真実	広島大学大学院 工学研究科 応用化学専攻有機材料化学研究室 D1	有機薄膜太陽電池への応用を目指した有機半導体材料の開発 ージシラン架橋ピチオフェン構造をドナーに有するD-A型ポリマー の合成及び応用ー
15	川人 浩司	広島大学大学院 先端物質科学研究科 エネルギー機能物質研究室 D2	全固体リチウムイオン電池用負極材料の開発

15:05 関係機関事業紹介

- 中国経済産業局
- 中国経済連合会
- 公益財団法人くれ産業振興センター
- 一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会
- 四国産業・技術振興センター

15:30 閉会挨拶

15:40 ポスター発表（15 名）

17:15 情報交換会（il vento 鯉城会館（広島県民文化センター）1 階）

12. 意識啓発

12-1. セミナー・シンポジウム

役員・管理職や男女教職員の意識を啓発するために、セミナーや産学官合同シンポジウム等を開催した。

1. 男女共同参画企画

シンポジウム「女性が企業で活躍する」

日時：平成25年11月16日（土）12:30～17:00

会場：広島大学理学部E102教室

プログラム：

- | | | |
|-------|---------------------------------|--|
| 12:30 | 趣旨説明 | 相田 美砂子
広島大学大学院理学研究科（支部大会実行委員長） |
| 12:35 | 基調講演 | 内海 房子 氏
国立女性教育会館理事長 |
| | 演題 | 男女共同参画の視点でキャリア形成 |
| 13:00 | 招待講演 | 企業で活躍している女性研究者の講演 |
| | (1) 研究開発現場における女性研究者の役割 | 森井 弘子 戸田工業株式会社創造本部技術開発グループ主任 |
| | (2) 最善を尽くして好機を待つ | 入江 菊枝 三菱レイヨン株式会社大竹研究所
機能材料研究グループ主席研究員
アソシエイトリサーチフェロー |
| | (3) 女性性研究者が拓く未来 ～ワーク・ライフ・バランス～ | 藤田 朋子 株式会社サタケ技術本部穀物研究グループ
食味研究室室長 |
| | (4) 世界で初めての介護用食パン ～仕事を通じて自分を拓く～ | 庄林 愛 株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所
製パン技術研究室部長 |
| 14:12 | 全体意見交換 | |
| 14:30 | 併催企画「産学連携企画 企業紹介」 | |



(講演の様子)



2. 女性の活躍 シンポジウム

女性が活躍する企業が強いワケ ～イノベーションを創り出す組織づくりへ～

日 時：平成26年2月8日（土）13:30～17:30

会 場：エソール広島（広島市中区）

参加者：79名

プログラム：

13:30 主催者挨拶 広島大学理事・副学長 吉田 総仁

シンポジスト

日高 乃里子 帝人（株） 人財部 ダイバーシティ推進室長

麓 幸子 日経 BP 社 生活情報グループ統括補佐

日経 BP ヒット総合研究長

三山 雅代 （株）タカキヘルスケアフーズ 代表取締役社長

コーディネーター

相田 美砂子 広島大学 副学長（大学経営企画担当）

16:15 交流会

参加者の声（一部抜粋）

- 自分で考えていても表現することができなかった部分を、理論的に発表していただき、自分の考えがまとまった。
- 組織の人材育成について検討する上で、とても参考になりました。男性管理職も今日のような内容を聞く機会を持つべきと感じています。
- 今日参加してほんとうによかったです。女性がいるだけでなく、活躍してからこそ意味があるということがよくわかりました。企業の株価と女性管理職（幹部数）のグラフが興味深かったです。
- 大変参考になりました。所属会（中小企業家同友会 安芸区商工会）で還元したいと思います。
- パネリストの方の話が、大変面白かった。女性支援は、女性のためだけでなく、誰もが働きやすい職場となることに、共感です。



（講演の様子）

女性が活躍する企業が強いワケ
～イノベーションを創り出す組織づくりへ～

中堅・大企業は女性に力を入れて、競争優位性を高めるのには
①企業トップによる意識 ②人材育成のための体制（人材・スキル）の育成
の両輪が必要です。そして、それが人財育成の成果に結びつけられます！

でも、その中でつまずいてはいませんか？

- 企業経営の現場
女性管理職の割合
- 女性管理職の割合
企業業績との関係
- 企業業績の伸び
女性管理職の割合との関係

女性管理職の割合が増えれば、企業業績の伸びもよくなる！
女性管理職の割合を増やすことが
企業業績の伸びにつながる！

平成26年2月8日（土）13:30～17:30
会 場：エソール広島2館（広島市中区安芸区1-1-6）
13:30～13:45 シンポジウム（無料）参加費：0円
～当日は無料のランチが用意されています～
～当日は無料の飲み物も用意されています～
14:00～17:30 交流会（参加費：2,000円）（無料）21歳～59歳まで
主催：広島大学、広島大学理事・副学長 吉田 総仁
共催：広島大学 副学長 相田 美砂子
後援：広島県、広島市、広島県商工会連合会、広島県中小企業家同友会、広島県女性経営者協会、広島県労働組合連合会、広島県商工団体連合会、広島県女性経営者協会、広島県労働組合連合会、広島県商工団体連合会

3. 女性研究者活躍促進シンポジウム

～研究する人生、という選択～

日 時：平成 26 年 3 月 17 日（月）13:00～16:00

会 場：広島大学 サタケメモリアルホール

対 象：教職員・学生・高校生・本事業関係機関・一般

参加者：172 名

プログラム：

13:00	開会挨拶	学長 浅原 利正
13:10	第1回 広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」授与式	
	受賞者	(公財)広島県男女共同参画財団理事長 長尾 ひろみ
13:15	基調講演	赤松 良子 (公財)日本ユニセフ協会会長 (元文部大臣)
	演題	女性研究者の活力を社会の活力に
14:05	講 演	平田 たつみ 国立遺伝学研究所脳機能研究部門 教授
14:35	講 演	坂田 桐子 広島大学大学院総合科学研究科 教授
15:05	休 憩	
15:15	パネルディスカッション	(院生・若手研究者登壇)
16:00	閉会挨拶	

参加者の声（一部抜粋）

- 女性ならではの研究者としての悩みと、それを越えてきた先生方の話を聞けて、モチベーションがあがったような気がします。とにかく毎日できることを精一杯頑張りたいです。
- RPDの制度を、本シンポジウムで初めて知りました。このことから、研究者として将来やっていきたいなら、そういった制度等を積極的に調べて知っていくことが大事だと思いました。いろいろなことを考える機会として、このシンポジウムはすごく為になりましたし、参加していくべきだと感じました。
- 女性枠で採用されました。これまで、そして今も、たくさんの思いを抱えていますが、先生のご講演を聞いて感動しました。具体的に動き、私らしい **only one** の研究を、生活をしていきます。
- 先駆的な活動、とても参考になりました。理系女子生徒をしっかりと育てたいと思います。
- 研究者によって結果が異なってくるから、女性の研究者は必要であるという言葉が非常に印象的でした。であれば、職員として女性はどのような役割があるのか、自分は何ができるのか考え、仕事をしていこうと思います。





(授与式の様子)



(基調講演の様子)

4. 平成 26 年度 広島大学全学 FD 講演会

「博士人材の活躍の場とこれからの人材養成」

日 時：平成 26 年 10 月 9 日（木）10:30～12:00

会 場：広島大学 東広島キャンパス 学士会館レセプションホール
霞キャンパス 基礎・社会医学棟セミナー室 1
(テレビ会議システムによる中継)

主 催：広島大学女性研究活動委員会

共 催：広島大学人材育成推進室 (FD 部会)

講 師：広島大学グローバルキャリアデザインセンター教授 三須 敏幸

対 象：博士課程後期進学を希望している学生

博士課程在籍中の学生

ポストドクター

上記の学生・ポストドクターを指導・受け入れている教員

その他、博士人材の養成・活躍促進に関心のある方

参加者：54 名

概 要：グローバル化が進展する知識基盤社会においては、従来の基礎研究や製品開発のみならず、サービスやデザイン思考に基づくイノベーションの創出、企業の経営戦略や国の政策立案、さらには国際社会や地域社会の課題解決に至るまで、博士人材の能力の活用が益々重要となってきた。科学技術が日々高度化・複雑化する中、博士人材はもはやアカデミックな研究者としてだけでなく、異なる領域にも果敢に挑戦し、社会の多様な場で活躍することが期待されている。

本講演では、我が国における博士人材の活用状況と本学の博士課程修了者及びポストドクター等の進路動向の現状について、女性の活躍促進の観点を踏まえつつ概観し、本学における博士人材の養成と活躍促進に向けた環境のあり方について考える。

参加者の声（一部抜粋）

- これまでに聞いたことのない内容だったので、興味深く聞かせていただきました。
- 今後のキャリアパスについて考える参考となりました。
- 博士人材の将来的な活動の場が、アカデミアから企業に移行することを考えたうえで、

教育プログラムを組み立てる必要性を感じた。

- 多様な働き方として、自由度の高いポストクを選ぶ女性が少なからず存在することは興味深かった。
- 現代は指数関数的に変化する。今やっていることは、ものの数年で陳腐化するなど、とても刺激的でした。変化を好まない、変わらない日本社会には重要な教訓と思う。だからこそ、変化に追従できる「対応力」が重要であることを認識できた。ポストク云々を気にせず、やりたいことをやって力をつけるのみと思った。道は開けるだろうと。



(講演の様子)



(ディスカッションの様子)

5. 女性研究者活躍促進シンポジウム

～将来を真剣に考えるあなたにはきっと明るい未来が訪れる～

日 時：平成26年12月18日(木) 14:00～16:30

会 場：広島大学 東広島キャンパス 学士会館レセプションホール
霞キャンパス 病院臨床管理棟2階1会議室
(テレビ会議システムによる中継)

対 象：教職員・学生・高校生・本事業関係機関・一般

参加者：107名

プログラム：

- | | | |
|-------|-----------------------------|---|
| 14:00 | 開会挨拶 | 学長 浅原 利正 |
| 14:10 | 第2回 広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」授与式 | |
| | 受賞者 | イクメン企業同盟ひろしま |
| 14:15 | 受賞講演 | 本廣 篤子
広島県健康福祉局 働く女性・子育て支援部長
木谷 博郁
(株)サタケ 取締役 人事部部長 |
| | 演題 | イクメン企業同盟の取組について |
| 14:45 | 休 憩 | |
| 15:00 | 講 演 | 佐藤 明子
広島大学大学院総合科学研究科 准教授 |
| | 演題 | 女性だけど?女性だから?
将来の自分を少し大きく設定してみませんか? |

15 : 35 講 演 隠岐 さや香
 広島大学大学院総合科学研究科 准教授
 演題 科学の歴史から見えてくる「ジェンダー」の本質
 ～ 「お手本」の悪目立ちと忘却という名の
 差別について～

16 : 10 総合討論

16 : 30 閉会挨拶

参加者の声（一部抜粋）

- 大学教員，県職員，民間人と，異なるフィールドで働いておられる方の話が聞けてよかったです。
- 働いて自立することを希望していましたが，お話を聞いてその気持ちが強くなりました。
- これからも正社員の妻を支えていけるいい夫で頑張ろうと思いました。
- 女性研究者の方々のお話を伺えてよかったです。実際にどのように考えられているのか知ることができました。
- 大学院進学を考えている女子学生として，また，これから結婚，育児を行っていくであろう一女性として，とても考えさせられました。



(授与式の様子)



(講演の様子)

6. 第34回たおやかプログラムセミナー

Women's advance into society and my contribution to science

日 時：平成27年3月3日（火）10:30～12:00

会 場：広島大学 東広島キャンパス 理学研究科 A017

主 催：広島大学女性研究活動委員会，広島大学男女共同参画推進室

共 催：広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型），
女性研究者養成システム改革加速事業

講 師：Professor & Head Centre for Biomedical Engineering,
Indian institute of Technology, New Delhi India
Dr. Veena Koul

対 象：学生，職員，一般

参加者：12名

概 要：The talk will present the status of Women in pre and post historic time. It will also present how women in India have become economically self sufficient, leading to significant role models as Scientists, Engineers, Entrepreneurs and Politicians. The talk will conclude by highlighting my own research interests and contribution to science specifically in the area of Bio-medical Engineering.



(講演の様子 1)



(講演の様子 2)

7. 今日からできる仕事と介護の両立支援 実践セミナー

日 時：平成 27 年 3 月 13 日（金）15:00～17:00

会 場：エソール広島（広島市中区）

主 催：広島大学女性研究活動委員会，広島大学男女共同参画推進室

講 師：株式会社 wiiw（ウィウィ）社長執行役員・昭和女子大学客員教授
山極 清子

対 象：企業の経営者層，人事労務担当者等
仕事と介護の両立に関心のある人
ケアマネージャー等

参加者：68名

概 要：現在では，介護を理由に離職する従業員は，すでに年間約 10 万人にのぼり，働きながら介護している従業員は約 240 万人といわれています。

皆さんの会社でも，従業員が介護と仕事を両立する支援策の整備について検討されているかと思いますが，なかなか具体的な対応が見出せないという状況ではないでしょうか。

本セミナーでは、「誰もが介護を担う背景」「仕事と介護の両立支援ポイント」「親が倒れる前に知っておくこと」などをご紹介することで，不安を払拭し，老若男女すべての従業員のみなさんが仕事と介護を両立できるポイントを身に付けていただきます。

社員にとっても企業にとっても大損失！それが介護離職。今日からできる仕事と介護の両立支援 実践セミナー

【日時】平成27年3月13日（金）
15:00～17:00 会場：エソール広島 エスコーロ
【対象】企業の経営者層、人事労務担当者等
・仕事と介護の両立に関心のある人
・ケアマネージャー等
【申し込み方法】
TEL・FAX メールで事前にお申し込みください。
※申し込みの締切は前日の午後18時です。



(講演の様子 1)



(講演の様子 2)

12-2. 広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」

1. 設立の経緯と趣旨

広島大学は、女性研究者の研究活動の支援を図るとともに、他機関等との連携による新たな取り組みを通して、より独創的・学際的な活動をサポートすることを目的として、女性研究活動委員会を設置している。平成25年、本委員会の支援の一環として、女性自ら先導し、あるいは女性の活躍の場を広げることによって、社会全体の活力向上に貢献した個人・団体を顕彰するため、広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」を創設した。

メタセコイアは生きた化石として世界的に有名で、中国で現存することが確認され、米国の植物学者が持ち帰った種子から養成した苗木が世界各国に配布された。あらゆるところから芽吹く旺盛な生命力と、まっすぐに育つ若木の成長の早さが特徴で、広島大学旧東千田キャンパスには、この苗木が美しい並木として四季に彩りを添えていた。このような歴史と特徴から、国際的な印象を与える樹木であり、新しい発見を世界に広げていくイメージがある。フェニックスと並んで広島大学のシンボリックな存在であるメタセコイアの樹木のように、女性が個性と能力を存分に発揮し、世界中で力強く活躍することを願い、本賞を設立した。

2. 授与の基準

- (1) 男女共同参画の推進及び女性の活躍促進において先進的な取組を行っていることと認められる中国四国地域の個人又は団体
- (2) 男女共同参画社会の構築において顕著な研究業績を挙げた、又は指導的働きをしたと認められる中国四国地域の研究者
- (3) 女性の活躍を支援したと認められる個人又は団体
- (4) 自ら活力向上を先導した女性

3. 過去の受賞者

	受賞者名	該当する授与基準
第1回 平成25年度	公益財団法人広島県男女共同参画財団理事長 長尾ひろみ氏	(1)
第2回 平成26年度	イクメン企業同盟ひろしま	(1)



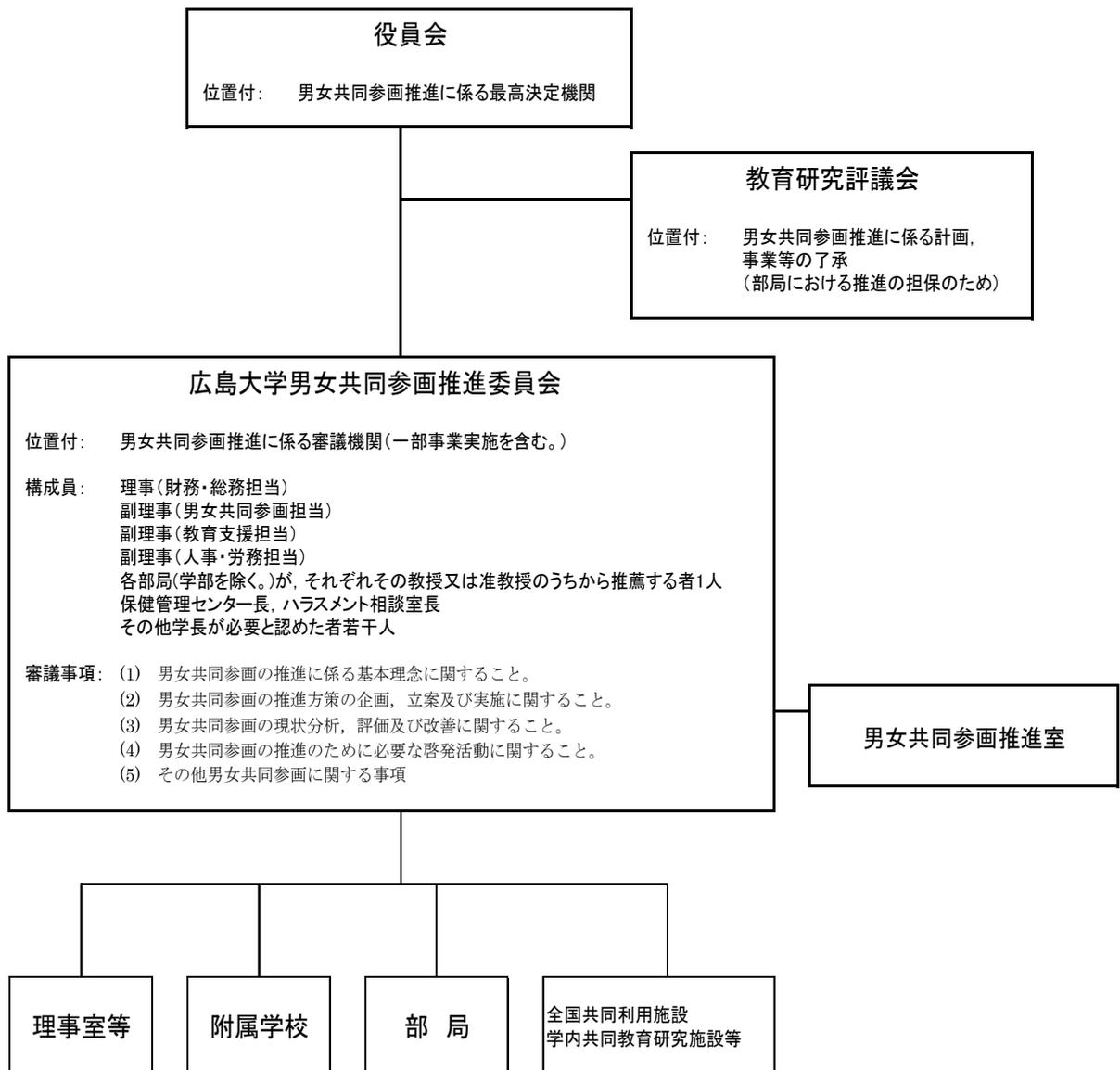
(広島大学技術センター工作部門製作の副賞のガラス細工)



Ⅲ 基盤整備

1 3. 男女共同参画推進体制

広島大学における男女共同参画推進体制



(平成26年4月1日現在)

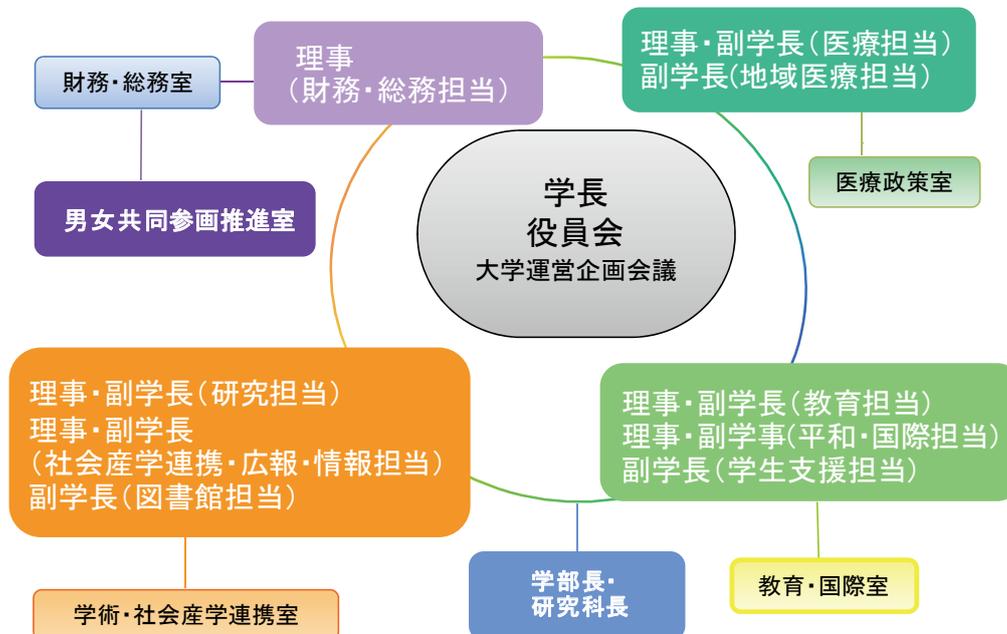
14. 男女共同参画推進室

平成 19 年度に設置された「女性研究者支援プロジェクト (Career Advancement Project for Women Researchers: CAPWR) 研究センター」は発展的解消となり、男女共同参画推進室が、平成 20 年 4 月 1 日付けで設置された。広島大学男女共同参画宣言に基づき、広島大学において、構成員の個性と能力が十分発揮できる組織を構築するための具体的な取組みを推進する。



(浅原学長による直筆)

14-1. 広島大学における位置づけ



男女共同参画推進室は、男女共同参画推進委員会が策定する「行動目標」およびそれを達成するための「行動計画」に対する年度ごとの重点活動項目の実行を支援する。さらに、男女共同参画推進室は、女性教員増加のためのポジティブ・アクション担当組織としての役割を果たす。

14-2. 平成26年度のメンバー

◎室長

中坂 恵美子 (副理事 (男女共同参画担当))

○室員

・東広島地区運営支援部職員福利グループ

島原 由起 (主査 (男女共同参画・保育園主担当))

岸本 浩明 (主任) (平成27年1月から)

三上 麻記子 (主任)

草亭 宏加 (グループ員) (平成26年5月まで)

香妻 愛未 (グループ員) (平成26年6月から)

田中 美保 (キャリア支援担当員) (平成26年12月まで)

東 真由美 (キャリア支援担当員) (平成26年3月まで)

岡本 江利香 (キャリア支援担当員) (平成26年6月から)

・協力教員メンバー

相田 美砂子 (大学院理学研究科・教授)

泉 俊輔 (大学院理学研究科・教授)

伊藤 圭子 (大学院教育学研究科・教授)

北仲 千里 (ハラスメント相談室・准教授)

坂田 桐子 (大学院総合科学研究科・教授)

中坪 敬子 (大学院理学研究科・助教)

中矢 礼美 (国際センター・准教授)

森永 康子 (大学院教育学研究科・教授)

横山 美栄子 (ハラスメント相談室・教授)

15. 男女共同参画推進委員会

15-1. 男女共同参画推進委員会委員

委員長： 松ヶ迫 和峰 理事（財務・総務担当）

副委員長： 中坂 恵美子 副理事（男女共同参画担当）

教育グループ（支援事務組織：教育・国際室教育支援グループ）

	氏名	所属・職名
1	フンク カロリン	総合科学研究科教授
2	井内 太郎	文学研究科教授
3	三時 眞貴子	教育学研究科准教授
4	久米 晶子	理学研究科准教授
5	高瀬 美由紀	医歯薬保健学研究院准教授
6	松村 幸彦	工学研究院教授
7	チャン ダン スアン	国際協力研究科准教授
8	吉原 正治	保健管理センター長
9	横山 美栄子	ハラスメント相談室長
⑩	岡本 修治	副理事（教育支援担当）

制度グループ（支援事務組織：財務・総務室サービスグループ）

	氏名	所属・職名
1	且井 佑佳	社会科学研究科准教授
2	岡村 好子	先端物質科学研究科准教授
3	河上 眞一	生物圏科学研究科准教授
4	油納 健一	法務研究科教授
5	佐藤 健一	原爆放射線医科学研究所准教授
6	田妻 進	病院教授
7	相田 美砂子	理学研究科教授
⑧	眞田 一美	副理事（人事・労務担当）

※ ○印はリーダーを示す。

15-2. 開催一覧

	男女共同参画 推進委員会	グループミーティング		
		教育	制度	社会（2012年度まで）
2007年	第1回 3月22日（木）			
	第2回 6月6日（水）			
	第3回 8月31日（金）	第1回 10月15日（月）	第1回 10月17日（水）	第1回 10月17日（水）
	第4回 9月26日（水）	第2回 10月31日（水）	第2回 11月7日（水）	第2回 11月7日（水）
	第5回 11月19日（月）	第3回 12月3日（月）	第3回 11月27日（火）	
2008年	第6回 1月31日（木）	第4回 1月21日（月）	第4回 1月15日（火）	第3回 1月18日（金）
	第7回 3月3日（月）	第5回 3月3日（月）	第5回 3月7日（金）	第4回 3月7日（金）
	第8回 3月21日（金）	第6回 6月2日（月）	第6回 4月24日（水）	第5回 6月27日（金）
	第9回 4月24日（木）	第7回 7月14日（月）	第7回 5月27日（火）	第6回 10月24日（金）
	第10回 7月15日（火）	第8回 12月22日（月）	第8回 7月11日（金）	第7回 12月25日（木）
	第11回 9月9日（火）		第9回 10月7日（火）	
	第12回 10月27日（火）		第10回 12月25日（木）	
2009年	第13回 1月27日（火）	第9回 5月19日（火）	第11回 6月4日（木）	第8回 7月10日（金）
	第14回 4月30日（木）	第10回 2月8日（月）	第12回 10月21日（水）	第9回 2月22日（月）
	第15回 6月12日（金）		第13回 12月17日（木）	
	第16回 10月28日（水）		第14回 1月27日（水）	

	第17回 11月19日(木)			
2010年	第18回 1月28日(木)			
	第19回 3月10日(水)			
	第20回 4月26日(月)	第11回 5月19日(水)	第15回 6月2日(水)	第10回 6月30日(水)
	第21回 6月16日(水)		第16回 10月13日(水)	
	第22回(書面審議) 9月1日~9月8日		第17回 11月22日(月)	
	第23回 10月14日(木)			
	第24回 11月30日(火)			
	2011年	第25回 2月9日(水)	第12回 1月7日(金)	第18回 1月19日(水)
第26回 5月10日(火)		第13回 6月7日(火)	第19回 6月23日(木)	
第27回 6月28日(火)		第14回 10月20日(木)	第20回 9月8日(木)	
第28回 9月21日(水)				
第29回 12月20日(火)				
2012年	第30回 2月23日(木)	第15回 1月20日(金)	第21回 1月13日(金)	第12回 2月22日(水)
	第31回 4月17日(火)	第16回 7月3日(火)	第22回 6月12日(火)	第13回 7月3日(火)
	第32回 7月25日(水)	第17回 10月5日(金)	第23回 1月11日(金)	第14回(メール審議) 10月25日~10月31日
	第33回 11月21日(水)		第24回(書面審議) 2月22日~2月28日	第15回(メール審議) 1月29日~1月30日

2013年	第34回 1月31日(木)	第18回 5月31日(金)	第25回 6月21日(金)	
	第35回(書面審議) 3月7日～3月12日	第19回 10月23日(水)	第26回 7月11日(木)	
	第36回 5月7日(火)			
	第37回 6月6日(木)			
	第38回 7月30日(火)			
	第39回 11月20日(水)			
2014年	第40回 1月30日(木)		第27回 1月28日(火)	
	第41回 2月24日(月)		第28回 10月6日(月)	
	第42回 6月11日(水)		第29回 12月11日(木)	
	第43回 12月19日(金)			
2015年	第44回 3月6日(金)	第20回 2月9日(月)	第30回(メール審議) 2月27日～3月3日	

運営事務組織

男女共同参画推進委員会
教育グループ
制度グループ
ホームページ担当

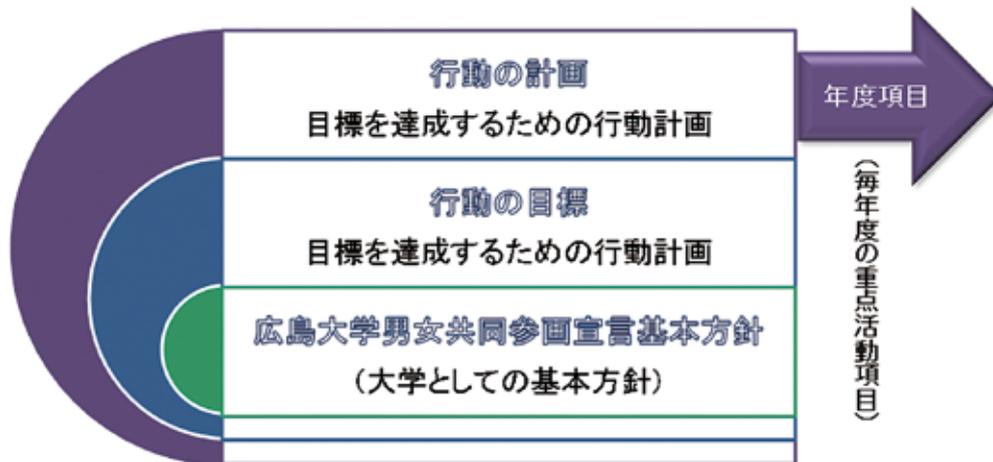
東広島地区運営支援部職員福利グループ
教育・国際室教育支援グループ
財務・総務室サービスグループ
東広島地区運営支援部職員福利グループ

15-3. 男女共同参画推進委員会の目標と計画

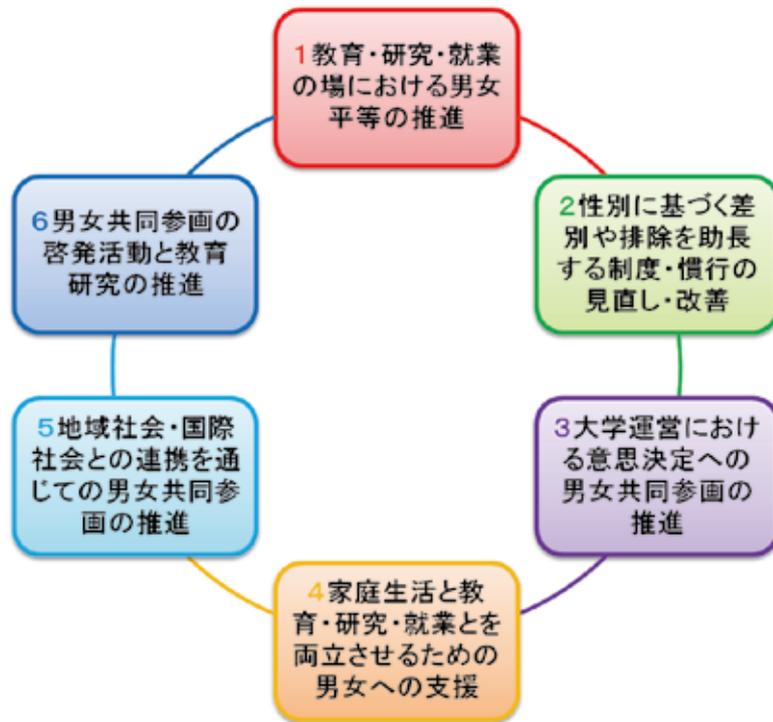
広島大学男女共同参画宣言の6項目の「基本方針」に沿って、広島大学男女共同参画推進委員会の平成23～27年度の「行動の目標」と「行動計画」を、第25回男女共同参画推進委員会（平成23年2月9日）において策定した。これらは、役員会で承認（平成23年3月1日）され、教育研究評議会で報告（平成23年3月8日）された。

また、それらの行動計画を具体的に実行するための、平成23年度の行動項目を第25回男女共同参画推進委員会（平成23年2月9日）において、平成24年度の行動項目を第30回男女共同参画推進委員会（平成24年2月23日）において、平成25年度の行動項目を第34回男女共同参画推進委員会（平成25年1月31日）において、平成26年度の行動項目を第40回男女共同参画推進委員会（平成26年1月30日）において、平成27年度の行動項目を第44回男女共同参画推進委員会（平成27年3月6日）に策定した。

15-4. 活動の指針



15-5. 広島大学男女共同参画基本方針



15-6. 男女共同参画推進委員会の「行動の目標」と「行動計画」



15-7. 平成26年度行動項目一覧表

基本方針	行動の目標	行動計画(H23~27)	H26 行動項目	担当
1 教育・研究・ 就業の場 における男女 平等の推進	(1-1) 構成員に男女共 同参画の理念を 浸透させる	(1-1-1) 全教職員対象の啓発活動 を推進	[1-1-1] セミナー等の啓発活動	全体
		(1-1-2) 取組み状況や職階級別の 女性の割合を毎年公表	[1-1-2] 事務系、部局等及び全学 委員会における女性比率 の調査と公開	全体
	(1-2) 次代を担う学生 に男女共同参画 の理念を浸透さ せる	(1-2-1) 男女を問わず学生の意識 向上のための活動を推進	[1-2-1] 学生対象アンケート結果 の検証を踏まえ、改善策 の実施	教育G
2 性別に基づ く差別や排 除を助長す る制度・慣 行の見直し・改善	(2-1) 構成員が男女を 問わず、能力が 発揮できる環境 の創出	(2-1-1) 構成員が男女を問わず活 躍できる環境づくりに取り組 む	[2-1-1] 構成員が活躍できる環境 づくりの実施・検証 (意思決定の場に両性の 意見を反映させる方策の 実施・検証を含む)	制度G
		(2-1-2) 女性の意欲向上のための 取組み	[2-1-2] 女性教職員のネットワー クより意見を吸い上げる 方策の試行の実施・検証	制度G
		(2-1-3) ポジティブアクションの推進	[2-1-3] 女性比率向上策の検証・ 改善策の検討及び加速事 業の支援	全体
	(2-2) 男女を問わず学 部・大学院への 進学志望者が増 加	(2-2-1) 進路指導者(小中高大院) 及び児童・生徒・学生の意 識改革	[2-2-1] これまでの実施状況を踏 まえ、改善策や向上策の 検討・実施	教育G

		(2-2-2) 男女問わずロールモデルの 収集	[2-2-2] 広報や周知の方法等を改 善し、ロールモデルの収 集	教育G
		(2-2-3) 博士課程後期の学生に対 するメンタリングシステム の検討	[2-2-3] 女性研究者養成システム 改革加速事業終了時(平 成26年度)までに、博士課 程後期の学生に対するメ ンタリングシステムの具体 案・実施策を試行	全体
3 大学運営に おける意思 決定への男 女共同参画 の推進	(3-1) 大学運営にお ける意思決定の場 に女性を積極 的に登用する	(3-1-1) 女性教員割合を14%程度 にする	[3-1-1] 女性教員割合を13.6% 程度にする	全体
		(3-1-2) 女性管理職の割合を高くす る	[3-1-2] 女性管理職の割合を前年 度以上とする	全体
4 家庭生活と 教育・研究・ 就業とを両 立させるた めの男女へ の支援	(4-1) 教職員のワーク・ ライフバランスの 推進	(4-1-1) 両立支援のための多様な 制度を整備・充実させ、そ れを活用しやすい環境の創 出	[4-1-1] 両立支援のための多様な 制度の整備・充実(拡大) の検討 必要に応じて継続的に環 境を改善し、制度を活用し やすい環境を整えるととも に、制度の活用状況を調 査する(その2)	制度G
		(4-1-2) 第2期「行動計画」の認定を 受ける	[4-1-2] 次世代育成支援対策推 進法による「一般事業主 行動計画」の適合認定を 申請する	制度G

5 地域社会・国際社会との連携を通じての男女共同参画の推進	(5-1) 広島大学が中国四国地方の拠点大学としての役割を果たす	(5-1-1) 地方公共団体や産学官との連携を強化し、中国四国地方の男女共同参画を推進(校友会との連携を含む)	[5-1-1] 地元自治体等の男女共同参画組織及び産学官との連携及び拠点事業の支援	全体
		(5-1-2) 国内外の大学や研究機関の情報収集	[5-1-2] 国内外の大学や研究機関の情報収集	全体
	(5-2) 広島大学の取組みを内外に発信	(5-2-1) 広島大学 HP の「男女共同参画」の更新・拡充	[5-2-1] 広島大学 HP の「男女共同参画」の更新・拡充	全体
6 男女共同参画の啓発活動と教育研究の推進	(6-1) 教育と研究を通して男女共同参画を根付かせる	(6-1-1) 学生が、男女共同参画の理解を深めるために教養教育科目の充実	[6-1-1] 学生の履修登録期間までに、男女共同参画関連の授業科目のわかりやすい一覧更新(HP にも公開)	教育G
		(6-1-2) 教育・研究が推進できるための取組み	[6-1-2] 女性研究者支援事業の継続実施・改善	全体
		(6-1-3) 研究者向けの研修・セミナー等の企画	[6-1-3] 研究者向けの研修・セミナー等の企画・検討	全体

15-8. 平成26年度重点項目

平成26年度行動項目（15-7参照）の中で、特に、平成26年度に重点的に実施した項目は次のとおりである。

全体

- 女性比率向上策の検証・改善策の検討及び加速事業の支援
- 女性研究者養成システム改革加速事業終了時(平成26年度)までに、博士課程後期の学生に対するメンタリングシステムの具体案・実施策を試行
- 地元自治体等の男女共同参画組織及び産学官との連携及び拠点事業の支援
- 女性研究者支援事業の継続実施・改善
- 研究者向けの研修・セミナー等の企画・検討

教育グループ

- 学生対象アンケート結果の検証を踏まえ、改善策の実施

制度グループ

- 構成員が活躍できる環境づくりの実施・検証
(意思決定の場に両性の意見を反映させる方策の実施・検証を含む)
- 両立支援のための多様な制度の整備・充実(拡大)の検討
必要に応じて継続的に環境を改善し、制度を活用しやすい環境を整えるとともに、制度の活用状況を調査する
- 次世代育成支援対策推進法による「一般事業主行動計画」の適合認定を申請する

15-9. 各グループの実施状況

(1) 教育グループ

H26行動項目[1-2-1]

学生対象アンケート結果の検証を踏まえ、改善策の実施

【26年度の実施状況】

- ・女性院生・学部生のランチ持ち寄り交流会（BBC）の実施
- ・女性院生を対象としたMLへ希望者を追加

H26行動項目[2-2-1]

これまでの実施状況を踏まえ、改善策や向上策の検討・実施

【26年度の実施状況】

- ・8月7・8日オープンキャンパスで女子高生対象の質問・相談コーナーを実施（計84名参加）
- ・10月24日「広島県高等学校長協会と広島大学との懇談会」において、体験科学講座の開催について周知
- ・女子高生向けの体験科学講座を、3月7日に工学部で、3月8日に教育学部で開催

H26行動項目[2-2-2]

広報や周知の方法等を改善し、ロールモデルの収集

【26年度の実施状況】

- ・学内の女性研究者のロールモデルをHPへ掲載

H26行動項目[6-1-1]

学生の履修登録期間までに、男女共同参画関連の授業科目のわかりやすい一覧更新（HPにも公開）

【26年度の実施状況】

- ・教養教育科目「ジェンダーと社会」を開講
- ・学生の履修登録期間までに、男女共同参画関連の授業科目一覧をHPへ掲載
- ・次年度の授業科目一覧掲載の準備
- ・学生向けテキスト及び学生向け啓発パンフレットを作成

(2) 制度グループ

H26行動項目[2-1-1]

構成員が活躍できる環境づくりの実施・検証（意思決定の場に両性の意見を反映させる方策の実施・検証を含む）

【26年度の実施状況】

- ・女性研究活動委員会において、「女性賞の設立」「現状分析」「意識啓発セミナー」についての分科会を設置し、検討

- ・提言に基づき、両性の参画が必要な各種会議へ、女性委員を加える措置を講じるように依頼
- ・当該会議に対し、女性教員の平成 27 年度参画予定状況について照会

H26行動項目[2-1-2]

女性教職員のネットワークより意見を吸い上げる方策の試行の実施・検証

【26年度の実施状況】

- ・女性研究者の異動状況をチェックするとともに女性教員の ML に追加

H26行動項目[4-1-1]

両立支援のための多様な制度の整備・充実（拡大）の検討。必要に応じて継続的に環境を改善し、制度を活用しやすい環境を整えるとともに、制度の活用状況を調査する

【26年度の実施状況】

- ・育児部分休業制度拡充の検証のため、就労管理システム等のデータを活用した検証資料を作成し、諸会議等において公表
- ・制度活用改善策として挙げられている項目のうち、活用者からの要望が多く、優先順位の高いものの実施として、産前休暇を取得予定の職員に対してリーフレットの配付を行うよう、各部局等人事担当者へ依頼

H26動項目[4-1-2]

次世代育成支援対策推進法による「一般事業主行動計画」の適合認定を申請する

【26年度の実施状況】

- ・次世代育成支援対策推進法による「一般事業主行動計画」の適合認定を申請した（平成26年11月4日付け認定）
- ・学童保育（東広島地区・広島地区）の実施
- ・病後児保育利用料補助事業の実施
- ・来年度の保育園入園者を募集し、決定
- ・大学入試センター試験時の臨時開園についてニーズ調査を実施し、ひまわり保育園を開園
- ・年次有給休暇取得率の公表を実施
- ・年次有給休暇等の取得促進を「いろは」へ掲示

16. 仕事と子育ての両立支援

16-1. 学内保育園

東広島キャンパスに設置しているひまわり保育園では、園児数は増加傾向にあり、本年度も定員（30名）を超過している。定員を超える部分については、認可外保育施設の基準内で出来る限り対応する方針としている。平成27年3月1日現在の利用者数は次のとおり。

○常時保育利用世帯数： 33世帯（園児35名）

○一時保育利用世帯数： 0世帯（園児0名）

平成26年4月には、霞キャンパスに、他の保育施設への入所を待機している乳幼児を対象に保育を行うこすもす保育室を開園した。定員は6名で、平成27年3月1日現在の利用者数は次のとおり。

○常時保育利用世帯数： 5世帯（園児5名）

○一時保育利用世帯数： 2世帯（園児2名）

また、霞キャンパスには、病院病院直営の保育園とした、たんぼぼ保育園も設置している。

なお、大学入試センター試験の際は、必要に応じて、ひまわり保育園を開園している。

16-2. 学童保育

広島大学の構成員の就業と家庭生活の両立支援を目的として、平成20年度から学童保育（子どもクラブ）を東広島地区において試行してきたが、平成22年度から受益者負担を検討し、「広島大学東広島子どもクラブ規則」及び「広島大学東広島子どもクラブ実施要領」を制定した。平成23年度には、広島地区でも東広島地区に準じた学童保育の試行を開始し、平成26年度から実施した。

①学内学童保育：夏季子どもクラブ

（東広島地区）

○期間：平成26年7月22日～8月29日までの平日
8:00～19:00

○場所：東広島キャンパス内

○保育対象：本学教職員の学童42名（小学校1年生から6年生）

○指導員：9名（小学校、中学校、高等学校教諭免許取得者）

○学生サポーター：17名（広島大学で教職課程を履修中の学生）



○内容：休暇期間中の学習支援，学内の施設における体験学習（自然科学研究支援開発センター，総合博物館，ビオトープ）。屋内，屋外運動支援。

（広島地区）

○期間：平成26年7月22日～8月29日の
平日 8：00～19：00

○場所：霞キャンパス内

○保育対象：本学教職員の学童67名
（小学校1年生から6年生）

○指導員：業者の委託による

○学生サポーター：3名（広島大学在学中の学生）

○内容：休暇期間中の学習支援，屋内，屋外運動支援。



（放射線実験）



（水作り）



（ミニコンサート）



（ビオトープ）



（フルーツポンチ作り）

②学内学童保育：冬季子どもクラブ

(東広島地区)

○期間：平成26年12月22日～平成27年1月6日までの

平日 8：00～19：00

○場所：東広島キャンパス内

○保育対象：本学教職員の学童22名（小学校1年生から6年生）

○指導員：5名（小学校，中学校，高等学校教諭免許取得者）

○学生サポーター：8名（広島大学で教職課程を履修中の学生）

○内容：休暇期間中の学習支援，学内の施設における体験学習（総合博物館，理学研究科植物管理室）。調理・工作等の体験学習。屋内，屋外運動支援。

(広島地区)

○期間：平成26年12月19日～平成27年1月7日までの

平日 8：00～19：00

○場所：霞キャンパス内

○保育対象：本学教職員の学童42名（小学校1年生から6年生）

○指導員：業者の委託による

○学生サポーター：1名（広島大学在学中の学生）

○内容：休暇期間中の学習支援，屋内，屋外運動支援。



(お菓子の家作り)



(焼き芋作り)



(しめ縄作り)

③学内学童保育（春季子どもクラブ）（平成27年3月1日現在）
（東広島地区）

- 期間：平成27年3月23日～4月7日までの平日 8:00～19:00
- 場所：東広島キャンパス内
- 保育対象：本学教職員の学童（新小学校1年生から6年生
（卒業生も含む））
- 指導員：業者の委託による
- 学生サポーター：広島大学で教職課程を履修中の学生
- 内容：休暇期間中の学習支援，体験学習，屋内，屋外運動
支援。



（広島地区）

- 期間：平成27年3月23日～4月7日までの平日 8:00～19:00
- 場所：霞キャンパス内
- 保育対象：本学教職員の学童（新小学校1年生から6年生
（卒業生も含む））
- 指導員：業者の委託による
- 学生サポーター：広島大学在学中の学生
- 内容：休暇期間中の学習支援，屋内，屋外運動支援。



16-3. 病後児保育利用料補助事業

【病後児保育利用料補助事業の概要】

広島大学の構成員の就業と家庭生活の両立を支援することを目的として、広島大学の職員の子（6歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある子）が、病気や怪我の回復期にあるため集団保育が困難な期間について、病後児専用保育室を有する施設等を利用した場合の利用料の補助を行う事業

1. 利用対象者

広島大学に在職する職員の内、学内外の保育園を利用している者。（契約職員・非常勤職員含む。）又は、就業、介護等の事由により、その保育すべき乳幼児を家庭で保育することができない者

2. 事業内容

病後児保育施設を利用した際に支払った費用の一部を利用料補助として支援

1回あたりの支援額は、次のうちのいずれか低い額

- ・支払った金額の3分の2を超えない額（10円未満切り捨て）
- ・1,000円

3. 実施期間

前期：平成26年 4月1日～平成26年 9月30日

後期：平成26年10月1日～平成27年 3月31日

（各この期間内に利用したもの）

4. 利用回数

子ども1人あたり各期毎の実施期間中8回（8日を限度）まで

5. 制度の概要

(1) 病後児保育利用料補助事業クーポン券の利用申請

前期においては3月17日～4月18日、後期においては9月12日～10月15日に「病後児保育利用料補助事業クーポン券」の利用を希望する利用対象者を募集し、各期毎に8回分のクーポン券を交付する。

- ・利用することが未確定の者も利用申請可能。
- ・未使用のクーポン券は回収しない。（クーポン券に有効期限の記載あり）
- ・募集期間終了後における利用申請については、必ず男女共同参画推進室へ相談して了承を得た上で、申請書を提出できることとする。
- ・クーポン券の再発行は行わない。

(2) 病後児保育施設の利用

利用者が、直接当該施設に対して事前登録及び予約等の必要な手続きを行い、その利用料等を支払う。

(3) 病後児保育施設を利用したことが確認できる書類の整備

利用者は、利用施設において、病後児保育施設を利用したことが確認できる書類を交付してもらう。

- ・病後児保育施設を利用したことが確認できる記載がある「領収書」
 - ※ 領収書に病後児保育施設を利用したことを確認できる記載がない場合は、その旨の記載がある書類が、別途必要となります。

(4) 補助金の請求

利用者は、「病後児保育利用料補助金請求書」に必要書類を添付し、当月分を一括して翌月末までに男女共同参画推進室へ学内便等で提出する。

【必要書類】

- ・クーポン券の半券
- ・領収書（原本）
- ・病後児保育を利用したことが確認できる書類（領収書で確認できる場合は省略可）

(5) 補助金の支払い

内容を確認のうえ、「病後児保育利用料補助金請求書」に基づいて利用者の登録口座へ補助金を振り込む。

6. 利用対象施設

- ・ 全国病児保育協議会に加盟している広島県内の病後児保育施設
- ・ 広島県内の各市町が実施する病後児保育事業において指定された病後児保育施設
- ・ 申請により理事の承認を得て利用する病後児保育施設

16-4. キャリア支援担当員によるキャリア相談

男女共同参画推進室に2名のキャリア支援担当員を配置し、学内の女性研究者や女性院生・学部生からの相談に応じる体制を整えている。相談内容は多岐にわたっているが、研究者からは主としてキャリアの維持、キャリア形成に関する相談と、子育てなど仕事との両立支援に関する相談が多く、学生からは進路、就職に関する相談が多かった。

16-5. ユビキタス研究環境の整備

出産予定、産休、育休、育児、介護等により大学における勤務時間に制約がある女性研究者に、大学以外でも研究、教育を可能にする「ユビキタス研究環境の整備」支援を行った。

今年度は女性院生より利用申請があり、研究室と同じ環境で研究活動を効率的に進めている。

支援内容は、モバイルのノートパソコン、データ同期ソフト、ウェブカメラのリース。平成26年度は、女性研究者（4名）・女性院生（4名）の計8名が利用した。

16-6. 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の認定

(1)第1期行動計画

広島大学では、大学全体の取り組みとして、職員の仕事と子育ての両立を推進するとともに、職場全体のより働きやすい環境を整えるべく、「次世代育成支援対策推進法に基づく広島大学の行動計画（平成17年4月1日～平成22年3月31日）」を策定した。この第1期行動計画は、平成16年度に人事制度検討会議で原案を作成し、部局長連絡調整会議、教育研究評議会を経て、役員会（平成17年3月17日）で承認され、平成17年4月1日に策定された。計画期間内に第1期行動計画の8項目の目標を全て達成したことにより、平成22年6月9日に2010年認定事業主として認定を受けた。

【第1期行動計画】

計画期間 平成17年4月1日から平成22年3月31日までの5年間

内容

目標1：妻の出産に伴い取得できる休暇制度を取得しやすくするとともに、常勤職員以外の職員にも導入する。

目標2：子の看護を行うために取得できる休暇制度を取得しやすくするとともに、常勤職員以外の職員にも導入する。

目標3：男性職員の育児参加を促進するための新たな休暇制度を導入する。

目標4：期間雇用職員の育児休業制度を拡充する。

目標5：育児部分休業の対象を拡充する。

目標6：出産及び育児の支援に関する制度の周知を図るため、ホームページを作成する。

目標7：時間外労働を短縮するための措置を実施する。

目標8：年次有給休暇の取得を促進するための措置を実施する。

(2)第2期行動計画

仕事と生活が両立できる多様な制度を整備・充実し、それを活用しやすい環境を創出することを目標とし、第2期行動計画（平成22年4月1日～平成27年3月31日）を策定した。この行動計画は、男女共同参画推進委員会で原案を作成し、役員会（平成22年3月16日）で承認され、平成22年4月1日に策定されたものである。計画期間内に第2期行動計画の4項目の目標を全て達成したことにより、平成26年11月4日に2014年認定事業主として認定を受けた。

※第2期行動計画の期間及び内容の一部変更について、男女共同参画推進委員会（平成25年7月30日）で承認し、役員会（平成25年9月3日）にて報告

【第2期行動計画】

計画期間 平成22年4月1日から平成26年9月30日までの4年6ヶ月

内容

目標1：学内の保育園の運営を充実させる。

(対策) ①職員の必要に応じ、学内保育園の運営（夜間・休日勤務又は休日の学校行事等に対する夜間・休日開園等）を柔軟に対応する。（平成23年1月～）

②学童保育及び病後児保育を実施する。（平成23年4月～）

目標2：育児を行う職員が、仕事と家庭の両立を実現できるよう、柔軟な働き方を可能にする制度を構築する。

(対策) ①育児を行う職員の職場の実態に応じた柔軟な働き方を可能にする勤務時間短縮の制度導入に向けて検討し、必要に応じて整備・充実を行う。（平成24年6月～）

目標3：仕事と生活の両立支援を図る制度を取得しやすい環境を整える。

(対策) ①年次有給休暇取得率を安全衛生委員会で報告すると共に、学内掲示板及び広報誌等に掲載し、現在の状況を公表する。（平成22年10月～）

②管理職に対し、年次有給休暇等を取得しやすい環境整備促進への意識啓発を行う。（平成22年10月～）

③職員に対し、年次有給休暇等を取得しやすい環境整備促進のための啓発チラシ・掲示を行う。（平成22年10月～）

目標4：行動計画策定及び制度導入の周知・広報を行う。

(対策) HP、学内広報誌、学内掲示板及びリーフレットによる周知・広報等を行う。（平成22年4月～）



(2)第3期行動計画

職員が仕事と生活を両立し、能力を十分に発揮できるよう、両立支援のさらなる充実を目指した環境の整備に取り組むことを目的とし、第3期行動計画（平成26年10月1日～平成31年9月30日）を策定した。この行動計画は、男女共同参画推進委員会の制度グループで原案を作成し、男女共同参画推進委員会（平成26年12月19日）を経て、役員会（平成26年12月24日）にて承認し、策定された。計画期間内に全ての目標を達成できるよう取り組んでいく。

【第3期行動計画】

計画期間 平成26年10月1日から平成31年9月30日までの5年間

内容

目標1：育児を行う職員が両立支援に関する制度を更に活用しやすいように整える。。

（対策）①両立支援制度に関する活用状況を調査し、更に活用しやすい環境となるよう整備を行う。（平成27年10月～）

目標2：男性職員が積極的に育児に参加できるよう、制度を活用しやすい環境づくりに取り組む。

（対策）①男性職員の両立支援制度の利用促進のため、HPを充実させる。（平成27年4月～）

②男性職員を対象とした子育て支援セミナーを実施し、意識啓発を行う。（平成26年12月～）

目標3：年次有給休暇取得促進を図るため、環境の整備を行う。

（対策）①年次有給休暇取得に関するリーフレットを作成し、研修や学内掲示板及びHPにて職員に周知する。（平成27年4月～）

②各部署において年次有給休暇を取得しやすい環境整備を図るなど、年次有給休暇の取得の促進を図る。（平成28年10月～）

目標4：子育てに関する地域貢献活動を実施する。

（対策）①地方公共団体と連携し、認可保育園の誘致を行い、職員が職場復帰しやすい環境を整備するとともに、地方公共団体の保育施設における待機児童の解消に貢献する。（平成27年7月～）

②地域における子育て支援活動への積極的な参加や、本学において男女共同参画推進に関するセミナーを実施し、情報を発信する。（平成26年10月～）

17. リーダーシップ育成と意識啓発

17-1. 女性研究者奨励賞

広島大学の若手女性研究者が、より一層研究意欲を増すことの一助となることを期待して、平成19年度から広島大学女性研究者奨励賞が設けられた。第8回目となる平成26年度は、研究意欲向上とスキルアップ効果を促進するため、下記のとおり募集を行った。

18件の応募があり、研究計画書1件あたり複数名の学内審査員による審査を実施した結果、6件を採択した。

1. 応募資格等

(1) 応募資格：以下の条件をいずれも満たすこと。

- ① 広島大学に在籍する准教授以下の女性研究者（研究員を含む。）
- ② 文部科学省科学研究費補助金に応募実績がある者（平成27年度科学研究費補助金へ申請予定の者も含む。）
- ③ 応募した時点で、研究代表者として文部科学省科学研究費補助金等のあらゆる研究資金（外部及び内部）を得ていない者（ただし、内定の日までに研究資金を得たことがわかった場合は応募を取り消すこととする。）
- ④ 過去に本奨励賞を受賞していないこと。

※出産・育児・介護等で研究が中断した者も応募可

2. 支援金額等

- (1) 支援金額：1件あたり20万～100万円（上限）
- (2) 採択件数：4～6件程度（文系・理系 各2～3件程度）
- (3) 支援期間：採択後～平成27年3月末日

※平成27年3月末までに全額使用すること

3. 応募方法等

- (1) 応募方法：研究計画書を作成し、メール（pdfファイル）にて男女共同参画推進室へ提出
- (2) 応募締切：平成26年7月18日（金）

<平成26年度 女性研究者奨励賞 受賞者一覧>

	氏名	所属部局	職名	研究課題名	配分額 (千円)
1	七種 和美	大学院理学研究科	助教	質量分析を用いたアセチル化に伴うヌクレオソームコアの構造解析	655
2	波多野 さや佳	大学院理学研究科	助教	合理的分子設計に基づく高速逆フォトクロミック分子の創製	402
3	濱崎 佐和子	大学院生物圏科学研究科	特任助教	両生魚トビハゼの「渴き」に関連する脳領域の探索	335
4	高井 知子	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教	小胞体ストレス応答シグナルを標的とした神経変性疾患に対する新規治療基盤の構築	670
5	柳原 啓見	原爆放射線医学研究所	助教	新検出系を用いた遺伝子ターゲティング法によるヒト疾患モデル細胞の樹立とその応用	670
6	小倉 亜紗美	平和科学研究センター	助教	ボルネオ島(マレーシア・サラワク州)における地域住民参加による熱帯雨林再生活動を通じた日本とボルネオ島をつなぐESDの試み	268

17-2. 教養教育科目「ジェンダーと社会」

平成22年度から、教養教育科目として「ジェンダーと社会」を開講した。

この授業では、現在の社会におけるジェンダーを巡る諸問題について理解し、なぜ男女共同参画が必要なのか、どうすれば男女共同参画社会が実現できるのかについて考える。男女共同参画の必要性を理解すると共に、男女共同参画推進のための各種制度に関する基本的な知識を習得し、現状の問題点について考えることができるようになることを目指す。

対象：全学生

開講日時：毎週木曜日 3・4 時限

場所：総合科学部 K108

受講者数：136名

授業スケジュール：

		テーマ	講義タイトル	担当者
1	4月10日	オリエンテーション	なぜ男女共同参画について学ぶのか	森永康子
2	4月17日	「ジェンダー」とは何か	男らしさ・女らしさについて考える	北仲千里
3	4月24日		性別とは何か	北仲千里
4	5月1日		女らしさ・男らしさの獲得	森永康子
5	5月15日		ジェンダーは個人にいかに関与を及ぼすか	坂田桐子
6	5月22日	ジェンダーと結婚・家族	「家族」という制度～「近代家族」に「愛」が必要なわけ～	西村雄郎
7	5月29日		家事労働	横山美栄子
8	6月5日		結婚制度をめぐる論争	中島健一郎
9	6月12日	ジェンダーと労働	労働分野で生起している問題について	平田かおり
10	6月19日		男女共同参画推進のための制度	平田かおり
11	6月26日		労働における対人関係上の問題	横山美栄子
12	7月3日	ジェンダーと学問・教育	国際社会におけるジェンダー	恒松直美
13	7月10日		科学とジェンダー～何故女性科学者は少なかったのか	隠岐さや香
14	7月17日		広島大学における男女共同参画の現状と取り組み	中坂恵美子

17-3. 女子学生交流会 BBC

BBC(Brown Bag Chat)は、研究者を目指す女性の院生・学部生がランチを持寄って気軽に交流する会。研究者を目指す女子学生の情報交換や仲間づくりの場となっている。平成23年度から、毎月第4金曜日に東広島キャンパスの男女共同参画推進室での開催と定例化し、平成26年4月～平成27年1月までで計8回開催した。延べ21名の女子学生が参加した。

また、参加者が男女共同参画推進室の活動に関心を持ち、学童保育の指導員やイベントなどでのスタッフとして、継続して協力しているケースもある。

【BBC=Brown Bag Chat=茶色の紙袋にランチを入れて集まっておしゃべりしよう！】

参加者の声（一部抜粋）

- 院進学を考えているので、院生の方のお話しはとても参考になります。
- 専攻も出身地も違いますが、他の研究科の方とお話しすることで、様々な見識を得ることができ、視野が広がります。
- 自分とは違う領域の研究の話聞くことで新鮮に感じ、研究以外のお話もしてとても有意義な時間を過ごすことができます。今後も是非続けていただきたいです。



17-4. 女子高校生対象の体験科学講座

女子高生のための科学講座

女子高生が自ら主体的に実験・実習ができる体験型の科学講座を2回実施した。基本的には、全員が参加するコアコース、3つから4つの中から1つを選んで参加するサブコース、及び全員が参加する質問・相談コーナーの3部構成である。テーマは女子高生に身近なもので、「これも科学！」と実感し、科学に関する興味・関心を喚起できるようにした。また、参加者と講師やスタッフの女子大学生との交流の機会を設け、科学の世界に携わる女性が身近に感じられるようにした。



1. 第13回 工学編

日 時:平成27年3月7日(土)

場 所:広島大学 工学研究科

参加者:17名(参加申込者数)

内 容:

- ・コアコース「コンクリートの固まるしくみ」
- ・サブコース1「スターリングエンジンを動かしてみよう」
- ・サブコース2「教育におけるコンピュータ利用の最先端
～情報の構造を考えてみよう～」
- ・サブコース3「古くて新しい夢のある材料:ゲル
～ゲルを作って、つかってみよう!～」
- ・質問コーナー

2. 第12回 教育学部編

日 時:平成27年3月8日(日)

場 所:広島大学 教育学研究科

参加者:40名(参加申込者数)

内 容:

- ・サブコース1「食品の機能性を科学実験から考える」
- ・サブコース2「PCRの実験を体験しよう」
- ・サブコース3「細胞の骨を観察しよう」
- ・サブコース4「「こころ」を科学する」
- ・質問コーナー

参加者の声(一部抜粋)

- 科学って、やっぱりおもしろくて、楽しいものなんだなあと思いました。実際に実験してみて、たくさん手順もあるし時間もとてもかかるし大変だったけど、それよりもやっぱり楽しいという気持ちがとても大きかったです。血管内皮細胞遊走実験もマウス脳血管保護効果の検討もとても興味深かったです。
- 大学で学ぶことができる内容について、少しだけけど知ることができたので、進路の参考になりました。私は理学部と工学部で悩んでいるので、今回の体験講座をもとに、これからしっかり考えていこうと思います。

17-5. 女子高校生対象の質問・相談コーナー

広島大学オープンキャンパスにおいて、女子高校生を対象とした質問・相談コーナー『お茶会』を開催した。

日 時：平成26年8月7日(木)・8日(金)

2日間共 10:00～11:30

場 所：広島大学 東広島キャンパス 学生会館
レセプションホール

参加者：84名（内訳：高校生80名、保護者3名、
教員1名）

内 容：大学生活に対し、不安や疑問に思っている事について、お茶を飲みながら女子学生・女性院生・女性教員が質問に答えた。

1テーブル女子高校生6～7名に対し、女子学生もしくは女性院生4名が同席。女子高校生の意識啓発に高い効果があった。また、保護者からの質問に女性教員が答えた。



参加者の声（一部抜粋）

- 入学してからの生活など、大学生活の楽しさや、学部やコースの細かいことを知ることができて、より広島大学への志望が高まりました。
- 自分が志望している学部・学科だけでなく、医学部・歯学部・薬学部を含めた話が聞けたり、受験勉強とか、大学に入ってからの生活、一人暮らしの話とかが聞けて良かったと思いました。
- 高校のときの勉強の仕方や苦手科目の勉強方法 などたくさん聞くことができてよかった。大学生活のことも詳しく聞けたり、留学の話も聞けてよかった。大学生活で気をつけることも詳しく聞けてよかった。AO入試の小論文を書くコツも聞けてよかった。
- 大学の入試があるまでの高校生活や大学の入学後の生活について少し感じることができた。私は文理選択にまだ迷っていますが、今回の相談コーナーも参考にしながら将来を決めていきたいと思った。
- とても親しみやすい雰囲気でも聞きたいことが聞けて楽しかったです。不安感もかなり軽減できました。参加して良かったです。
- とても楽しい時間が過ごせました。聞きたい事を聞きやすい雰囲気でもなりました。学校内での事はもちろんですが、学校外での生活についても教えて下さったので、例えばパンフレットやホームページで見られる事とは違った事も聞けたので、見るだけと実際に聞くのでは全然違って現実的に考えられました。ありがとうございました。

- 実際の大学生活とかが具体的に分かって大学に進みたいという気持ちが強くなった。現役の学生さんの話が聞けるのは嬉しい。

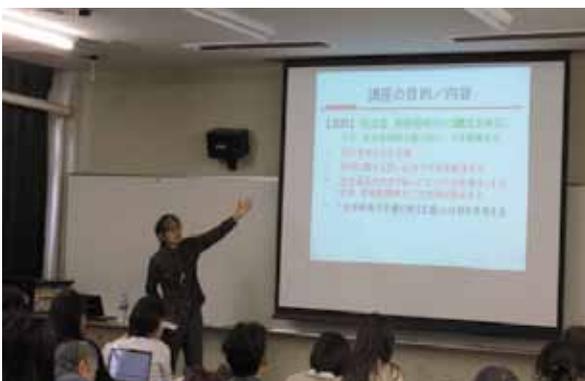


17-6. 男女共同参画セミナー

- (1) 『多様な性別、多様な絆〜24時間電話相談にみる、LGBTQ支援と制度設計の課題』

- 日時 平成26年12月3日(水) 10:30~12:00
- 場所 広島大学 総合科学部 K205 講義室
- 講師 原ミナ汰 氏
(NPO 法人共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク代表理事)
- 内容 ・LGBTQ の家庭・学校・職場・地域での多くの誤解や偏見にさらされている実情の報告と家族や職場など周囲の意識改善に向けたアドバイス

- 参加者 55名



(2) 『第3回子育て中の職員の支援セミナー（交流会）～お父さん応援プログラム～』

- 日時 平成26年12月8日（月）10:00～12:00
- 場所 広島大学 法人本部棟 2F会議室
- 講師 FSN-J 認定ファシリテーター
- 目的 厚生労働省が、男性の育児休業取得率を現状の2.03%から2020年度には13%に上げることなどを目標に掲げる中、本セミナーにおいて父親の役割について考え、情報交換を行う中で、ワークライフバランスの理解浸透を図る。さらに、本学の男性教職員の育児休業取得者数の向上へと繋げていく。また、子育て時期の教職員の実態・ニーズを把握し、子育てしやすい職場作りのため、環境を整えていく
- 参加者 20名



参加者の声（一部抜粋）

- 子どもの年齢、立場が同じ人の方がより有意義な意見交換ができそう。さらに次につながると思いました。
- これから上に立つにあたり、部下が休みやすい環境を作っていきます。
- 育児のことを考える良い機会になりました。定期的にも開催されてもよいのかと思いました。



18. ポジティブ・アクション

18-1. 教員公募文書

平成19年9月25日開催の教育研究評議会において、各部局等の教員、研究員の公募文書に次のように記載することが承認された。

公募文書の末尾に記載する定型文については、「パターン①」又は「パターン①'」を基本とし、部局等において特別の事情がある場合は、「パターン②」とする。

パターン①

広島大学は、男女共同参画を推進しています。本学は、「男女共同参画社会基本法」の趣旨に則り、業績(研究業績, 教育業績, 社会的貢献等)及び人物の評価において同等と認められた場合は女性を採用します。

Hiroshima University promotes a gender-equal society. In accordance with the legislative intent of the Basic Law for a Gender-Equal Society, our university will hire a female applicant rather than a male applicant when the achievements (including research achievements, academic achievements, societal contribution, etc) and character of both applicants are considered equal.

パターン①'

広島大学は、男女共同参画を推進しています。本学は、「男女共同参画社会基本法」の趣旨に則り、業績(研究業績, 教育業績, 社会的貢献等)及び人物の評価において優劣をつけがたいと認められた場合は女性を採用します。

Hiroshima University promotes a gender-equal society. In accordance with the legislative intent of the Basic Law for a Gender-Equal Society, our university will hire a female applicant rather than a male applicant when the achievements (including research achievements, academic achievements, societal contribution, etc) and character of both applicants are considered equal.

パターン②

広島大学は、「男女共同参画社会基本法」の趣旨に則り、男女共同参画を推進しています。

Hiroshima University promotes a gender-equal society in accordance with the legislative intent of the Basic Law for a Gender-Equal Society.

18-2. 女性教員採用割合目標値及び達成度

平成20年5月20日開催の教育研究評議会において、各部局等の女性教員採用割合の目標値が決定された。各部局及びセンター等における女性教員の割合等については、次のとおりである。

部局等名	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年5月1日現在			女性教員採用割合の目標値		
	転出教員数	採用教員数	女性教員採用割合(%)	教員現員数	うち男性数	うち女性数		女性割合(%)																			
総合科学研究科	3	7	0	5	3	33	9	4	75	2	8	25	4	3	33	3	1	100	5	1	100	117	100	17	14.5	30	
文学研究科	3	7	14	2	3	67	4	3	33	2	1	0	4	2	50	2	7	14	1	3	0	61	53	8	13.1	30	
教育学研究科	19	28	25	14	19	26	15	11	27	15	16	50	14	17	41	18	13	31	15	10	70	180	143	37	20.6	30	
社会科学研究科	5	5	20	7	4	50	7	4	50	3	5	20	5	3	0	2	2	0	5	6	50	76	68	8	10.5	30	
理学研究科	10	7	0	13	6	0	10	8	13	7	5	40	10	5	0	7	7	29	7	5	20	143	132	11	7.7	17	
先端物質科学研究科	2	4	0	5	1	0	2	5	0	4	3	67	2	1	0	1	2	50	1	1	100	57	52	5	8.8	6	
工学研究院	13	17	0	16	16	6	10	6	17	17	8	0	17	7	29	15	14	7	8	5	20	182	176	6	3.3	12	
生物圏科学研究科	3	3	0	2	3	33	3	3	0	0	4	50	6	2	50	3	3	0	2	2	50	76	69	7	9.2	26	
医歯薬保健学研究院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	32	27	14	29	282	208	74	26.2	
保健学研究科 ※1	10	6	67	4	7	43	8	2	100	7	6	67	2	5	80	3	(4)	(50)	(3)	(8)	(25)	50	(25)	26	(52.0)	50	
医歯薬学総合研究科 ※1	31	38	34	34	27	22	26	25	32	20	24	13	15	14	43	26	(18)	(28)	(24)	(6)	(33)	232	(192)	48	(20.7)	27	
国際協力研究科	3	2	0	3	3	0	5	3	0	1	3	0	3	2	0	2	1	0	4	4	0	33	31	2	6.1	30	
法務研究科	0	2	50	1	2	0	3	1	0	0	3	0	0	1	100	0	1	0	0	0	0	18	16	2	11.1	27	
原爆放射線医学研究所	6	2	50	2	8	25	5	1	0	4	2	0	4	2	0	8	7	14	2	4	50	41	34	7	17.1	27	
病院	11	2	0	9	3	0	14	4	0	13	7	14	6	6	0	8	1	0	6	2	0	91	85	6	6.6	30	
センター等(人文社会系) 外国語教育研究センター、高等教育研究開発センター、教育開発国際協力研究センター、平和科学研究センター、北京研究センター、文書館、ハラスメント相談室、総合博物館、国際センター、教養教育本部、財務・総務室、教育・国際室、学術・社会産学連携室	4	7	57	2	5	40	4	1	100	3	3	33	9	3	33	1	5	0	4	0	0	54	42	12	22.2	30	
センター等(自然科学系) 放射光科学研究センター、保健管理センター、自然科学研究支援開発センター、情報メディア教育研究センター、宇宙科学センター、環境安全センター、HISIM研究センター、先進機能物質研究センター、ナノデバイス・バイオ融合科学研究所、産学・地域連携センター	3	3	33	5	5	0	3	4	25	3	3	0	2	1	100	2	6	17	0	0	0	69	63	6	8.7	25	
合計	126	140	24	124	115	22	128	85	27	101	101	26	103	74	34	101	92	21	87	57	39	1,480	1,272	208	14.1		

※1 平成24年4月1日より、医歯薬保健学研究院に統合された。

平成24年4月1日からは、医歯薬保健学研究院の内訳を、括弧書きで記載する。

18-3. 両性の意見を意思決定に反映させる仕組みに関する提言

男女共同参画推進委員会における行動計画「2-1-1（構成員が活躍できる環境づくりに取り組む）」を実施するにあたり、男女共同参画推進委員会で「意思決定の場に両性の意見を反映させる仕組みの導入について」＜提言＞を作成し、学長へ提出した。

「意思決定の場に両性の意見を反映させる仕組みの導入について」＜提言＞

〔平成22年11月30日
男女共同参画推進委員会〕

本学では、男女共同参画を推進させるため、これまで保育施設の整備などの諸施策を行ってきたところであるが、引き続き、仕事と生活が両立できる多様な制度を整備・充実させるとともに、それを活用しやすい環境を創出するための施策等に取り組んでいるところである。

また、広島大学では、長期ビジョンに「先進的な男女共同参画の実現（男女ともに構成員が男女共同参画の理念を理解し、多様な意見や価値を認めあい、高めあうことができる職場環境を実現する。）」を掲げている。これを実現するための更なる方策の一つとして、「男女共同参画推進委員会における行動行程」（平成19年度～平成22年度の4年計画）に定められ、平成22年度に重点的に実施予定となっている行動項目「意思決定の場に両性の意見を反映させる仕組みの検討・導入」について、「広島大学男女共同参画宣言」及び「広島大学中期目標・中期計画」等も踏まえて、次のとおり提案する。

1 女性教員の割合向上(第2期中期計画に掲げている「平成27年度に女性教員割合を14%程度」にすることについて)

- ・教育研究評議会に各部局等の女性教員採用割合を継続的に報告することにより、計画の着実な実行を目指す必要がある。
- ・部局毎の目標値達成度を評価し、何らかのインセンティブを講ずるべきである。
- ・一方、この計画を確実に実行するために、大学として学長裁量分及び本年度採択された科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」を有効活用するシステムを整備すべきである。

また、男女共同参画推進委員会が主体となり、他の室と連携し、これまで行ってきた環境整備をさらに充実させるとともに、女性研究者のキャリアアップに積極的に取り組んでいくことが急務である。

2 女性管理職の割合向上

① 大学運営に係わる意思決定の最高機関である教育研究評議会等への参画

- ・理事・副学長・学内共同教育研究施設の長に、両性の意思を反映させる等の大学運営に必要な幅広い視点から、女性の役員及び評議員を配置する必要がある。

- ・早期に女性が教育研究評議会に参画できる方策として「男女共同参画の観点からその他学長が定める者若干人」等の記述を規則に追記するなど、女性に特化したポストを評議員として加えることを検討する必要がある。
- ・管理職層（女性の部局評議員）の養成が急務である。
- ・意思決定原案策定過程にも同様な観点から、各室に女性副理事の配置を検討すべきである。

② 職員（教員を除く）の女性管理職の増

- ・管理職層の養成及び管理職登用のための研修等、支援策を検討する必要がある。

3 各種会議への女性教員の参画

ジェンダーに係わることのほか、倫理・人事・教育等に関する問題を検討するにあたっては、WG等の下位組織だけではなく、最終の意思決定の場において両性が参画し、その意思を反映させることが必要であるため、両性の参画が必要な会議として下記のとおり提案する。

設置室等	会議名等
教育室	教育室企画会議, 大学院課程会議, 学士課程会議, 教育評価委員会, 教養教育委員会, 教養教育会議, 学生生活会議, 審査会(学生懲戒関係),
キャリアセンター	キャリアセンター会議
財務・総務室	施設マネジメント会議, 人事制度検討会議, ハラスメント対策委員会
※ 各会議等への参画は、各会議規則等に規定されている「必要と認めた者若干人」の委員とすることも可能。	

上記会議以外にも、短期的に設置されるものも含め、倫理・人事・教育等に関する会議・WGには、両性の意思を反映させる措置を講ずることが望ましい。

また、各研究科長等は、人事選考委員会（特に教授選考の場合）に両性を選考委員として加える措置を講ずることが望ましい。

ただし、女性教員数に限りがあるため、特定の者の負担にならないよう配慮する等、特に必要なものから実現させる必要がある。

4 両性の意見を吸い上げ、審議機関に伝え、検討結果を公表する仕組みの導入

構成員の意見を吸い上げる方策について、これまでの副理事（男女共同参画担当）が各部局において行ってきた男女共同参画意見交換会のほか、下記の方策を提案する。

- ・男女共同参画推進室のホームページに、男女共同参画に関する意見を送付することが可能な意見フォームの設置（出来るだけ記名形式とすべきであり、意見に対する回答も公表すべきである）
- ・気軽に意見交換を行える場として、講演会等の後に茶話会を実施
- ・学長・理事との意見交換会（学長のオフィス・アワーを利用した意見の提言等）

19. 構成員や学生の意見

平成26年度に行動計画「1-1-1（全教職員対象の啓発活動を推進）」を実施するにあたり、副理事（男女共同参画担当）が各部局において意見交換会を開催した。開催時間場所・開催通知等は、各部局の男女共同参画推進委員会の委員が、所属部局において調整し実施した。これらの意見交換会で出された意見を組み込んで、施策に生かしていきたい。意見交換会の実施一覧及び意見交換会で出た主な意見は次のとおりである。

平成26年度 中坂副理事との男女共同参画に関する意見交換会 実施一覧

	月 日	部 局	時 間	参加者数	参加者
1	1月 28日(水)	生物圏科学研究科	10:00～11:00	9	研究科長・教員・事務職員参加
2	2月 4日(水)	理学研究科	10:30～11:30	10	研究科長・教員・学生・事務職員参加

【教職員・学生からの意見】

- ・（教員）男女共同参画に取り組むことで、女性研究者の割合が上がってきたが、増えている女性教員の割合としては助教が多いと思う。採用された女性教員の方のポジションを上げることについて、どれだけ部局が真剣に考えるかが大事だと思う。採用の際のポイント付与だけでは、継続性は生まれないのではないかと。
- ポイント制の見直しも必要だと思うが、研究力を上げてもらうことが非常に重要になるので、研究力支援を継続して行っていきたいと考えている。
- ・（研究科長）理学研究科においては、すべての公募要領にポジティブ・アクションについて記載しており、すでに定着している。理系女性研究者活躍促進プロジェクトでは、これまでに4名の教員を採用した。男女共同参画について意識は高くなっていると思うが、平成26年5月1日での女性教員の割合は7.7%とまだ道半ばであり、今後も取り組みを継続していきたい。
- ・（教員）両立支援について、第2期が終了したということであるが、第3期の取り組みはどのようなものか。
- 第3期には大きく4つの目標を掲げている。新たに立てた目標としては、男性教職員の育児参加の推進、地域貢献について追記した。今年度は初めて男性教職員を対象に育児セミナーを実施したところである。
- ・（学生）自分がこれから研究者として、大学で勤務するのか又は企業で勤務するかと考えると、女性の場合、企業で勤務する方が困難ではないかと思う。27歳で就職となると、企業には敬遠される気がする。
- 女性だから男性だからということではなくて、修士か博士かということであれば、修士の段階で採用してしまう、といった意見を企業の方から聞いたことはある。博士を修了したような人は企業に合わないのではといった先入観があるようだが、そうではないということを企業に働きかける必要がある。冒頭で説明した産学官連絡会においても話をしている。

IV 関連資料

20. 広島大学における男女共同参画関連年表

20-1. 全学関連事項

	全学関連事項
2006年	広島大学男女共同参画宣言（平成18年10月17日）（牟田泰三学長）
2007年	広島大学女性研究者支援プロジェクト研究センター（CAPWR）の設置（平成19年2月8日）
	平成19年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択（平成19年5月18日）“リーダーシップを育む広大型女性研究者支援”（平成19年度～平成21年度）
	男女共同参画担当学長補佐の新設（平成19年5月21日）（浅原利正学長就任） 男女共同参画担当副理事に職名変更（平成19年7月1日）
	「女性研究者支援モデル育成」事業採択に係る記者会見（平成19年6月27日）
	各部局等の教員，研究員の公募文書にポジティブ・アクションを記載 “同等と認められた場合は女性を採用”（平成19年9月25日 教育研究評議会承認）
	男女共同参画に関する行動の目標及び行動計画（平成19年度～平成22年度の4年間）を決定（平成19年10月15日 役員会承認）
	女性研究者奨励賞の設置（平成19年11月20日 教育研究評議会報告）
	「広島大学男女共同参画の取組み」のリーフレットを作成（平成19年11月）
	第1回男女共同参画シンポジウム「女性が活躍する広島大学—その環境づくりに向けて—」開催（平成19年12月4日）
	2008年
学内保育園（東広島キャンパス）の名称決定（平成20年2月4日 役員会承認）	
学内保育園（東広島キャンパス）の開園（平成20年3月17日）	
高校生・大学生・大学院生むけの啓発リーフレットを作成（平成20年3月）	
広島大学の男女共同参画2007～平成19年度成果報告書～を作成（平成20年3月）	
男女共同参画推進室を設置，専任スタッフの配置（平成20年4月1日）	
学生の氏名表記の取扱い（旧姓使用の許可）（平成20年4月14日）	
男女共同参画推進室開所式 第2回男女共同参画シンポジウム「一人ひとりが輝く大学をめざして」開催（平成20年5月16日）	
女性教員の採用割合の部局別目標値設定（平成20年5月20日 教育研究評議会承認）	
女性教員の部局別採用割合（4月～6月期）の公表（平成20年7月15日 教育研究評議会報告）	
おもしろワクワク化学の世界'08 広島化学展に「リカだいすき！」コーナーを出展（平成20年7月25～27日）	
東広島夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（平成20年8月1～29日）	

2008年	高校生・大学生・大学院生むけの啓発リーフレットを作成（平成20年8月）
	女子高生向けの相談コーナー（オープンキャンパス）開設（平成20年8月7～8日）
	夏休み体験科学講座～女子高生特別コース～（平成20年8月12日）
	女性研究者が上位職を期限付きで体験できる制度としてプロフェッサーシフト（助教2名）を実施（平成20年10月1日）
	女性教員の部局別採用割合（7月～9月期）の公表（平成20年10月21日 教育研究評議会報告）
	広島県仕事と家庭の両立支援企業への登録（平成20年11月10日）
	第2回CAPWRセミナー「ドメスティック・バイオレンス(DV)とは」－医療現場で求められるDV被害者支援－（平成20年11月12日）
	第2回女性研究者奨励賞（平成20年11月18日 教育研究評議会報告）
	キャリア支援・男女共同参画セミナー（平成20年12月3日）
	第6回CAPWRセミナー「歯学部女子学生エンカレッジセミナー」（平成20年12月17日）
	クリスマス特別企画第2回体験科学講座～女子高生特別コース～（平成20年12月24日）
	2009年
第3回CAPWRセミナー「性暴力被害者支援について考える」（平成21年1月21日）	
「女性の再チャレンジなんでも相談会」を開催（平成21年2月14日）	
学生むけテキスト『あなたがあなたの道を歩むために～広島大学の男女共同参画～』を作成（平成21年2月）	
第4・5回CAPWRセミナー「パートナーや恋人からの暴力「デートDV」を知ろう」（平成21年3月4日）	
広島大学の男女共同参画2008～平成20年度成果報告書～を作成（平成21年3月）	
春休み特別企画第3回体験科学講座～女子高生特別コース～（平成21年3月14日）	
東広島春季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（平成21年3月23日～4月3日）	
女性教員の部局別採用割合（1月～3月期）の公表（平成21年4月21日 教育研究評議会報告）	
女性教員の部局別採用割合（4月～6月期）の公表（平成21年7月21日 教育研究評議会報告）	
東広島夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（平成21年7月21日～8月31日）	
女子中高生対象職場訪問「理系の職業を覗いてみよう～先輩にインタビュー～株式会社サタケ編」の実施（平成21年8月4日）	
オープンキャンパス 女子高生対象の質問・相談コーナー（平成21年8月7日）	

2009年	女子中高生のための科学教室（工学編）（平成21年8月8日）
	夏休み特別企画第4回体験科学講座～女子高生特別コース（薬学部編） （平成21年8月11日）
	女子中高生対象職場訪問「理系の職業を覗いてみよう～先輩にインタビュー～独立行政法人酒類総合研究所編」の実施（平成21年8月21日）
	広島大学病院保育園（たんぼぼ保育園）を大学直営化（平成22年10月1日）
	第7・8回CAPWRセミナー「女性のためのアサーティブ・トレーニング」（東広島：平成21年10月19日／霞：平成21年10月23日）
	平成22年度における教員人件費ポイントにおいて女性教員採用支援分を措置（助教採用4名・助教→准教授へのポストアップ2名分）（平成21年10月20日役員会承認）
	女性教員の部局別採用割合（7月～9月期）の公表 （平成21年10月20日 教育研究評議会報告）
	おもしろワクワク化学の世界'09 広島化学展 mini 版に「リカとコンピュータ」コーナーを出展（平成21年10月24・25日）
	第10回CAPWRセミナー「～第1回女性研究者の研究を聴こう～」 （平成21年11月10日）
	第3回女性研究者奨励賞（平成21年11月17日 教育研究評議会報告）
	理系女性研究者活躍促進プロジェクト設置（平成21年11月17日）
	女子中高生のための科学教室（理学編）（平成21年11月28日）
	第1回中国四国男女共同参画シンポジウム（第3回広島大学男女共同参画シンポジウム） ～『協働』社会へ～ 中国四国地方からのアピール（平成21年12月21日）
	平成22年度女性教員採用支援分の人件費ポイントの配分計画決定（平成21年12月22日役員会承認）
	東広島冬季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（平成21年12月24日～平成22年1月6日）
	第9回CAPWRセミナー「草食系男子の恋愛について～その生態と男女共同参画～」開催 （平成22年1月12日）
	第1回・2回女性研究者のためのスキルアップ講座を開催 （平成22年1月15日・2月23日）
	女性教員の部局別採用割合（10月～12月期）の公表 （平成22年1月19日 教育研究評議会報告）
	学生向けテキスト『あなたがあなたの道を歩むために～広島大学の男女共同参画～』を作成（平成22年2月）
平成22年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップの実施（助教→准教授）1名（大学院工学研究科）（平成22年2月1日）	

2009年	病後児保育利用料補助事業の実施（平成22年2月15日～3月31日）
	広島大学の男女共同参画2009 ～平成21年度成果報告書～を作成（平成22年3月）
	リーダーシップを育む広大型女性研究者支援 ～平成19～21年度成果報告書～を作成（平成22年3月）
	女子中高生のための科学教室（総合科学編）（平成22年3月13日）
	次世代育成支援のための第2期行動計画の策定（平成22年3月16日役員会承認）
	東広島春季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（平成22年3月23日～4月5日）（4月からは大学にて実施）
	女子中高生対象職場訪問「理系の職業を覗いてみよう～先輩にインタビュー～三菱レイヨン株式会社編」の実施（平成22年3月26日）
2010年	次世代育成支援のための第2期行動計画の届出（平成22年4月12日）
	女性教員の部局別採用割合（1月～3月期）の公表 （平成22年4月21日 教育研究評議会報告）
	広島県仕事と家庭の両立支援企業への登録（更新）（平成22年5月6日）
	次世代育成支援対策推進法に基づく2010年認定事業主として認定（平成22年6月9日）
	第1回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者のための研究資金獲得実践セミナー」開講（平成22年7月～9月）
	女性教員の部局別採用割合（4月～6月期）の公表 （平成22年7月20日 教育研究評議会報告）
	東広島夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（平成22年7月21日～8月27日）
	オープンキャンパス2010 女子高校生・受験生対象の質問・相談コーナー （平成22年8月8日）
	「女性研究者活躍促進事業」における支援内容説明会（平成22年8月10日）
	女性教員限定公募実施（大学院先端物質科学研究科）（平成22年8月19日～10月20日）
	人材育成推進室に女性研究者キャリアアップ部会を設置（平成22年9月1日）
	女性教員限定公募実施（大学院理学研究科）（平成22年9月6日～11月1日）
	女性教員限定公募実施（大学院生物圏科学研究科）（平成22年9月14日～10月29日）
	女性教員限定公募実施（大学院教育学研究科）（平成22年9月22日～10月20日）
	女性教員の部局別採用割合（7月～9月期）の公表 （平成22年10月19日 教育研究評議会報告）
	平成23年度女性教員採用支援分の人件費ポイントの配分計画決定（助教採用4名分・助教→准教授へのポストアップ2名分・教授及び准教授を各1名分） （平成22年10月19日役員会承認）
	第4回女性研究者奨励賞（平成22年10月19日 教育研究評議会報告）

2010年	仕事と家庭の両立支援制度の活用状況調査 (平成22年11月15日～平成23年1月14日)
	「意思決定の場に両性の意見を反映させる仕組みの導入について」<提言>を学長へ提出 (平成22年12月7日 役員打合せ)
	「女性研究者活躍促進事業」における経理担当者説明会(平成22年12月17日)
	東広島冬季子どもクラブ事業(学童保育)の実施 (平成22年12月24日～平成23年1月6日)
	女子高生のための体験科学講座(工学編)(平成22年12月25日)
	新規養成女性教員1名採用(大学院先端物質科学研究科:准教授)(平成23年1月1日)
	女性教員の部局別採用割合(10月～12月期)の公表 (平成23年1月18日 教育研究評議会報告)
	第2回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者スキルアップ交流会」開催 (平成23年1月24日)
	新規養成女性教員2名採用(大学院理学研究科・大学院生物圏科学研究科:助教) (平成23年2月1日)
	女性教員限定公募実施(大学院工学研究院)(平成23年2月8日～3月31日)
	男女共同参画に関する行動の目標及び行動計画(平成23年度～平成27年度の5年間)を 決定(平成23年3月1日役員会承認・平成23年3月8日教育研究評議会報告)
	第3回女性研究者キャリアアップセミナー「科学英語論文ライティングセミナー」開催(平 成23年3月1日)
	女子高生のための体験科学講座(生物生産学部編)(平成23年3月12日・13日)
	『広大システム改革による女性研究者活躍促進』シンポジウム～活躍する女性研究者から のメッセージ～(平成23年3月17日)
	広島大学の男女共同参画2010 ～平成22年度成果報告書～を作成(平成23年3月)
東広島春季子どもクラブ事業(学童保育)(平成23年3月28日～4月5日)	
2011年	新規養成女性教員1名採用(大学院生物圏科学研究科:助教)(平成23年4月1日)
	病後児保育利用料補助事業を1施設との請負契約にて実施 (平成23年4月1日～9月30日)
	女性教員の部局別採用割合(1月～3月期)の公表 (平成23年4月19日 教育研究評議会報告)
	女性教員限定公募実施(大学院工学研究院)(平成23年5月2日～7月1日)
	男女共同参画セミナー「イクメン・家事男についての話をしよう」開催 (平成23年5月26日)
	男女共同参画セミナー「ベトナムの大学事情と男女共同参画について」開催 (平成23年5月26日)
	新規養成女性教員1名採用(大学院工学研究院:助教)(平成23年6月1日)

2011年	平成 23 年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップの実施（助教→准教授）1名（大学院理学研究科）（平成 23 年 6 月 1 日）
	女性教員限定公募実施（大学院総合科学研究科）（平成 23 年 6 月 28 日～9 月 2 日）
	女性教員の部局別採用割合（4 月～6 月期）の公表 （平成 23 年 7 月 19 日 教育研究評議会報告）
	オープンキャンパス 2011 女子高校生対象の質問・相談コーナー （平成 23 年 8 月 8 日～8 月 9 日）
	夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成 23 年 7 月 21 日～8 月 31 日）
	第 4 回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者のための研究資金獲得実践セミナー」開講（平成 23 年 9 月～10 月）
	第 5 回女性研究者キャリアアップセミナー「Go!Go!郷塾★ ～女性学長への道～」開催（平成 23 年 9 月～11 月）
	新規養成女性教員 1 名採用（大学院工学研究院：助教）（平成 23 年 10 月 1 日）
	病後児保育利用料補助事業を対象となる利用施設数を拡充して実施（平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）
	女性教員の部局別採用割合（7 月～9 月期）の公表 （平成 23 年 10 月 18 日 教育研究評議会報告）
	第 5 回女性研究者奨励賞（平成 23 年 10 月 18 日 教育研究評議会報告）
	第 2 回メンター講習会（平成 23 年 10 月 25 日）
	第 5 回女性研究者奨励賞（平成 23 年 10 月 18 日 教育研究評議会報告）
	女子高生のための体験科学講座（理学編）（平成 23 年 12 月 17 日）
	女子高生のための体験科学講座（先端物質科学編）（平成 23 年 12 月 24 日）
	冬季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区）（平成 23 年 12 月 26 日～1 月 6 日）
	女性教員の部局別採用割合（10 月～12 月期）の公表（平成 24 年 1 月 17 日 教育研究評議会報告）
	女性教員限定公募実施（大学院工学研究院）（平成 24 年 1 月 30 日～3 月 29 日）
	女性教員限定公募実施（大学院医歯薬保健学研究科）（平成 24 年 2 月 3 日～2 月 13 日）
	第 6 回女性研究者キャリアアップセミナー「広島大学女性研究者スキルアップ交流会」開催（平成 24 年 2 月 16 日）
第 7 回女性研究者キャリアアップセミナー「世界化学年と女性研究者」（相馬芳枝先生を囲んで）開催（平成 24 年 2 月 21 日）	
学生向けテキスト「あなたがあなたの道を歩むために～広島大学の男女共同参画～」改訂（平成 24 年 2 月）	
女性教員限定公募実施（大学院先端物質科学研究院）（平成 24 年 3 月 13 日～5 月 11 日）	
第 8 回女性研究者キャリアアップセミナー「英語論文ライティングセミナー」開催	

2011年	(平成24年3月19日・21日)
	男女共同参画セミナー「性差問題へのアプローチ」(平成24年3月22日)
	4プロジェクト合同シンポジウム(平成24年3月30日)
	広島大学の男女共同参画2011 ～平成23年度成果報告書～を作成(平成24年3月)
	春季子どもクラブ事業(学童保育)の実施(東広島地区・広島地区) (平成24年3月26日～4月6日)
2012年	新規養成女性教員1名採用(大学院総合科学研究科:准教授)(平成24年4月1日)
	新規養成女性教員1名採用(大学院医歯薬保健学研究院(医):助教)(平成24年4月1日)
	女性教員の部局別採用割合(1月～3月期)の公表(平成24年4月10日 教育研究評議会報告)
	病後児保育利用料補助事業を対象となる利用施設数を拡充して実施(平成24年4月1日～平成24年9月30日)
	新規養成女性教員1名採用(大学院医歯薬保健学研究院(歯):助教)(平成24年5月1日)
	新規養成女性教員1名採用(大学院工学研究院:教授)(平成24年6月1日)
	オープンキャンパス2012 女子高校生対象の質問・相談コーナー (平成24年8月7日～8月8日)
	第9回女性研究者キャリアアップセミナー「広島大学女性研究者スキルアップ交流会」開催(平成24年7月13日)
	女性教員の部局別採用割合(4月～6月期)の公表 (平成24年7月17日 教育研究評議会報告)
	夏季子どもクラブ事業(学童保育)の実施(東広島地区・広島地区) (平成24年7月23日～8月31日)
	新規養成女性教員1名採用(大学院先端物質科学研究科:准教授)(平成24年8月1日)
	第10回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者のための研究資金獲得実践セミナー」開講(平成24年8月～9月)
	第6回女性研究者奨励賞(平成24年9月18日 教育研究評議会報告)
	女性教員の部局別採用割合(7月～9月期)の公表 (平成24年10月16日 教育研究評議会報告)
	男女共同参画セミナー「女性のための護身術(WEN-DO)」開催 (平成24年10月27日・28日)
	病後児保育利用料補助事業を対象となる利用施設数を拡充して実施 (平成24年10月1日～平成25年3月31日)
	女性教員限定公募実施(大学院理学研究科)(平成24年11月14日～12月14日)
	第11回女性研究者キャリアアップセミナー「広島大学女性研究者スキルアップ交流会」開催(平成24年12月22日)
	冬季子どもクラブ事業(学童保育)の実施(東広島地区・広島地区) (平成24年12月25日～平成25年1月7日)

2012年	女性教員の部局別採用割合（10月～12月期）の公表 （平成25年1月15日 教育研究評議会報告）
	平成25年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップの実施（助教→准教授）2名（大学院理学研究科・医歯薬保健学研究院(医)） （平成25年1月31日）
	第12回女性研究者キャリアアップセミナー「広島大学女性研究者スキルアップ交流会」開催（平成25年2月22日）
	女子高生のための体験科学講座（工学部編）（平成25年3月9日）
	女子高生のための体験科学講座（総合科学部編）（平成25年3月16日）
	第13回女性研究者キャリアアップセミナー「英語論文ライティングセミナー」開催 （平成25年3月18日・19日・27日）
	広島大学の男女共同参画2012～平成24年度成果報告書～を作成（平成25年3月）
	女性教員限定公募実施（大学院生物圏科学研究科）（平成25年3月18日～5月31日）
	春季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成25年3月26日～4月5日）
2013年	女性教員限定公募実施（大学院総合科学研究科）（平成25年4月3日～5月31日）
	女性教員の部局別採用割合（1月～3月期）の公表 （平成25年4月16日 教育研究評議会報告）
	病後児保育利用料補助事業を対象となる利用施設数を拡充して実施 （平成25年4月1日～平成25年9月30日）
	新規養成女性教員1名採用（大学院理学研究院：助教）（平成25年5月1日）
	女性教員の部局別採用割合（4月～6月期）の公表 （平成25年7月17日 教育研究評議会報告）
	夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成25年7月22日～8月30日）
	第14回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者のための研究資金獲得実践セミナー」開催（平成25年7月～8月）
	女性教員限定公募実施（大学院理学研究科）（平成25年8月2日～9月27日）
	オープンキャンパス2013 女子高校生対象の質問・相談コーナー （平成25年8月7日～8月8日）
	男女共同参画セミナー「ヨーロッパ／スペインでのDV・ストーカー・性暴力対策とは」 開催（平成25年8月9日）
	第15回女性研究者キャリアアップセミナー「英語論文ライティングセミナー」開催（平成25年9月3日・4日）
	第16回女性研究者キャリアアップセミナー 第2回日米女性研究者シンポジウム参加報告及びパネルディスカッション ～女性研究者のキャリアを考える～ 開催（平成25年9月4日）

2013年	新規養成女性教員1名採用（大学院生物圏科学研究科：講師）（平成25年10月1日）
	新規養成女性教員1名採用（大学院総合科学研究科：准教授）（平成25年10月1日）
	病後児保育利用料補助事業を対象となる利用施設数を拡充して実施（平成25年10月1日～平成26年3月31日）
	女性教員限定公募実施（大学院工学研究院）（平成25年10月17日～12月18日）
	第7回女性研究者奨励賞（平成25年10月15日 教育研究評議会報告）
	女性教員の部局別採用割合（7月～9月期）の公表 （平成25年10月15日 教育研究評議会報告）
	男女共同参画企画シンポジウム「女性が企業で活躍する」開催（平成25年11月16日）
	女性教員限定公募実施（原爆放射線医科学研究所） （平成25年12月20日～平成26年1月24日）
	女性教員限定公募実施（大学院国際協力研究科） （平成25年12月25日～平成26年3月20日）
	冬季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成25年12月19日～平成26年1月8日）
	女性教員の部局別採用割合（10月～12月期）の公表 （平成26年1月21日 教育研究評議会報告）
	平成26年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者の決定（助教→准教授）1名（大学院医歯薬保健学研究院(医)）（平成26年1月30日）
	女性活躍シンポジウム「女性が活躍する企業が強いワケ ～イノベーションを創り出す組織づくりへ～」開催（平成26年2月8日）
	女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（オタフクソース(株)） （平成26年2月21日）
	新規養成女性教員1名採用（大学院工学研究院：助教）（平成26年3月1日）
	女子高生のための体験科学講座（生物生産学部編）（平成26年3月1日）
	第17回女性研究者キャリアアップセミナー「英語論文ライティングセミナー」開催 （平成26年3月3日・4日）
	女子高生のための体験科学講座（理学部編）（平成26年3月15日）
	女性研究者活躍促進シンポジウム「女性研究者活躍促進シンポジウム ～研究する人生、という選択～」開催（平成26年3月17日）
	女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（(株)サタケ）（平成26年3月19日）
	女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（三菱レイヨン(株)） （平成26年3月27日）
	広島大学の男女共同参画2013 ～平成25年度成果報告書～を作成（平成26年3月）
	春季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成26年3月24日～4月8日）
2014年	新規養成女性教員1名採用（大学院理学研究科：助教）（平成26年4月1日）

2014年	新規養成女性教員1名採用（原爆放射線医科学研究所：助教）（平成26年4月1日）
	女性教員の部局別採用割合（1月～3月期）の公表 （平成26年4月15日 教育研究評議会報告）
	病後児保育利用料補助事業（平成26年度前期）の実施 （平成26年4月1日～9月30日）
	女性教員の部局別採用割合（4月～6月期）の公表 （平成26年7月15日 教育研究評議会報告）
	夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成26年7月22日～8月29日）
	第18回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者のための研究資金獲得実践セミナー」の開催（平成26年7月28日，8月18日）
	オープンキャンパス2014 女子高生・受験生対象の質問・相談コーナー「お茶会」の実施 （平成26年8月7日，8日）
	新規養成女性教員1名採用（大学院国際協力研究科：講師）（平成26年10月1日）
	病後児保育利用料補助事業（平成26年度後期）の実施 （平成26年10月1日～平成27年3月31日）
	女性教員の部局別採用割合（7月～9月期）の公表 （平成26年10月21日 教育研究評議会報告）
	「働く女性応援セミナー」の実施（公益財団法人広島県男女共同参画財団との共催） （平成26年10月31日，11月14日）
	次世代育成支援対策推進法に基づく2014年認定事業主として認定（平成26年11月14日）
	第19回女性研究者キャリアアップセミナー「英語プレゼンテーションスキルを高めるセミナー」の開催（平成26年11月15日，16日）
	女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（(株)サタケ） （平成26年11月27日）
	女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（湧永製薬(株)） （平成26年12月1日）
	女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（三菱レイヨン(株)） （平成26年12月3日）
	広島大学男女共同参画セミナー「多様な性別，多様な絆～24時間電話相談にみる，LGBTQ支援と制度設計の課題」の開催（平成26年12月3日）
	広島大学男女共同参画セミナー「第3回子育て中の職員の支援セミナー（交流会）～お父さん応援プログラム～」の開催（平成26年12月8日）
	女性教員限定公募実施（大学院総合科学研究科：助教） （平成26年12月18日～平成27年1月15日）
	「女性研究者活躍促進シンポジウムー将来を真剣に考えるあなたにはきっと明るい未来が訪れるー」の開催（平成26年12月18日）

2014年	メンタリング研修会「メンタリングの Why, What, How - メンターとして知っておきたい基本」の開催（平成26年12月22日）
	管理職セミナー「管理職の極意 - チームを介して成果をあげるための基本」の開催（平成26年12月22日）
	次世代育成支援のための第3期行動計画の策定（平成26年12月24日役員会承認）
	冬季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成26年12月19日～平成27年1月7日）
	独自養成女性教員1名採用（大学院総合科学研究科：准教授）（平成27年1月1日）
	女性教員の部局別採用割合（10月～12月期）の公表 （平成27年1月20日 教育研究評議会報告）
	女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（マツダ(株)）（平成27年2月23日）
	第20回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者スキルアップ交流会」開催 （平成27年2月27日）
	新規養成女性教員1名採用（大学院総合科学研究科：助教）（平成27年3月1日）
	平成27年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者の決定【助教→准教授】1名（大学院理学研究科），【准教授→教授】2名（大学院総合科学研究科，大学院国際協力研究科）（平成27年3月6日）
	女子高生のための体験科学講座（工学部編）（平成27年3月7日）
	女子高生のための体験科学講座（教育学部編）（平成27年3月8日）
	女性研究者研究活動支援事業（拠点型）セミナー「社員にとっても企業にとっても大損失！それが介護離職・・・今日からできる仕事と介護の両立支援 実践セミナー」 （平成27年3月13日）
	第21回女性研究者キャリアアップセミナー「英語プレゼンテーションスキルを高めるセミナー」の開催（平成27年3月24日，25日）
	広島大学の男女共同参画2014 ～平成26年度成果報告書～を作成（平成27年3月）
	春季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成27年3月23日～4月7日）

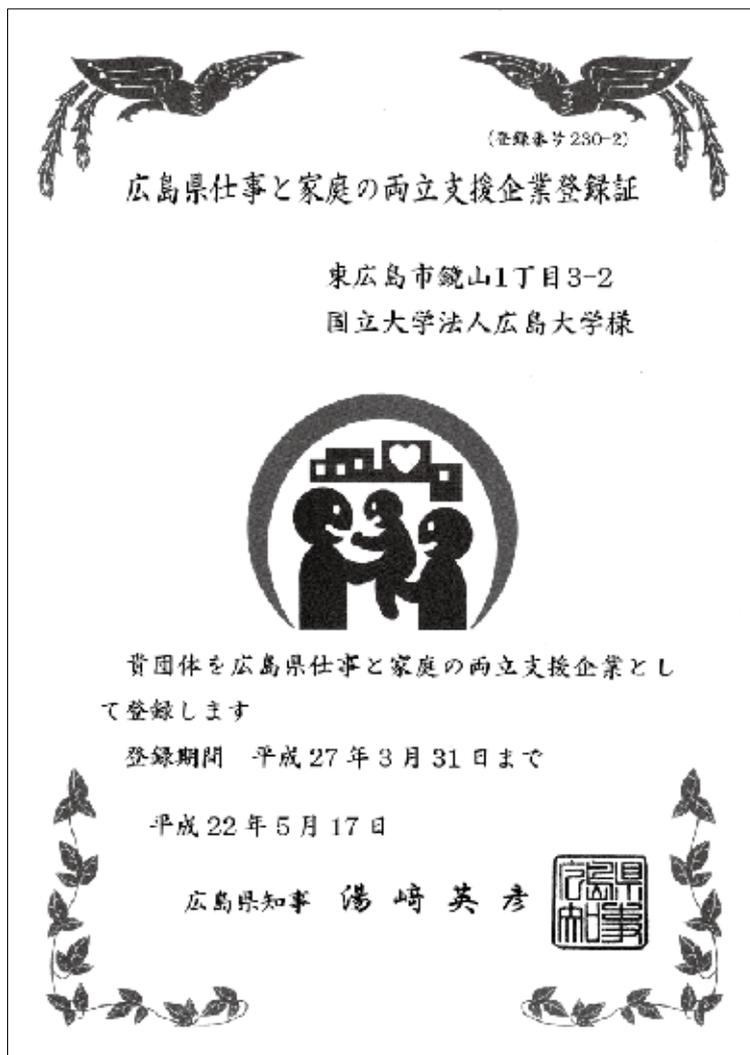
20-2. 男女共同参画推進委員会関連事項

	委員会関連事項
2007年	男女共同参画推進委員会の設置（平成19年2月1日）
	男女共同参画ホームページの開設（平成19年6月） 全学ホームページ教員公募欄に女性の応募を促す表現を記載
	副理事による部局巡り・意見交換会（平成19年6月18日～8月3日）
	男女共同参画に関する行動の目標及び行動計画（平成19年度～平成22年度の4年間）を策定。委員会の下に検討グループ（教育，制度，社会）を設置（平成19年9月26日 第4回委員会）
	女性教員，研究員等のメーリングリスト作成，運用開始（平成19年10月1日）
	女性教員比率の数値目標達成に向けた対応の検討について（平成19年10月17日 教員人員等検討会議座長あて要請）
	行動項目（平成19年度後半，平成20年度前半）の策定（平成19年11月19日 第5回委員会）
	3つの検討グループ（教育，制度，社会）において，平成19年度の重点項目を策定し，行動開始
	学内保育園（東広島キャンパス）の名称を学内公募（平成19年12月18日～平成20年1月10日）
2008年	学内保育園（東広島キャンパス）の名称候補決定（平成20年1月31日 第6回委員会）
	女性教員採用割合の目標値設定について（平成20年3月3日 第7回委員会）
	行動項目（平成20年度）の策定（平成20年3月11日 第8回委員会）
	副理事による部局巡り・意見交換会（平成20年7月14日～8月18日，平成21年1月28日）
	女性研究者が上位職を期限付きで体験するプロフェッサーシフトの候補者を公募（平成20年7月15日～8月26日） （平成20年9月9日 第11回委員会において候補者決定）
2009年	行動項目（平成21年度）の策定（平成21年1月27日 第13回委員会）
	副理事による部局巡り・意見交換会（平成21年7月8日～10月15日）
	平成22年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成21年10月27日～11月9日） （平成21年11月17日 第17回委員会において候補者決定）
	次期一般事業主行動計画の策定（平成22年1月28日 第18回委員会）
	行動項目（平成22年度）の策定（平成22年3月10日 第19回委員会）
2010年	学生に対する男女共同参画意識調査の実施（平成22年10月1日～10月25日）
	副理事による部局巡り・意見交換会（平成22年10月～12月）

2010年	平成23年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成22年10月15日～11月8日） （平成22年11月30日第24回委員会において候補者決定）
	「意思決定の場に両性の意見を反映させる仕組みの導入について」＜提言＞を作成（平成22年11月30日 第24回委員会）
	副理事によるポストアップの実情調査（平成22年12月14日）
	男女共同参画に関する行動の目標及び行動計画（平成23年度～平成27年度の5年間）及び行動項目（平成23年度）の策定（平成23年2月9日 第25回委員会）
2011年	副理事による部局巡り・意見交換会（平成23年10月～平成24年2月）
	平成24年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成23年12月20日～平成24年1月13日） （平成24年2月23日第30回委員会において候補者決定）
	行動項目（平成24年度）の策定（平成24年2月23日 第30回委員会）
2012年	副理事による部局巡り・意見交換会（平成24年9月～平成24年11月）
	平成25年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成24年11月27日～平成24年12月12日） （平成25年1月31日 第34回委員会において候補者決定）
	行動項目（平成25年度）の策定（平成25年1月31日 第34回委員会）
2013年	副理事による部局巡り・意見交換会（平成25年12月～平成26年1月）
	平成26年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成25年12月2日～平成25年12月18日） （平成26年1月30日 第40回委員会において候補者決定）
	行動項目（平成26年度）の策定（平成26年1月30日 第40回委員会）
2014年	副理事による部局巡り・意見交換会（平成27年1月～2月）
	次期一般事業主行動計画の策定（平成26年12月19日 第43回委員会）
	平成27年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成26年12月24日～平成26年1月19日） （平成27年3月6日 第44回委員会において候補者決定）
	行動項目（平成27年度）の策定（平成27年3月6日 第44回委員会）

2 1. 広島県「仕事と家庭の両立支援企業」

広島県「仕事と家庭の両立支援企業登録制度」とは、「仕事と家庭の両立」に向けて取り組むことを宣言された企業を、県が登録する制度。登録企業には、登録証を交付するとともに、ホームページなどで、企業の取組み内容を県内外に広く紹介する。平成 17 年 4 月 1 日、広島大学では、広島大学全体での取り組みとして、職員の仕事と子育ての両立を推進するとともに、職場全体のより働きやすい環境を整えるべく、「次世代育成支援対策推進法に基づく広島大学の行動計画」を策定した。このことが認められ、「仕事と家庭の両立支援企業」に登録された。



22. 広島大学における女性の割合

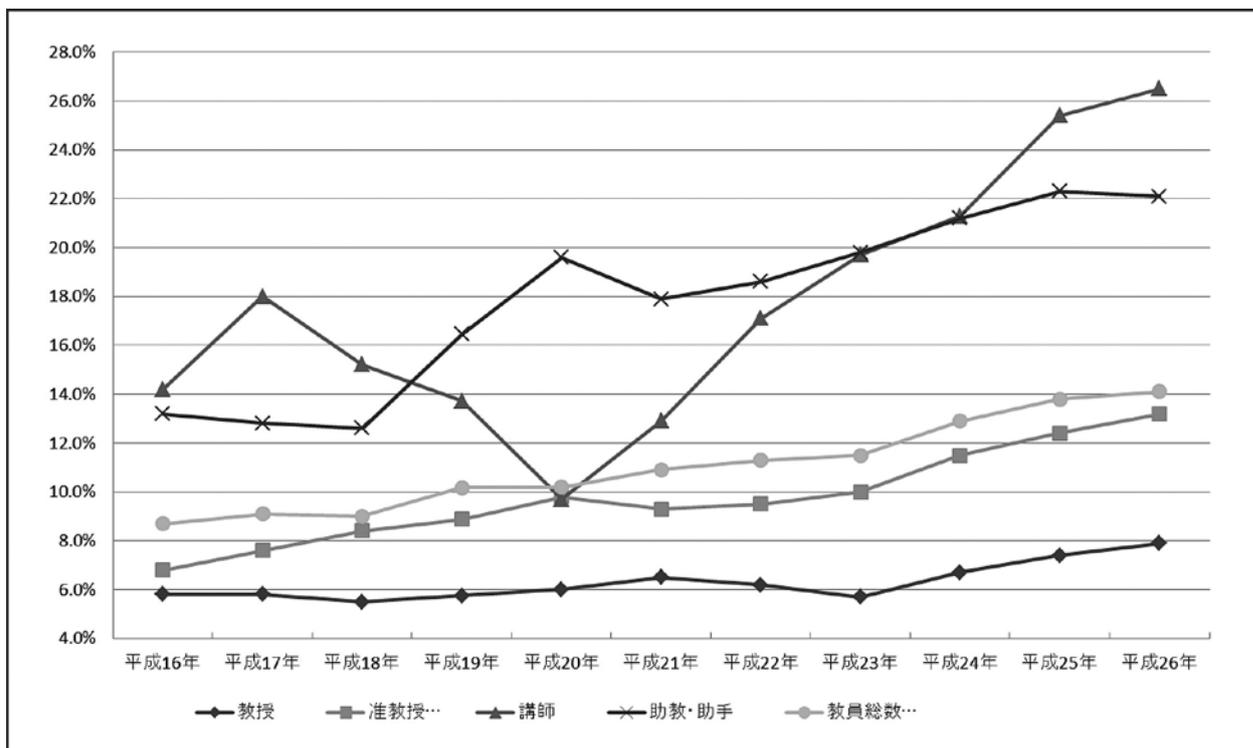
22-1. 職種別，本給表別在職状況

職種	本給表	合計	男性	女性	女性比率
役員	指定職	8	8	0	0
大学教員	教育職(A)	1,478	1,270	208	14.1%
	海事職(A)	2	2	0	0
附属学校教員	教育職(B)	108	84	24	22.2%
	教育職(C)	107	51	56	52.3%
一般職員	一般職	584	377	207	35.4%
技術職員	一般職	77	70	7	9.1%
技能・労務職員	技能職	2	1	1	50.0%
海事職員	海事職(A)	6	6	0	0
	海事職(B)	4	4	0	0
看護職員	看護職	809	86	723	89.4%
医療職員	医療職	139	69	70	50.4%
計		3,324	2,028	1,296	39.0%

平成26年5月1日現在（休職・休業者および出向中の者を除く）

22-2. 教員における女性の割合の変遷

各年度5月1日現在の，女性の割合は次のとおりである。



22-3. 教職員の職名別在職状況

平成26年5月1日現在の状況を次に示す。

(1) 大学教員の職名別女性比率

職名	合計	男性	女性	女性比率
教授	595	548	47	7.9%
准教授	433	376	57	13.2%
講師	117	86	31	26.5%
助教	330	257	73	22.1%
助手	5	5	0	0
計	1,480	1,272	208	14.1%

(2) 附属高等学校教諭等の職名別女性比率

職名	合計	男性	女性	女性比率
教頭	2	2	0	0
教諭	104	82	22	21.2%
養護教諭	2	0	2	100.0%
計	108	84	24	22.2%

(3) 附属小・中学校・幼稚園教諭等の職名別女性比率

職名	合計	男性	女性	女性比率
教頭	6	4	2	33.3%
教諭	89	47	42	47.2%
養護教諭	9	0	9	100.0%
栄養教諭	3	0	3	100.0%
計	107	51	56	52.3%

(4) 一般職員（事務系）の職名別女性比率

職名	合計	男性	女性	女性比率
部長・副理事・グループリーダー・主幹・高度専門職・室長	60	57	3	5.0%
副グループリーダー・副室長・専門員	41	36	5	12.2%
主査・専門職員	177	124	53	29.9%
主任	127	63	64	50.4%
グループ員・室員	126	62	64	50.8%
計	531	342	189	35.6%

(5) 一般職員（図書系）の職名別女性比率

職名	合計	男性	女性	女性比率
副図書館長・グループリーダー	3	3	0	0
副グループリーダー	1	0	1	100.0%
主査	8	4	4	50.0%
主任	3	1	2	66.7%
グループ員	11	1	10	90.9%
計	26	9	17	65.4%

(6) 一般職員（施設系）の職名別女性比率

職名	合計	男性	女性	女性比率
副理事・グループリーダー	4	4	0	0
副グループリーダー	4	4	0	0
主査	9	9	0	0
主任	5	4	1	20.0%
グループ員	5	5	0	0%
計	27	26	1	3.7%

(7) 技術職員の職名別女性比率

職名	合計	男性	女性	女性比率
技術専門員	10	9	1	10.0%
技術専門職員	26	26	0	0
技術主任	17	16	1	5.9%
技術員	24	19	5	20.8%
計	77	70	7	9.1%

22-4. 役員等

役職等	合計	男性	女性	女性比率
学長	1	1	0	0
理事・副学長兼務	4	4	0	0
理事	1	1	0	0
副学長	7	6	1	14.3%
監事	2	2	0	0
学長特命補佐	7	7	0	0
副理事	22	20	2	9.1%
部長	2	2	0	0
副図書館長	1	1	0	0
役員会	6	6	0	0
経営協議会	14	12	2	14.3%
教育研究評議会	45	43	2	4.4%
部局長	18	18	0	0
計	130	123	7	5.4%

22-5. 全学委員会

委員会名	合計	男性	女性	女性比率
評価委員会	22	21	1	4.5%
動物実験委員会	14	13	1	7.1%
組換え DNA 実験安全委員会	13	13	0	0
放射性同位元素委員会	11	11	0	0
バイオセーフティ委員会	9	9	0	0
ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会	7	5	2	28.6%
疫学研究倫理審査委員会	7	6	1	14.3%
遺伝子治療臨床研究審査委員会	7	6	1	14.3%
ヒトES細胞研究倫理審査委員会	7	4	3	42.9%
臨床研究倫理審査委員会	7	6	1	14.3%
ヒト幹細胞臨床研究倫理審査委員会	7	6	1	14.3%
男女共同参画推進委員会	20	11	9	45.0%
女性研究者活動委員会	12	5	7	58.3%
計	143	116	27	18.9%

22-6. 学部学生および大学院生

	合計	男性	女性	女性比率
学部学生	10,959	6,939	4,020	36.7%
博士課程前期	2,440	1,667	773	31.7%
博士課程後期	1,711	1,081	630	36.8%
専門職学位課程	90	64	26	28.9%
計	15,200	9,751	5,449	35.8%

(1) 学部学生

	合計	男性	女性	女性比率
総合科学部	593	314	279	47.0%
文学部	635	305	330	52.0%
教育学部	2,148	1,007	1,141	53.1%
法学部	815	513	302	37.1%
経済学部	954	719	235	24.6%
理学部	1,060	862	198	18.7%
医学部（医学科）	708	506	202	28.5%
医学部（保健学科）	521	119	402	77.2%
歯学部	504	194	310	61.5%
薬学部	330	155	175	53.0%
工学部	2,234	1,995	239	10.7%
生物生産学部	457	250	207	45.3%
計	10,959	6,939	4,020	36.7%

(2) 大学院生

	博士課程後期, 専門職学位課程				博士課程前期			
	合計	男性	女性	女性比率	合計	男性	女性	女性比率
総合科学研究科	101	39	62	61.4%	150	81	69	46.0%
文学研究科	86	38	48	55.8%	159	63	96	60.4%
教育学研究科	236	126	110	46.6%	374	178	196	52.4%
社会科学研究科	75	45	30	40.0%	149	76	73	49.0%
理学研究科	105	84	21	20.0%	305	228	77	25.2%
先端物質科学研究科	65	58	7	10.8%	190	168	22	11.6%
保健学研究科	49	13	36	73.5%	3	1	2	66.7%
医歯薬保健学研究科	420	261	159	37.9%	133	69	64	48.1%
工学研究科	169	144	25	14.8%	628	576	52	8.3%
生物圏科学研究科	78	52	26	33.3%	167	108	59	35.3%
医歯薬学総合研究科	250	176	74	29.6%	4	2	2	50.0%
国際協力研究科	77	45	32	41.6%	178	117	61	34.3%
法務研究科	90	64	26	28.9%				
計	1,801	1,145	656	36.4%	2,440	1,667	773	31.7%

23. 平成26年度成果のまとめ

平成26年度も、平成25年度に引き続き「広大システム改革による女性研究者活躍促進」の取り組み（最終年度、本報告書第I部）及び「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」の取り組み（2年目、本報告書第II部）そして、男女共同参画推進委員会等を中心とする基盤整備の取り組み（本報告書第III部）を実施した。ここに、それぞれの取り組みをまとめる。

I. 広大システム改革による女性研究者活躍促進

平成26年度は女性限定公募によって、4名の新規養成女性教員を採用した。うち2件は国際公募であった。これにより、理工農系の女性教員は45名となった。4名のうち1名が講師としての採用であり、また既存の助教1名がポストアップ制度により准教授となり、准教授・講師は16名へと増加した。新規養成女性教員にはそれぞれにメンターを配置した。また、今年度も学外講師を招いたメンタリング講習会を開催したが、これには新規養成女性教員の現メンターのみでなく、広く本学構成員の関心を集め多数の参加があった。

研究支援として行った研究資金獲得実践セミナー、英語論文ライティングセミナーにはいずれも積極的及び主体的な参加者が集まり、講師から有用な助言を得ていた。女性研究者キャリアアップセミナーには若い女性研究者が先輩女性研究者の経験を聞くよい機会となった。理工農系女性教員対象の研究スキルアップ経費も積極的に活用され特に英文校閲費用としての利用が多く、若手の国際的な研究発表活動への支援となっている。

研究者コミュニティ支援としてのメーリングリストは、教員・研究者対象のものに加えて女性の大学院生対象のものも構築し、常時アップデートしている。

II. 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

平成25年度に採択された本事業の目的は、女性研究者の数の増加と、女性研究者の研究力のさらなる向上に資するため、主として中国四国地方の国公私立大学法人等、公的機関及び企業との連携を強化し、女性研究者研究活動支援の取組の他機関への普及を推進することである。そのための実施体制として、女性研究者（教員及び大学院生を含む）の研究活動における活躍を支援し、本学におけるあらゆる分野の一層の進展と、新たな独創的・学際的研究を推進することを目的として、全学委員会として「女性研究活動委員会」設置し、取組みを全学で推進している。また、委員長は学長が任命した女性教授であり、教育研究評議会の評議員となっている。さらに、中国四国地方の産学官が協働して活動する場として同委員会に設置した「産学官連絡会」を通じて、学内における取組と他機関連携の取組を効果的に進めている。同連絡会には、現在までに、官公庁、企業、大学など20以上の機関から、人事担当者や研究職に就く女性社員等にご参加いただいた。

本事業の主な取組は、「女性の大学院生支援（キャリアスタート支援）」「女性の研究者支援（アドバンスト支援）」「共同研究支援」「意識啓発」の大きく4つに分類される。各支援の対象者に向けて各種セミナーやシンポジウム、講演会や発表会等を実施する他、キャリ

アスタート支援では企業訪問や広報誌の作成・配布，インターンシップのマッチングを，アドバンスト支援では，託児サービスや外部資金の獲得等のバックアップ支援を，共同研究支援では本学女性研究者の研究シーズ集の作成を，意識啓発では女性活躍促進賞「メタセコイア賞」の候補者の選定・賞の授与を，それぞれに行うことで，本事業の目的に沿った取組を効率的に進めている。

III. 基盤整備

仕事と子育ての両立支援策として，昨年度に引き続き，東広島及び霞キャンパスにおける学内保育園と学内学童保育，病後児保育利用補助事業を行った。さらに，本年度の4月からは新たに霞キャンパスにおける乳幼児保育室を開設した。

次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の第2期行動計画において，全ての目標を達成し，第1期に引き続き，厚生労働省から2度目の認定を受けた。

女性研究者奨励賞には文系理系あわせて18件の応募があり，女性研究者の研究意欲の向上がうかがえた。

女子高校生対象には，昨年に引き続き夏休みのオープンキャンパスにおける質問・相談コーナーとしての「お茶会」，工学部及び教育学部による体験科学講座を開催することとなった。「お茶会」は女性の大学生や大学院生から気軽に話が聞ける場として非常に好評であり，理系の選択を増やすために有用であると感じる。女性大学生及び大学院生のためのBBCもコンスタントに活用されている。

男女共同参画に関する一般的な啓発活動として，男女共同参画セミナー（LGBTQの実情報告と周囲の意識改善に関するセミナー及び男性教職員の子育てに関するセミナー）を開催した。

平成27年3月1日現在で，女性教員の割合は14.3%と増加したが，女性管理職の割合は減少した。後者を増加させることは今後の大きな課題である。

平成27年3月1日

広島大学副理事（男女共同参画担当）

中坂 恵美子

広島大学の男女共同参画2014 ～平成26年度成果報告書～

発行年月：平成27年3月

編集・発行：広島大学男女共同参画推進室

所在地：〒739-8524 東広島市鏡山1-1-2

TEL:082-424-4428 FAX:082-424-4355

(無断複写・転載を禁じます)

CA
W
R